朝倉伊勢西No.3遺跡

店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１７．８

株式会社エーコープ関東
前橋市教育委員会
株式会社シン技術コンサル

朝倉伊勢西 No.3 遺跡 遠景 東から

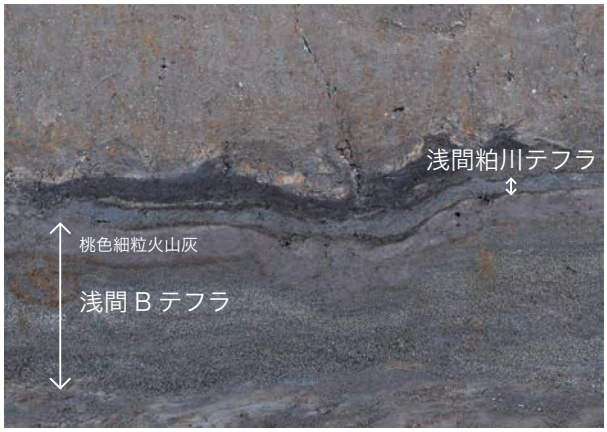
朝倉伊勢西 No.3 遺跡 全景 上が北

巻頭図版２

朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区検出全景 上が北

朝倉伊勢西№３遺跡 B 区 W － 1・8・9・10 号溝跡西壁断面 東から

朝倉伊勢西№３遺跡 B 区 W － 1 号溝跡南壁断面 北から



朝倉伊勢西№３遺跡 B 区 北東壁断面 南西から

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する朝倉伊勢西№３遺跡は、本市南東部の朝倉町に位置し、店舗建設に伴う発掘調査です。今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡や井戸跡などからなる集落跡が検出されました。現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことに厚くお礼申しあげます。

平成 29 年 8 月

前橋市教育委員会
教育長　塩　﨑　政　江

例　言

1　本書は、店舗建設工事に伴い実施された「朝倉伊勢西 No.3 遺跡」（前橋市遺跡コード：28G71）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本遺跡の所在は、群馬県前橋市朝倉町 143-1、144-1、145-1、145-4、146-1、147-2、160-1、161-1、162 である。

3　発掘調査は、平成 28 年 9 月 1 日から平成 28 年 11 月 8 日まで実施した。

4　発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、開発事業者である株式会社エーコープ関東から委託された株式会社シン技術コンサルが実施した。なお、調査経費はすべて株式会社エーコープ関東の負担によるものである。

5　調査体制は以下のとおりである。

【前橋市教育委員会】　藤坂和延・小峰 篤

【調査担当】　北村和穂・倉石広太・渡邉絵里（株式会社シン技術コンサル）

【測量担当】　歌代久志・田中隆明（株式会社シン技術コンサル）

6　整理作業は北村・倉石・渡邉・福嶋正史・小林朋恵（株式会社シン技術コンサル）が行った。

7　本書の編集は小林が行い、執筆は第Ⅰ章を小峰、第Ⅱ章・第Ⅳ章・第Ⅶ章第 2 節を小林、第Ⅲ章を北村、第Ⅴ章を渡邉、第Ⅵ章を早田 勉（株式会社火山灰考古学研究所）、第Ⅶ章第 1 節を福嶋が行った。

8　本書に掲載された遺構図版は成田典信・大和律子・山田あゆみ（株式会社シン技術コンサル）が、遺構観察表は渡邉が作成した。

9　出土遺物の整理作業及び観察表作成は、福嶋・小林・芹澤清八・河手美綾子（株式会社シン技術コンサル）が担当し、石材の鑑定は芹澤が行った。

10　自然科学分析については、株式会社火山灰考古学研究所に依頼した。

11　遺構写真は渡邉が撮影し、本書に使用する遺構写真を北村が選出した後、坂本勝一（株式会社シン技術コンサル）がデジタル処理した。遺物写真は山際哲章（株式会社シン技術コンサル）が撮影、デジタル処理した。

12　本書のデジタル編集は、大和が行った。

13　本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管している。

14　発掘調査の実施、および報告書刊行に至るまで、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。（敬称略、五十音順）

株式会社アートワーク　株式会社エーコープ関東　山下工業株式会社

新井 潔　佐藤明人　高橋清文　永井智教　中村岳彦　早田 勉　前田和昭　三浦京子　南田法正　山田誠司

15　発掘調査・整理作業参加者については次のとおりである。

【発掘調査】　青山眞佐子　飯野景三　池谷厚子　内田美和子　及川光夫　大竹 節　大塚利夫　大村美枝子　岡田廣志　角谷 勇　川田ふじ子　小林 誠　齊藤昭夫　斎藤孝義　齊藤千恵子　齋藤文子　島田敏子　都丸仲一　橋本芳男　平田 実　藤井慶昭　星野芳彦　和田 勲

【整理作業】　赤間淳子　浅見禮子　阿部 緑　池田敏雄　伊藤ひさよ　岡本敦子　柿沼幸子　河野 隆　齋藤けい子　佐藤郷子　佐藤久美子　菅原桂子　鈴木幸見　鈴木澄江　田島直美　中里洋子　畠中 朋　日野きみ子　松本悦子　山田千鶴子　六反田達子

凡　例

1　本書掲載の第 1 図は前橋市発行 1/2,500 都市計画図、第 2 図は国土地理院発行 1/25,000 地形図『前橋』をそれぞれ使用した。

2　遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については、日本測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。

3　土層及び遺物の色調は、『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・（財）日本色彩研究所色票監修 2014 版）に拠るが、担当者の主観による識別である。

4　本書における遺構種類の略号を以下に記す。

　H －竪穴住居跡　T －竪穴状遺構　D －土坑　P －ピット　I －井戸跡　W －溝跡　X －性格不明遺構

5　本文・図面に示す火山灰名を以下に記す。

　As-Kk ＝浅間 - 粕川テフラ、1128 年降下　As-B ＝浅間 B テフラ、天仁元年（1108）降下

　As-C ＝浅間 C 軽石　As-YP ＝浅間 - 板鼻黄色軽石

6　遺物番号は、遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版ともに統一してある。

7　遺物実測図の縮尺は 1/4、遺物写真の縮尺は 1/3 を基本とし、その他の場合は縮尺を記載した。

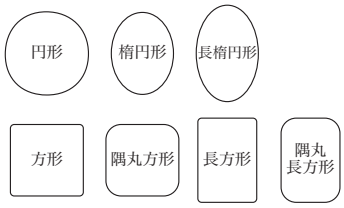
8　遺物実測図の断面において使用しているトーンの凡例は以下のとおりである。

■ 還元焔焼成　　□ 灰釉陶器

9　土坑、ピットの平面・断面形状の分類を以下に示す。

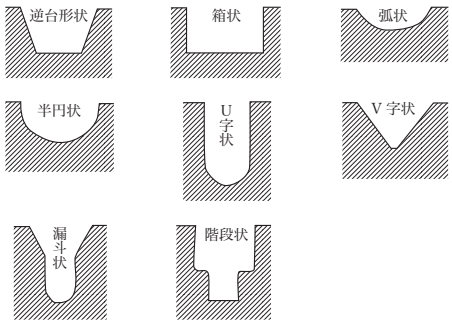
平面形状

円形	円形を基調とし、長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。
楕円形	円形を基調とし、長軸が短軸の 1.2 倍以上 1.5 倍未満のもの。
長楕円形	円形を基調とし、長軸が短軸の 1.5 倍以上のもの。
方形	方形を基調とし、長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。
隅丸方形	方形を基調とし、隅が丸く長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。
長方形	方形を基調とし、長軸が短軸の 1.2 倍以上のもの。
隅丸長方形	方形を基調とし、隅が丸く長軸が短軸の 1.2 倍以上のもの。



断面形状

逆台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	確認面の長軸よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
V 字状	点的な底部を持ち、急傾斜に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。広い中段 (テラス) を持つものも含める。



（荒川・加藤 1999 から転載、一部改変）

目　次

巻頭図版１・２
はじめに
例 言・凡 例
目 次
第Ⅰ章　調査に至る経緯……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……2
　第１節　遺跡の位置……2
　第２節　歴史的環境……2
第Ⅲ章　調査方針と経過……4
第Ⅳ章　基本層序……6
第Ⅴ章　遺構と遺物……7
　第１節　Ａ区……7
　　（１）竪穴住居跡 ……7
　　（２）竪穴状遺構 ……7
　　（３）土坑・ピット ……7
　　（４）井戸跡 ……7
　　（５）溝跡 ……8
　　（６）性格不明遺構 ……8
　第２節　Ｂ区……8
　　（１）ピット ……8
　　（２）溝跡 ……8
　　（３）畠跡 ……8
　　（４）性格不明遺構 ……8
第Ⅵ章　朝倉伊勢西 No.3 遺跡テフラ分析 …… 40
　第１節　はじめに…… 40
　第２節　土層の層序…… 40
　　（１）Ａ区Ｉ－３号井戸跡壁面 …… 40
　　（２）Ａ区Ｄ－97 号土坑 …… 40
　　（３）Ａ区Ｗ－１号溝跡 …… 41
　　（４）Ａ区Ｗ－２号溝跡 …… 41
　　（５）Ｂ区Ｗ－１号溝跡…… 42
　　（６）Ｂ区北東壁 …… 42
　第３節　テフラ検出分析…… 43
　　（１）分析試料と分析方法 …… 43
　　（２）分析結果 …… 43
　第４節　考察…… 43
　　（１）指標テフラとの同定 …… 43
　　（２）指標テフラとの関係からみた特徴的な堆積物や遺構の層位 …… 44

第５節　まとめ…… 45
第Ⅶ章　まとめ…… 46
第１節　朝倉伊勢西遺跡における集落の様相…… 46
第２節　朝倉伊勢西遺跡における用水路について…… 48
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　調査区位置図 …… 1
第 2 図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 3
第 3 図　グリッド設定図 …… 4
第 4 図　A・B 区全体図 …… 5
第 5 図　基本土層柱状図 …… 6
第 6 図　A 区分割図 1 …… 17
第 7 図　A 区分割図 2 …… 18
第 8 図　A 区分割図 3 …… 19
第 9 図　A 区 W－1～6・11・12・15・16号溝跡断面図 …… 20
第 10 図　A 区 W－7・9～16号溝跡断面図 …… 21
第 11 図　B 区分割図 1 …… 22
第 12 図　B 区 W－2～5号溝跡、X－1号性格不明遺構断面図 …… 22
第 13 図　B 区 W－1・4～6・8～11号溝跡、低地断面図 …… 23
第 14 図　A 区 H－1号住居跡、H－2・31・38号住居跡（1）…… 24
第 15 図　A 区 H－2・31・38号住居跡（2）、H－3号住居跡（1）…… 25
第 16 図　A 区 H－3号住居跡（2）、H－4号住居跡、H－5号住居跡 …… 26
第 17 図　A 区 H－6号住居跡、H－7号住居跡 …… 27
第 18 図　A 区 H－8号住居跡、H－9号住居跡 …… 28
第 19 図　A 区 H－10号住居跡、H－11号住居跡 …… 29
第 20 図　A 区 H－13号住居跡、H－16号住居跡 …… 30
第 21 図　A 区 H－17号住居跡、H－25号住居跡 …… 31
第 22 図　A 区 H－26号住居跡、H－27号住居跡 …… 32
第 23 図　A 区 H－32・33号住居跡、I－4・6号井戸跡 …… 33
第 24 図　A 区 I－3号井戸跡、B区1号畠跡 …… 34
第 25 図　A 区 H－1～3号住居跡出土遺物 …… 35
第 26 図　A 区 H－3～6号住居跡出土遺物 …… 36
第 27 図　A 区 H－6～10号住居跡出土遺物 …… 37
第 28 図　A 区 H－11・13・16・17・23～25号住居跡出土遺物 …… 38
第 29 図　A 区 H－26・31～33・38号住居跡、T－1・2号竪穴状遺構、I－3・4号井戸跡、W－1・12・13・15号溝跡、
X－1号性格不明遺構、遺構外、B区W－4号溝跡出土遺物 …… 39
第 30 図　A 区 I－3号井戸跡壁面の土層柱状図 …… 40
第 31 図　A 区 D－97号土坑の土層柱状図 …… 41
第 32 図　A 区 W－1号溝跡の土層柱状図 …… 41
第 33 図　A 区 W－2号溝跡の土層柱状図 …… 41
第 34 図　B 区 W－1号溝跡の土層柱状図 …… 42
第 35 図　B 区北東壁の土層柱状図 …… 42
第 36 図　朝倉伊勢西遺跡全体図 …… 46
第 37 図　朝倉伊勢西遺跡における古代の用水路 …… 49
第 38 図　朝倉伊勢西遺跡周辺の旧地形図 …… 50

表 目 次

第 1 表　A 区竪穴住居跡（H）観察表 ……9
第 2 表　A 区竪穴状遺構（T）観察表 …… 10
第 3 表　A 区土坑（D）観察表 …… 10
第 4 表　A・B 区ピット（P）観察表…… 11
第 5 表　A 区井戸跡（I）観察表…… 11
第 6 表　A・B 区溝跡（W）観察表 …… 12
第 7 表　B 区畠跡観察表 …… 12
第 8 表　A・B 区性格不明遺構（X）観察表（1）…… 12
第 9 表　A・B 区性格不明遺構（X）観察表（2）…… 13
第 10 表　遺物観察表（1） …… 13
第 11 表　遺物観察表（2） …… 14
第 12 表　遺物観察表（3） …… 15
第 13 表　遺物観察表（4） …… 16
第 14 表　朝倉伊勢西 No.3 遺跡における
テフラ検出分析結果 …… 43

写真図版目次

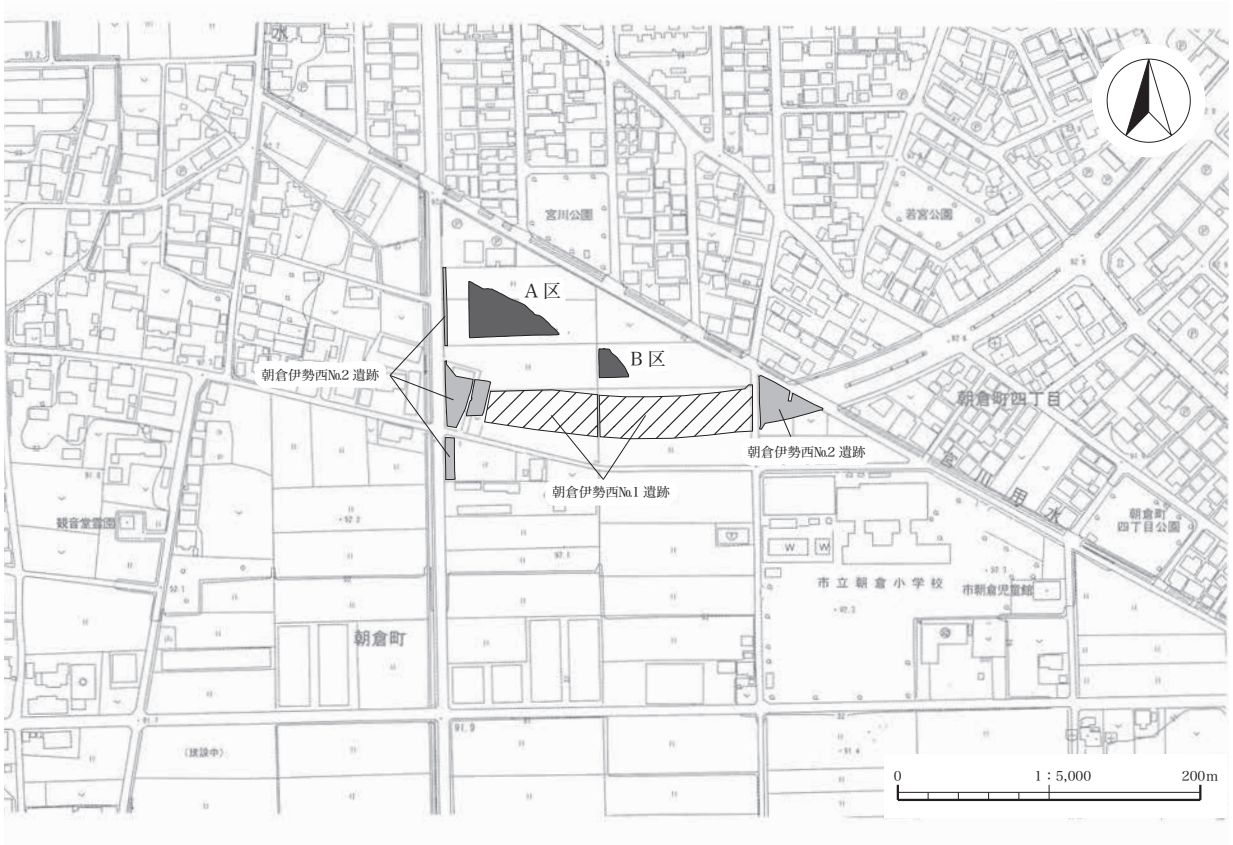
巻頭図版 1　朝倉伊勢西 No.3 遺跡 遠景、朝倉伊勢西 No.3 遺跡 全景
巻頭図版 2　朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区検出全景、朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 W － 1・8・9・10 号溝跡西壁断面、
朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 W － 1 号溝跡南壁断面、朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区北東壁断面
PL. 1　朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区 全景
A 区 H － 1 号住居跡
A 区 H － 4 号住居跡
A 区 H － 5 号住居跡
A 区 H － 5 号住居跡遺物出土状況
PL. 2　A 区 H － 3 号住居跡
A 区 H － 3 号住居跡カマド
A 区 H － 3 号住居跡遺物出土状況
A 区 H － 3 号住居跡カマド遺物出土状況
A 区 H － 6 号住居跡
A 区 H － 6 号住居跡遺物出土状況
A 区 H － 7b 号住居跡
A 区 H － 8 号住居跡
PL. 3　A 区 H － 9 号住居跡
A 区 H － 10 号住居跡
A 区 H － 13 号住居跡
A 区 H － 16 号住居跡
A 区 H － 16 号住居跡カマド遺物出土状況
A 区 H － 17 号住居跡掘り方
A 区 H － 17 号住居跡カマド
A 区 H － 17 号住居跡カマド遺物出土状況
PL. 4　A 区 H － 25 号住居跡
A 区 H － 25 号住居跡遺物出土状況
A 区 H － 27・33 号住居跡
A 区 H － 31 号住居跡遺物出土状況
A 区 H － 38 号住居跡遺物出土状況
A 区 D － 3・4・5 号土坑断面
A 区 D － 14 号土坑
A 区 D － 2・76・77 号土坑断面
PL. 5　A 区 I － 3 号井戸跡
A 区 I － 3 号井戸跡断割り
A 区 I － 4 号井戸跡
A 区 I － 6 号井戸跡
A 区 W － 1 号溝跡
A 区 W － 1 号溝跡断面
A 区 W － 2・12・15・16 号溝跡断面
PL. 6　A 区 W － 2 号溝跡断面
A 区 W － 3 号溝跡
A 区 W － 4 号溝跡
A 区 W － 5 号溝跡
A 区 W － 5 号溝跡断面
A 区 W － 9・10 号溝跡
A 区 W － 12・13・15・16 号溝跡断面 N
A 区 W － 12・13・15・16 号溝跡断面 O
PL. 7　朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 全景
B 区 W － 1 号溝跡
B 区 W － 4・5・6 号溝跡
B 区 W － 4・5・6 号溝跡断面
B 区 1 号畠跡完掘
B 区 W － 11 号溝跡断面
B 区深掘りトレンチ西壁
PL. 8　出土遺物（1）
PL. 9　出土遺物（2）
PL.10　出土遺物（3）
PL.11　出土遺物（4）
PL.12　出土遺物（5）

第Ⅰ章　調査に至る経緯

開発人である株式会社エーコープ関東（代表取締役社長　織田　展男）による店舗建設が計画される当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市 0285 遺跡・前橋市 0286 遺跡」に該当する。また、隣接する道路建設工事時にあたっても、発掘調査の実績がある。

このことから、平成 28 年 6 月 27 日に文化財保護法第 93 条第 1 項届出が提出され、工事概要が示された。近隣の調査状況から「試掘・確認調査」の必要があると判断し、開発人との協議を経て平成 28 年 7 月 19 日～20 日に試掘･確認調査を実施した。調査の結果、古墳～平安時代の住居跡等を検出した。同年 7 月 26 日、試掘・確認調査結果と文化財保護法第 93 条第 1 項の届出で示された工事計画から、遺跡に及ぼす影響が大きいことが予想された。また、遺跡保存のための工事計画変更は難しいとのことから、記録保存を目的とした発掘調査が必要な範囲を説明する。協議の後、一部設計変更されることとなり改めて工事計画が提出された。これにより発掘調査範囲を絞り込むことができた。

記録保存を目的とした発掘調査実施について開発人との間で合意に至り、事務手続きに着手した。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施していることから、直営による発掘調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになった。平成 28 年 8 月 25 日付けで開発人と民間調査組織である株式会社シン技術コンサル北関東支店との間で発掘調査・整理業務委託の契約を締結されるとともに、開発人・株式会社シン技術コンサル北関東支店・前橋市教育委員会との間で三者協定が締結され、同年 9 月 1 日から現地調査が開始された。



第 1 図　調査区位置図

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置

前橋市は、群馬県の中央部やや南に位置する中核市である。地勢を概観すると市域の北部には上毛三山の一つである赤城山の南麓が広がり、南部は関東平野の北西端部の一角を占めている。市域の北東端部には、複成火山である赤城山の外輪山で最高峰となる黒檜山（1,828 m）がある。市域北部は北から南に緩斜し、市街地の広がる平野部は海抜 100 メートル前後である。市域やや西部を南流する利根川は、中世までは前橋市市街地の北東部を流れていたが、近世初頭にほぼ現在の流路に移動したとされる（早田他 1990）。

朝倉伊勢西遺跡（1）は、前橋市役所や前橋駅が所在する前橋の中心地から約 3km 南東に位置し、南方には水田地帯が、その他は市街地が広がる。地形は利根川左岸、前橋台地上の北東縁付近となり、遺跡から約 600m 東には利根川水系の広瀬川が南東流し、約 500m 西には本遺跡から約 2.6km 北で広瀬川から分流する端気川が南流している。なお、遺跡の約 900m 北には端気川から分岐する宮川用水が南東流している。現宮川用水は昭和 40 年代の土地改良および区画整理事業に伴って宮川中流域の流路を直線的に作り変えて造成された水路であり、旧流路は埋め立てられているが、現在は道路として痕跡が残存している（藤坂・前田他 2015）。

なお朝倉伊勢西遺跡は、調査年度によって No.1 遺跡、No.2 遺跡、No.3 遺跡と区別されており、No.1 遺跡は 2011 年、No.2 遺跡は 2012 年にそれぞれ報告書が刊行されている（福田・山田 2011、福田・小林 2012）。

第２節　歴史的環境

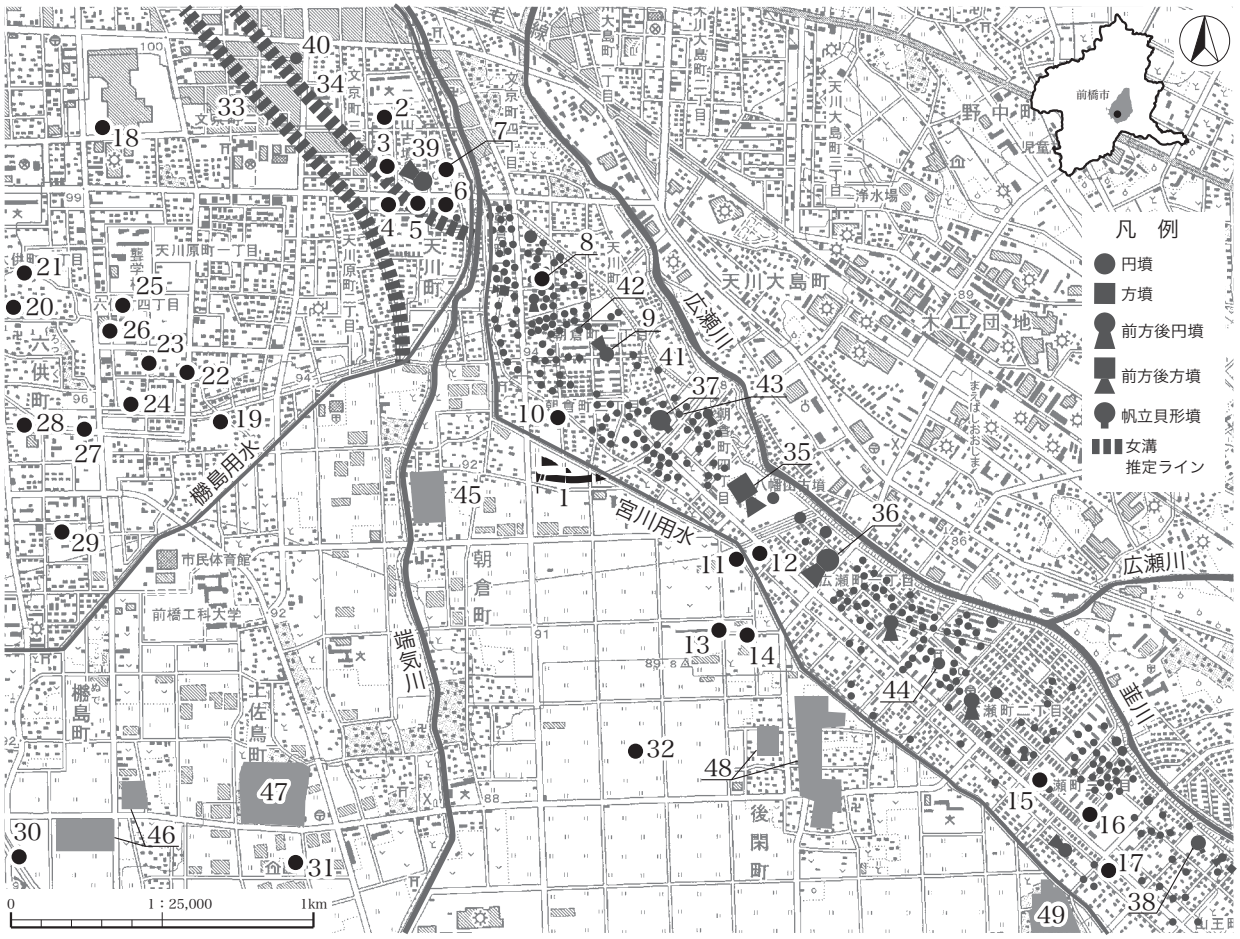
本遺跡の周辺において旧石器時代の遺跡の調査例はなく、続く縄文・弥生時代においても確認されている遺跡は少数である。櫛島川端遺跡（30）では縄文時代草創期後半の撚糸文系土器が出土しており、弥生時代中期の再葬墓と後期の集落が調査されている。

古墳時代以降は遺跡数が飛躍的に増加し、基本的には微高地上に集落や墓域が展開され、低地に水田が広がっていたと考えられる。墓域としては、前橋市朝倉・広瀬・山王町にあたる広瀬川右岸の自然堤防上が県内有数の古墳密集地帯であり、古墳時代前期と後期を中心に形成された朝倉・広瀬古墳群として知られているが、戦後の開発によって多くの古墳が削平され失われている。代表的な古墳として、前橋台地上における古墳初現期の地域首長墓である八幡山古墳（35、前方後方墳、全長約 130m）と前橋天神山古墳（36、前方後円墳、全長約 129m）を筆頭に、5 世紀後半の鶴巻塚古墳（37、帆立貝形古墳、全長約 86m）、5 世紀末～ 6 世紀初頭の亀塚山古墳（38、帆立貝式古墳、全長約 60m）、6 世紀中頃の天川二子山古墳（39、前方後円墳、全長 104 m）、6 世紀後半の不二山古墳（第 2 図外、前方後円墳、全長約 54.5m）、6 世紀末の金冠塚古墳（第 2 図外、前方後円墳、全長約 53m）などが挙げられる。この他、かつて存在していたカロウト山古墳（40、円墳、直径推定 50m）は、近年終末期の可能性が指摘されている。

集落跡は、広瀬川右岸の自然堤防上などの戦後早い段階で宅地化が進んだ地域においては実態把握が困難だが、朝倉伊勢西遺跡や後閑団地遺跡（11）、後閑Ⅱ遺跡（14）、広瀬木ノ宮遺跡（16）などにおいて古墳時代前期と古墳時代後期から平安時代までの集落が調査されている。特に朝倉伊勢西遺跡では、7 世紀末から 11 世紀前半まで継続的に集落が存続していたことがこれまでの調査で明らかにされている。この他、近年開発が進む六供町や公田町などの地域では古墳時代から平安時代の集落の調査例が増加しており、六供遺跡群 No.7（20）では 5 世紀後半の集落も確認されている。

生産関連としては、古墳時代の水田跡が、As-C 混土層や Hr-FA・Hr-FP のテフラや洪水・泥流層をてがかりとして六供下堂木Ⅱ遺跡（23）、朝倉工業団地遺跡群、公田池尻遺跡、公田東遺跡などで確認されている。朝倉・後閑水田遺跡（32）では、古墳時代の生産遺構は検出されていないが、低地部の一画と河道跡から Hr-FA 洪水層と As-C 軽石一次堆積層が確認されている。この他、上野国が甚大な被害を受けた天仁元年（1108）の浅間山噴火時に降灰した As-B テフラで埋没した平安時代末期の水田跡が多数の遺跡で調査されており、朝倉・後閑水田遺跡や宮地中田遺跡などで条里地割が確認されている。また、「女溝」と呼ばれる２条の灌漑用水遺構が平行して北西から南東方向に走行しており、調査成果から、溝の時期は１号女溝（33）が覆土中位に As-B の一次堆積層が確認できることから As-B 降下以前と判明しており、２号女溝（34）が埋土の状況から中世頃であると推定されている。

中近世については、本遺跡から南方における微高地上に朝倉環濠遺構群（45）や、後閑環濠集落（48）、山王環濠集落（49）などが確認されており、城館跡としては、亀里町に位置する宿阿内城などが知られる。



1 朝倉伊勢西遺跡	2 寄居遺跡	3 県立文書館遺跡	4 二子山前遺跡	5 二子山前Ⅱ遺跡
6 二子山前Ⅲ遺跡	7 二子山前Ⅳ遺跡	8 小旦那遺跡	9 長山遺跡	10 鎮守廻り遺跡
11 後閑団地遺跡	12 坊山遺跡	13 後閑遺跡	14 後閑Ⅱ遺跡	15 上川渕鶴巻遺跡
16 広瀬木ノ宮遺跡	17 木ノ宮遺跡	18 文京町 No.1 遺跡	19 六供遺跡群	20 六供遺跡群 No.7
21 六供遺跡群 No.8	22 六供下堂木遺跡	23 六供下堂木Ⅱ遺跡	24 六供下堂木Ⅲ遺跡	25 六供下堂木Ⅳ遺跡
26 六供下堂木Ⅴ遺跡	27 六供東京安寺遺跡	28 六供中京安寺遺跡	29 東京安寺遺跡	30 勝島川端遺跡
31 上佐鳥中原前遺跡、上佐鳥中原前Ⅱ・Ⅲ遺跡		32 朝倉・後閑水田遺跡	33 １号女溝	34 ２号女溝
35 八幡山古墳	36 前橋天神山古墳	37 鶴巻塚古墳	38 亀塚山古墳	39 天川二子山古墳
40 カロウト山古墳	41 朝倉１号墳	42 朝倉２号墳	43 朝倉３号墳	44 飯玉神社古墳
45 朝倉環濠遺構群	46 福島屋敷	47 中沢屋敷	48 後閑環濠集落	49 山王環濠集落

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第Ⅲ章　調査方針と経過

朝倉伊勢西 No.3 遺跡において、店舗建設工事に伴い調査対象となった総面積は 1,582㎡であり、平成 28 年 9 月 1 日から 11 月 8 日まで発掘調査を実施した。

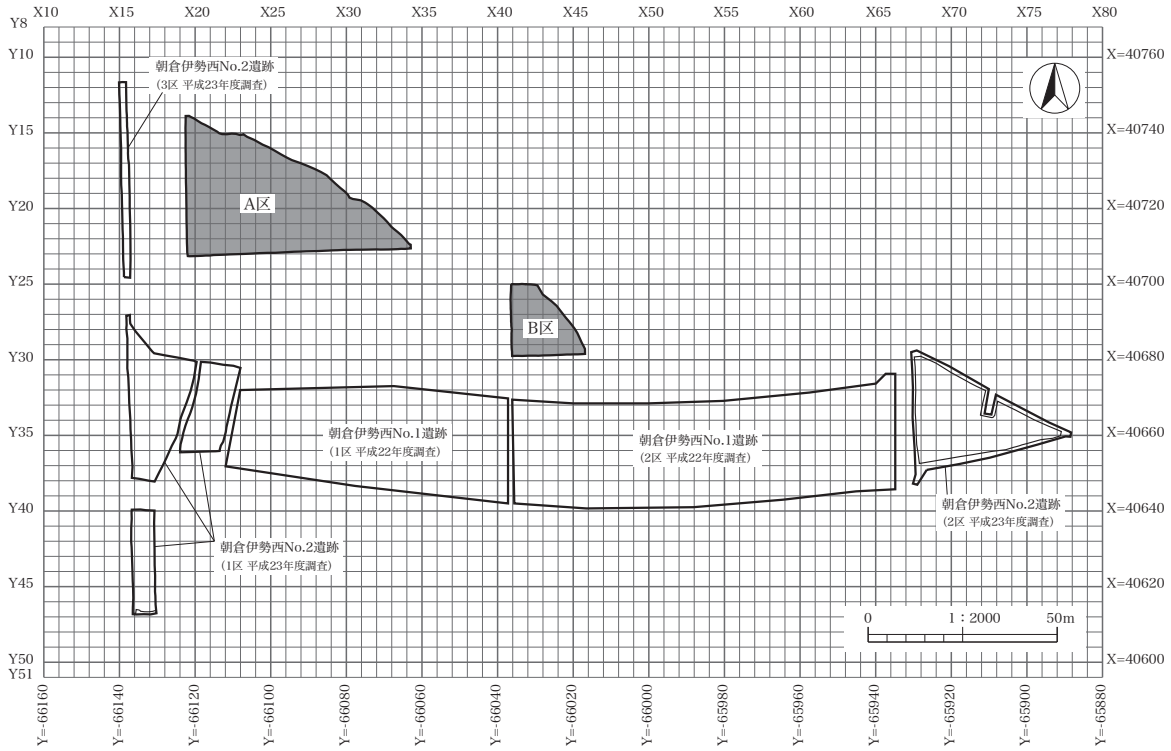
調査は 0.45㎥のバックホウを使用して表土を掘削した後、ジョレン・移植ゴテなどを用いて遺構確認・掘削を行った。調査区内の遺構は重複が激しいことから、確認面精査のみでは検出が困難であり、トレンチ掘削による断面確認を多用した。それでも確認が難しい場合はベルトを残し、平面的に掘り下げて遺構の把握に努めた。

写真記録は、35㎜カラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルムの 2 種類を使用し、デジタルカメラによる補足撮影も行った。空中写真撮影では、6×6 版モノクロネガフィルム、同カラーリバーサルフィルムも使用した。遺構の作図作業は、基本的にトータルステーション・電子平板を用いた機械測量で平・断面図を作成し、竪穴住居跡のカマドなどの断面図は手実測で行った。

グリッドは、平成 22 年に発掘調査が実施された朝倉伊勢西 No.1 遺跡（福田・山田 2011）に合わせて設定した（第 3 図）。このグリッドは日本測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系の座標軸を用い、X ＝ 40,800.0m，Y ＝－ 66,200.0m を基点 Y0・X0 として 4m 方眼を組んで設定している。グリッドの基点は北西角であり、Y は北から南へ、X は西から東へアラビア数字が序列されている。

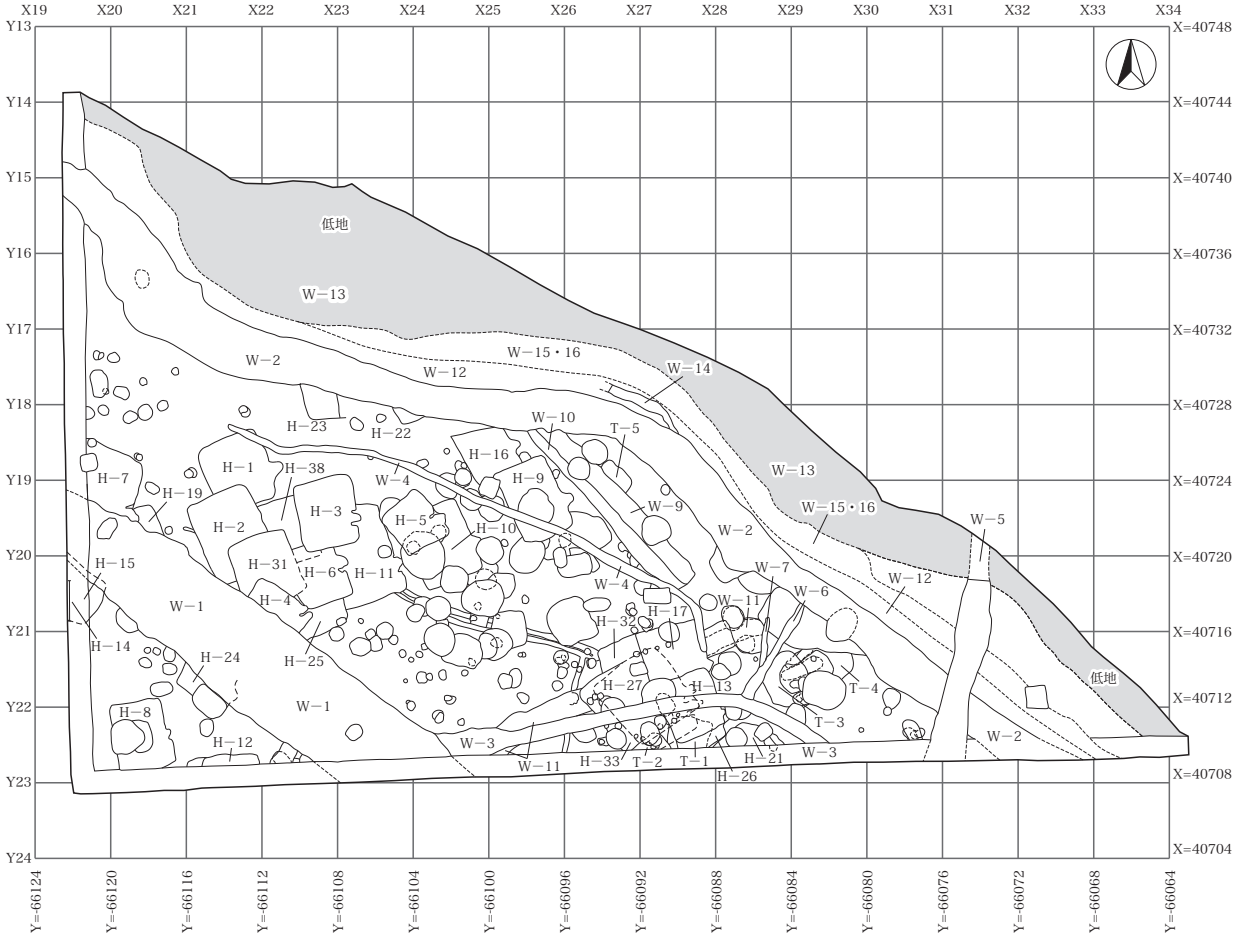
調査の経過は以下に記す。

9 月 1 日　調査開始。
9 月 9 日　駐車場設営、プレハブ・器材搬入。フェンス設置。
9 月 12 日　B 区表土掘削開始。遺構検出開始。
9 月 15 日　B 区表土掘削終了。A区表土掘削開始。
9 月 22 日　A 区表土掘削終了。
9 月 23 日　遺構検出終了。UAV（ドローン）による検出写真撮影。
9 月 26 日　A・B 区遺構調査開始。
10 月 26 日　前橋市による終了確認。
11 月 2 日　UAV（ラジコンヘリ）による空中写真撮影。
11 月 5 日　A・B 区遺構調査終了。調査区の埋め戻し開始。
11 月 7 日　器材搬出。
11 月 8 日　調査区の埋め戻し終了。

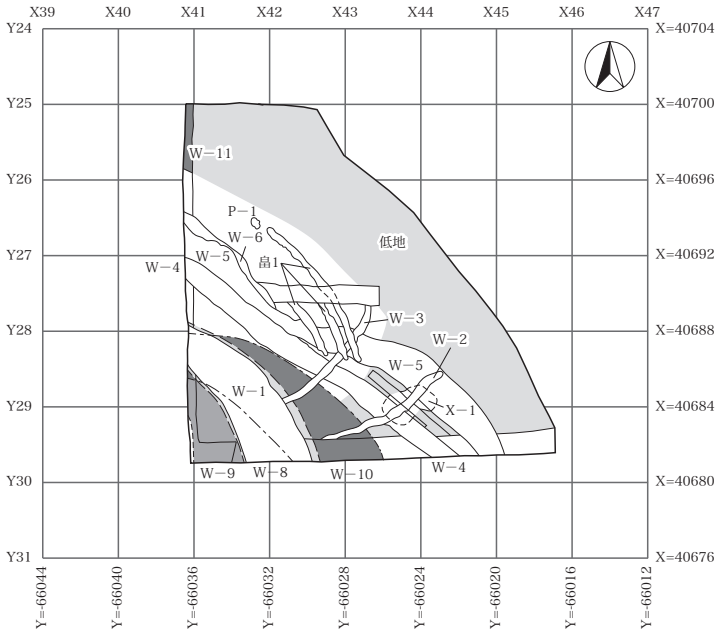


第 3 図　グリッド設定図

A 区全体図



B 区全体図



※ 土坑(D)・ピット(P)・性格不明遺構(X)
の番号は割愛。分割図参照。

0 1：400 10m

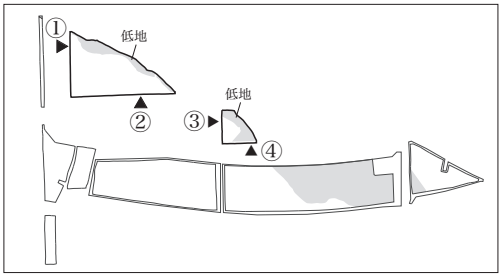
第 4 図　A・B 区全体図

第Ⅳ章　基本層序

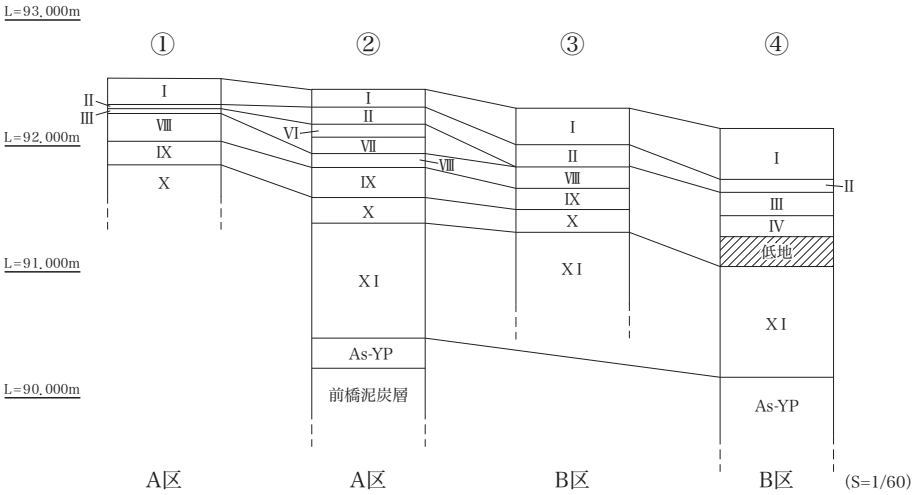
今回の調査における基本土層は、遺跡全体での層位的な理解を容易にするため、平成 23 年度に調査を実施した朝倉伊勢西 No.2 遺跡の土層と統一した。[註1]

Ⅰ層は現代の砕石盛土層及び耕作土、Ⅱ層は近世・近代の耕作土である。Ⅲ層は As-B が混入した耕作土、いわゆる As-B 混土である。Ⅳ層は As-B の一次堆積層であり、低地部や遺構の覆土中に確認されている。噴火の際最初に降下した灰色細粒火山灰ははっきりと確認できていないが、最終降下となる桃色細粒火山灰は確認できている。なお基本層序名は付さなかったが、低地では As-B の上部に間層を挟んで As-Kk が堆積している。Ⅴ層は As-B 下の古代の耕作土であるが、今回の調査では確認できなかった。Ⅵ層は低地以外で堆積している黒褐色土であり、As-C 及び Hr-FA･Hr-FP と考えられる軽石が混入している。古墳時代及び古代の遺物包含層であり､場所によって遺物の包含量が異なる。古代の遺構は本層中から掘り込まれているものが多いと考えられるが、遺構覆土と色調・土質が近似していることから、Ⅶ・Ⅷ層上面を遺構確認面とした。Ⅶ層は As-C 凝縮層であり、A 区の微高地上に部分的に堆積している。Ⅷ層は As-C と考えられる軽石が混入している黒色土、いわゆる As-C 混土である。Ⅸ層は黒褐色～褐色土層であり、Ⅹ層の漸移層である。Ⅹ・Ⅺ層は、Ⅺ層下位に As-YP 層が堆積していることから、As-YP 噴火に関係する火山泥流堆積物と考えられる。[註2] Ⅹ層はにぶい黄褐色粘質土で、朝倉伊勢西 No.2 遺跡の調査の際は多量の小礫を含んでいたが、今回の調査では含有量は比較的少ない。Ⅺ層は浅黄色または黄褐色の粘質土層で 1 m程度堆積しており、砂・シルト・礫層の互層である。Ⅺ層の下位には、上部火山灰、下部軽石から成る As-YP 層、その下位には前橋泥炭層が堆積している。

註 1 ：遺構報告に基本土層の細分が必要な場合は、各遺構図に細分した土層注記を記入している。
註 2 ：早田勉氏からの御教示による。



Ⅰ　現代の砕石・盛土層及び耕作土。盛土層及び耕作土は褐灰色やにぶい黄褐色。
Ⅱ　近世・近代の耕作土。褐灰色～にぶい黄褐色土。
Ⅲ　As-B 混土。暗褐色～褐灰色土。
Ⅳ　As-B 層。
Ⅴ　古代の耕作土。褐灰色粘質土。(No.3 遺跡では堆積なし。)
Ⅵ　As-C、Hr-FA･FP と考えられる軽石を少量含む黒褐色又は褐灰色土。古墳時代及び古代の遺物包含層。
Ⅶ　As-C 凝縮層。遺構確認面。
Ⅷ　As-C 混土。遺構確認面。
Ⅸ　黒褐色～褐色土層。
Ⅹ　にぶい黄褐色粘質土。部分的に小礫を含む。
Ⅺ　浅黄色又は黄褐色粘質土層。1 m程度堆積しており、砂・シルト・礫層の互層である。下層に As-YP 層、前橋泥炭層が堆積している。



第 5 図　基本土層柱状図

第Ⅴ章　遺構と遺物

第１節　Ａ区

（１）　竪穴住居跡　（第４・６～８・14～23・25～29図　第１・10～13表　PL.1～４・８～12）

竪穴住居跡は、29軒（Ｈ－１～17･19･21～27･31～33･38）検出された。全てＡ区のみで検出されており、重複が激しい。分布は西部及び南西部で特に密集しており、東部及び北部は希薄である。時期は、８世紀前半～中葉のＨ－32が最も古く、８世紀代が６軒（Ｈ－17・19・24・27・32・33）、９世紀代が10軒（1・６・８・10～12・15・21・25・26）、10世紀代が12軒（Ｈ－２～５・７・９・13・16・22・23・31・38）検出されている。Ｈ－14は断面のみでの検出のため、時期は不明である。８世紀代の住居跡は南東部に多く、９・10世紀代は中央部～西部にかけて多い。

竪穴住居跡の平面形状は、ほぼ方形基調である。カマドを基準とした主軸方向は、大半がＮ―35°―Ｅ～Ｎ―88°―Ｅ程度北東に傾いている。このほか、Ｈ－７・24はＮ―109°―Ｅ（Ｈ－７）・Ｎ―126°―Ｅ（Ｈ－24）南東に傾いている。規模は、一辺3.0～4.0ｍ程度のものが多く、4.5ｍ以上のものが３軒（Ｈ－２・11・33）ある。カマドは17軒（Ｈ－１・３～11・13・16・17・24・26・27・33）から検出され、基本的に東壁に付設されており、例外としてＨ－４が北壁に付設されている。燃焼部はいずれもほぼ壁内に位置しているが、Ｈ－26は45cm以上、Ｈ－33は68cm程度壁外に張り出す。Ｈ－３では、カマドの芯材に加工礫や土器が用いられていた。その他の施設としては、貯蔵穴やカマドに関連すると考えられる土坑などがある。

（２）　竪穴状遺構　（第４・６～８・29図　第２・13表　PL.1・12）

竪穴状遺構は、５基（Ｔ－１～５）検出され、低地を除く西側に位置している。平面形状は、いずれも方形基調である。Ｔ－１・４は、床面が削平され掘り方のみが検出された竪穴住居跡の可能性がある。Ｔ－２は調査区の南壁で確認できなかったため、規模等から竪穴住居跡としなかった。Ｔ－３・５は焼土や灰が確認されたため竪穴住居跡の可能性がある。時期は、Ｔ－１・２が遺物から８世紀中葉から後半、Ｔ－３は遺物や重複遺構から10世紀以降、Ｔ－４は重複遺構から10世紀以前、Ｔ－５は重複遺構から９世紀後半以前と推定される。

（３）　土坑・ピット　（第４・６～８図　第３・４表　PL.1・4）

土坑は103基（Ｄ－１～84・86～89・91・92・94～97・99～107）、ピットは102基（Ｐ－１～102）検出された。土坑・ピットともに低地部を除く調査区全域で検出され、ピットは南部で特に密集している。中央部では住居より新しい同一の特徴をもつ土坑（Ｈ－２・８・９・12・14・17・18・21）が検出された。平面形状は円形または楕円形で、長軸が1.47～2.66ｍと比較的大きく、深さは９～34cmで浅い。ピットには、柱痕跡があるものが５基（Ｐ－８･９･14･25･73）確認できたが、柱列や建物跡など規則的な配列はみられなかった。

（４）　井戸跡　（第４・６～８・23・24・29図　第５・13表　PL.1・5・12）

井戸は、3基検出された。Ｉ－３は調査区中央部、Ｉ－４が西側、Ｉ－６は東側に位置する。構造はＩ－３が石組み、Ｉ－４・６が素掘りである。平面形状はＩ－３とＩ－４が円形、Ｉ－６が隅丸方形である。断面形状はＩ－３が漏斗状、Ｉ－４はＶ字状、Ｉ－６が円筒状である。Ｉ－３は、平面隅丸方形状の掘り方をもつ。時期は、Ｉ－３から虎渓山１号窯式期の灰釉陶器が出土していることから10世紀後半以降、Ｉ－４は検出面と覆土から10世紀以降、Ｉ－６は重複するＨ－７より古いことから10世紀後半以前と推定される。

（5） 溝跡 （第4・6～11・29図　第6・13表　PL.1・5・6・12）

溝跡は、15条検出された。調査区全体で検出され、特に微高地と低地との境に複数の溝跡（W－2・12・13・14・15・16）が重複している。このうち、W－14は、W－12の掘り直しの可能性がある。走行方向は、北―南が2条（W－5・7）、東―西が1条（W－3）、北西―南東が10条（W－1・2・4・9・10・12～16）、北東―南西は2条（W－6・11）である。時期は、重複関係からW－11が一番古く、8世紀以前と推定される。W－2は底面直上にAs-B純層が堆積していることから、1108年以降に埋没したと推定される。W－12・14・15は遺構の重複関係から1108年より古い。また、覆土および遺構の重複関係からW－1・3～6は近世で、このうちW－3・6は覆土の堆積状況から同時期に存在したと推定される。

（6） 性格不明遺構 （第4・6・8・29図　第8・9・13表　PL.1・12）

性格不明遺構と判断したものは9基であり、いずれも低地を除く西側に位置している。X－2は、W－11の底面で検出しており、焼土や灰が堆積している。住居に伴う施設の可能性もあったが、住居跡が検出されなかったため性格不明遺構の範疇とした。X－3・4・12・13は、平面形状が定まらず、底面に凹凸がみられた。X－5・6・8・10は、形状・性格などが判然としないため、性格不明遺構とした。これらの時期は、重複遺構や遺物からX－3が8世紀頃、X－12は9世紀以前、X－13が9世紀中葉、X－2が9世紀以降、X－4は10世紀頃、X－5・6・8・10が10世紀以前と推定される。

第2節　B区

（1） ピット （第4・11図　第4表　PL.7）

B区で2基検出された。P－1は北西部に位置し、平面形状は楕円形である。長軸は63cm、深さが22cm、断面形は弧状である。時期は重複遺構や出土遺物がないため不明である。P－2は西壁で確認したのみである。時期は重複遺構から9～10世紀前半以降と推定される。

（2） 溝跡 （第4・11～13・29図　第6・13表　PL.7・12）

溝跡は、調査区全体で10条検出した。走行方向は北西―南東が6条（W－1・4～6・8・10）、北東―南西が2条（W－2・3）である。W－9・11は壁面で確認したのみのため、詳細は不明である。これらのうち、W－1はA区W－2、W－8はA区W－12、W－9はA区W－15、W－10はA区W－16、W－11はA区W－13に相当する。時期は、遺構の重複関係からW－2・3が10世紀以降、遺物及び遺構の重複関係からW－4～6が9～10世紀前半以降と推定される。

（3） 畠跡 （第4・11・24図　第7表　PL.7）

B区中央部に畠のサクと推定される小規模な溝状遺構が検出された。溝幅が15～30cm、深さ3～8cm、長さ3～9m程の溝跡が規則的に平行することから、畠跡と認識した。畠1～3は、ほぼ平行して掘られており、これらが一単位の畠とみられる。これらの方向は、N―24°～33°―Wである。

（4） 性格不明遺構 （第4・11図　第9表　PL.7）

性格不明遺構と判断したものは、南部にあるX－1である。やはり形状・性格などが判然としない。時期は、遺構の重複関係から9世紀以前と推定される。

第１表　A 区竪穴住居跡（H）観察表

（　）は推定値・残存値

番号	グリッド		平面形状	主軸方向	規模（m）			床面積（㎡）	カマド（m）			時期		重複関係・備考
	X	Y			長軸	短軸	深さ		位置	奥行	燃焼部幅 焚口幅	時期	判断基準	
1	21･22	18･19	方形	N-66°-E	3.82	3.51	0.29	13.41	東壁	1.01	0.30 0.30	9 世紀 第 4 四半期	出土遺物	H-2、W-4 より古い。
2	21･22	19･20	長方形	N-64°-E	4.58	3.55	0.15	16.26	—	—	—	10 世紀初頭	出土遺物	H-1 より新しく、H-31･38、W-1 より古い。
3	22･23	18･19	方形	N-78°-E	3.70	3.13	0.22	11.58	東壁	0.70	0.32 0.34	10 世紀前半	出土遺物	H-6･11･38 より新しい。
4	21･22	20･21	方形か 長方形	N-35°-E	3.37	(1.53)	0.20	(5.16)	北壁	0.60	0.24 —	10 世紀後半	出土遺物	H-6･25･31 より新しく、W-1 より古い。
5	23･24	19	方形	N-49°-E	3.04	2.59	0.10	7.87	東壁	0.80	0.55 (0.65)	10 世紀前半	出土遺物	H-10･11、D-14･52･64･106 より新しい。
6	22･23	19･20	方形	N-72°-E	3.32	2.85	0.33	9.46	東壁	1.02	0.56 0.53	9 世紀 第 4 四半期	出土遺物	H-11･25 より新しく、H-3･4･31･38 より古い。 覆土中位に炭化物集中層あり。
7	19･20	18･19	方形か 長方形	N-109° -E	(3.48)	(3.26)	7a0.12 7b0.19	(11.34)	東壁	0.84	(0.48) (0.53)	10 世紀後半	出土遺物	H-19、I-6 より新しく、P-1、W-1 より古い。
8	19･20	21･22	長方形	N-80°-E	3.74	3.01	0.35	11.26	東壁	0.37	0.33 0.32	9 世紀 第 2 四半期	出土遺物	D-69 より新しく、D-66 より古い。
9	25･26	18･19	長方形	N-66°-E	4.22	2.83	0.23	11.94	東壁	1.11	0.43 0.46	10 世紀後半	出土遺物	H-16、D-22･62･85･90、P-66･68 より新しく、D-19、W-4 より古い。 煙道長 0.35m 煙道幅 0.50m。
10	23･24	19･20	長方形	N-68°-E	4.08	3.20	0.27	13.06	東壁	0.90	0.44 0.44	9 世紀前半	出土遺物	D-52･76 より新しく、H-5、D-2･14･21･106 より古い。
11	22･23	19･20	長方形	N-75°-E	5.16	(3.47)	0.21	(17.90)	東壁	(0.43)	0.50 —	9 世紀前半	出土遺物	H-3･5･6･25、D-14･64･99 より古い。
12	21	22	方形か 長方形	N-88°-E	3.04	(1.69)	0.17	(5.14)	—	—	—	9 世紀	出土遺物	D-48 より新しい。
13	27･28	21･22	方形	N-67°-E	3.29	3.04	0.30	10.00	東壁	0.70	0.20 0.29	10 世紀	出土遺物	H-17･26･33、T-1、D-95･96、P-101 より新しく、D-25、W-3 より古い。
14	19	20	不明	—	(2.13)	—	0.20	—	—	—	—	不明	—	H-15 より新しい。調査区壁でのみ確認。
15	19	20	方形か 長方形	N-122° -E	(2.69)	(2.62)	0.30	(7.05)	—	—	—	9 世紀	出土遺物	H-14、W-1 より古い。
16	24･25	18･19	長方形	N-61°-E	(2.98)	(2.61)	0.12	(7.75)	東壁	(0.50)	0.50 —	10 世紀中葉	出土遺物	P-62･66 より新しく、H-9、D-19、W-2 より古い。
17	27	21	方形	N-67°-E	(4.26)	3.38	0.25	(14.40)	東壁	0.90	(0.43) (0.45)	8 世紀末	出土遺物	H-32、D-63、P-83･84、W-11 より新しく、H-3･13、D-25･39･44、P-40･70･71、W-4 より古い。
18	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	20	19	方形か 長方形	N-68°-E	(1.90)	(0.95)	0.12	(1.81)	—	—	—	8 世紀後半	出土遺物	H-7、W-1 より古い。
20	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	27･28	22	方形か 長方形	N-43°-E	(2.34)	(2.19)	0.12	(5.12)	—	—	—	9 世紀	出土遺物	X-12 より新しく、D-27･32 より古い。
22	23･24	17･18	方形か 長方形	N-70°-E	(1.29)	(1.10)	0.07	(1.42)	—	—	—	10 世紀前半	出土遺物	W-2 より古い。
23	22･23	17･18	方形か 長方形	N-88°-E	(1.94)	(1.76)	0.07	(3.41)	—	—	—	10 世紀後半	出土遺物	W-2 より古い。
24	20･21	21	方形か 長方形	N-126° -E	(3.03)	(2.03)	0.33	(6.15)	東壁	(0.43)	—	8 世紀末～ 9 世紀初頭	出土遺物	D-51、W-1 より古い。
25	22･23	20･21	方形か 長方形	N-64°-E	(3.50)	(2.40)	0.33	(8.40)	—	—	—	9 世紀中葉	出土遺物	H-11 より新しく、H-4･6･31、D-6･7、W-1 より古い。
26	27･28	22	方形か 長方形	N-64°-E	(2.63)	(1.86)	0.28	(4.89)	東壁	(0.52)	(0.23) (0.43)	9 世紀末	出土遺物	T-1 より新しく、H-13、D-40 より古い。
27	27･26	21･22	方形か 長方形	N-46°-E	(4.20)	(4.02)	0.38	(16.88)	東壁	(0.33)	(0.46) —	8 世紀後半	出土遺物	H-32･33、T-1･2、D-91･92･95･96、P-65･81･82･83･90･91･92･97･98･101･102 より新しく、H-13･17、D-24･25･26･44、W-3 より古い。
28	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31	21･22	19･20	方形か 長方形	N-68°-E	(3.67)	3.32	0.25	(12.18)	—	—	—	10 世紀前半	出土遺物	H-2･6･25･38 より新しく、H-4、W-1 より古い。
32	26･27	20･21	方形か 長方形	N-64°-E	(2.23)	(1.16)	0.25	(2.59)	—	—	—	8 世紀前半 ～中葉	出土遺物	P-81 より新しく、H-17･27･33 より古い。
33	26	21	方形	N-55°-E	(4.98)	4.41	0.36	(21.96)	東壁	0.98	0.32 0.50	8 世紀後半	出土遺物	H-32、T-1･2、D-91･92･95･96、P-65･75･90～98･101･102･107、W-11 より新しく、H-13･26･27、D-23～26･44･96、P-39、W-3 より古い。
34	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
36	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
37	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
38	21･22	19	方形か 長方形	N-70°-E	(2.74)	(1.98)	0.32	(4.90)	—	—	—	10 世紀前半	出土遺物	H-2･6 より新しく、H-3･31 より古い。

第２表　Ａ区竪穴状遺構（T）観察表

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	平面形状	壁形状	長軸方向	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	時期	重複関係・備考
A区	1	27	22	（隅丸方形）	斜め	N-7°-E	2.26	(1.72)	0.21	8 世紀中葉〜後半	D-95 より新しく、H-13･26･27･33、T-2、P-65 より古い。
	2	26･27	22	（隅丸方形）	斜め	N-38°-W	(1.70)	(1.31)	0.21	8 世紀後半	T-1、D-107、P-91 〜 95 より新しく、H-13･33、D-24 より古い。
	3	28･29	21	（隅丸長方形）	斜め	N-27°-W	3.11	2.37	0.22	10 世紀以降	D-89、P-76･77、X-5･6･8･10 より新しく、D-28、I-4、W-6 より古い。
	4	29	21	（隅丸長方形）	斜め	—	(2.60)	(2.09)	0.15	10 世紀以前	X-6･8 より新しく、T-3、P-72、I-4、X-3 より古い。
	5	26	18･19	（隅丸方形）	斜め	N-39°-E	1.89	(0.81)	0.10	9 世紀後半以前	W-9 より古い。

第３表　Ａ区土坑（D）観察表

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	平面形状	断面形状	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	底面標高（m）
A区	1	27･28	19･20	（楕円形）	逆台形状	2.11	(1.35)	0.48	91.39
	2	24･25	19･20	円形	弧状	1.46	1.39	0.14	91.96
	3	23	21	円形	弧状	1.01	0.98	0.10	91.94
	4	23	20･21	円形	弧状	0.93	0.88	0.17	91.90
	5	23	21	（楕円形）	半円状	(0.83)	(0.69)	0.42	91.65
	6	22･23	20･21	円形	弧状	0.79	0.76	0.08	91.95
	7	22･23	20	楕円形	弧状	0.55	0.36	0.14	91.92
	8	24	20･21	円形	逆台形状	1.73	1.60	0.27	91.84
	9	24	21	（楕円形）	逆台形状	(1.90)	1.73	0.29	91.83
	10	24	21	隅丸方形	U 字状	0.58	(0.56)	0.46	91.66
	11	26	18	円形	逆台形状	1.26	1.17	0.43	91.68
	12	26	18	円形	弧状	1.47	1.23	0.17	91.90
	13	19	17	楕円形	弧状	1.46	0.89	0.12	91.96
	14	23･24	19･20	円形	箱状	2.66	2.29	0.26	91.80
	15	24	19	（楕円形）	逆台形状	(1.15)	1.06	0.41	91.68
	16	24･25	19	（円形）	箱状	(1.38)	(1.36)	0.41	91.69
	17	27	19	（円形）	逆台形状	1.61	1.58	0.34	91.69
	18	24･25	20	円形	弧状	2.28	2.10	0.25	91.84
	19	24･25	18･19	方形	逆台形状	1.06	0.98	0.46	91.62
	20	25･26	19･20	楕円形	弧状	1.08	0.67	0.13	91.96
	21	24	20	円形	弧状	1.58	1.54	0.09	91.99
	22	25	19･20	（楕円形）	弧状	(2.04)	1.70	0.12	91.97
	23	26	22	円形	逆台形状	1.10	1.01	0.22	91.72
	24	27	22	楕円形	逆台形状	1.25	0.99	0.33	91.59
	25	27	21	（円形）	逆台形状	1.82	1.45	0.52	91.44
	26	26	21･22	（円形）	弧状	(1.30)	(0.64)	0.23	91.44
	27	28	22	（円形）	逆台形状	1.13	(0.98)	0.28	91.63
	28	28･29	21･22	（楕円形）	逆台形状	1.11	(0.99)	0.39	91.64
	29	24･25	21	（楕円形）	弧状	1.34	(0.89)	0.22	91.89
	30	24･25	20･21	（円形）	弧状	(1.75)	1.66	0.26	91.83
	31	25	20･21	（方形）	弧状	(2.01)	1.85	0.15	92.00
	32	28	22	隅丸方形	逆台形状	0.90	0.77	0.23	91.71
	33	20	21	楕円形	逆台形状	0.71	0.5	0.29	91.81
	34	20	21	楕円形	弧状	0.74	0.62	0.31	91.79
	35	20	21	隅丸長方形	逆台形状	1.19	0.74	0.34	91.74
	36	20	20･21	（楕円形）	逆台形状	1.51	(1.09)	0.34	91.74
	37	27･28	20	円形	弧状	0.92	0.88	0.13	91.86
	38	26･27	20	（円形）	弧状	(0.88)	(0.84)	0.10	91.95
	39	27	20･21	円形	逆台形状	1.12	1.04	0.34	91.64
	40	28	21･22	（楕円形）	弧状	0.87	(0.68)	0.20	91.72
	41	28	22	（楕円形）	逆台形状	(0.54)	(0.37)	0.25	91.67
	42	27･28	21	楕円形	箱状	1.02	0.85	0.31	91.66
	43	28	21	円形	箱状	1.24	(1.18)	0.28	91.66
	44	26･27	21	長方形	弧状	0.88	0.63	0.10	91.43
	45	22	22	（楕円形）	逆台形状	(1.49)	0.93	0.18	91.88
	46	22	22	（楕円形）	逆台形状	(1.03)	(0.45)	0.20	91.84
	47	26	22	（楕円形）	逆台形状	1.06	(0.67)	0.16	91.85
	48	21	22	（楕円形）	逆台形状	(1.07)	(0.46)	0.23	91.90
	49	20	21	（楕円形）	逆台形状	(0.91)	0.63	0.34	91.77
	50	21	22	楕円形	逆台形状	0.93	0.72	0.28	91.80
	51	21	21･22	長方形	逆台形状	1.88	1.22	0.37	91.71
	52	23･24	19	円形	逆台形状	(0.71)	(0.66)	0.17	91.66
	53	30	21･22	（円形）	弧状	(0.99)	0.96	0.11	91.83
	54	25･26	21	円形	弧状	0.81	0.72	0.08	91.88
	55	25･26	21	楕円形	逆台形状	0.62	0.51	0.13	91.98
	56	24	20	円形	逆台形状	1.30	(1.29)	0.30	91.78
	57	26	20	楕円形	逆台形状	2.08	0.69	0.10	91.97
	58	30	22	（楕円形）	U 字状	(0.73)	0.57	0.35	91.66
	59	23･24	20	円形	弧状	0.99	0.86	0.14	91.93
	60	23･24	20	（円形）	逆台形状	(1.02)	(0.87)	0.12	91.96
	61	20	19	楕円形	逆台形状	0.81	0.51	0.26	91.70
	62	25	19	（円形）	弧状	1.89	(1.84)	0.33	91.55
	63	27･28	20･21	（方形）	逆台形状	(1.87)	1.48	0.14	91.82
	64	23	19	（楕円形）	逆台形状	(1.50)	(0.72)	0.08	91.98
	65	23	18	楕円形	逆台形状	0.78	0.57	0.30	91.70
	66	20	22	円形	逆台形状	1.82	1.78	0.35	91.44
	67	24	18･19	円形	弧状	0.92	0.92	0.19	91.97
	68	24	18	（隅丸長方形）	弧状	(0.60)	0.42	0.29	91.78
	69	20	22	（楕円形）	弧状	1.71	(0.99)	0.15	91.51
	70	24	20	（円形）	弧状	1.02	(0.85)	0.07	92.00
	71	26	19･20	（楕円形）	逆台形状	(0.69)	(0.49)	0.21	91.85
	72	26	19･20	（楕円形）	逆台形状	(0.36)	(0.27)	0.06	92.00
	73	26	19	（楕円形）	逆台形状	(0.66)	(0.46)	0.20	91.88
	74	25･26	19･20	隅丸長方形	逆台形状	1.83	1.12	0.27	91.81
	75	24･25	20	（円形）	逆台形状	1.45	(1.20)	0.11	91.97
	76	24･25	20	—	弧状	1.80	(1.20)	0.12	91.96
	77	24･25	20	（円形）	箱状	(1.13)	(1.06)	0.43	91.57
	78	24	20	（長方形）	V 字状	0.65	(0.39)	0.41	91.68
	79	24	18	（楕円形）	箱状	(0.54)	(0.43)	0.33	91.37
	80	28	20	楕円形	弧状	1.30	0.98	0.12	91.80
	81	28	20･21	（円形）	弧状	1.90	(1.82)	0.12	91.81
	82	24	19	（楕円形）	弧状	(0.68)	(0.42)	0.10	91.95
	83	24	18･19	円形	逆台形状	1.39	(1.30)	0.48	91.59
	84	25･26	19	（楕円形）	逆台形状	0.80	0.68	0.27	91.58
	85	欠番	—	—	—	—	—	—	—
	86	28	20	円形	弧状	1.22	1.14	0.26	91.61
	87	28	21	（円形）	逆台形状	(1.02)	(0.96)	0.38	91.53
	88	26	19･20	（隅丸長方形）	弧状	(1.02)	(0.63)	0.16	91.94
	89	29	21･22	（楕円形）	弧状	0.81	(0.66)	0.40	91.59
	90	欠番	—	—	—	—	—	—	—
	91	27	22	（円形）	弧状	0.72	(0.63)	0.17	91.39
	92	26	21･22	（楕円形）	弧状	(0.88)	(0.66)	0.15	91.41
	93	欠番	—	—	—	—	—	—	—
	94	32	21･22	方形	弧状	1.24	1.13	0.14	91.77
	95	27	22	（楕円形）	弧状	(0.45)	(0.41)	0.15	91.38
	96	27	21･22	（楕円形）	逆台形状	1.21	0.86	0.22	91.31
	97	22	22	（円形）	半円状	(0.50)	(0.39)	0.24	91.85
	98	欠番	—	—	—	—	—	—	—
	99	23	19･20	円形	逆台形状	0.70	0.65	0.29	91.73
	100	30	22	（楕円形）	逆台形状	(1.17)	0.78	0.14	91.98
	101	29	21	（楕円形）	階段状	(1.98)	1.46	0.53	91.14
	102	23	22	楕円形	逆台形状	(0.93)	(0.82)	0.49	91.00
	103	22	22	（楕円形）	箱状	(0.98)	(0.73)	0.71	91.32
	104	19･20	19	（楕円形）	階段状	(1.36)	(0.76)	0.93	90.68
	105	20	16	（楕円形）	逆台形状	(0.98)	(0.72)	0.36	91.07
	106	24	19	円形	弧状	0.92	0.80	0.16	91.42
	107	27	22	円形	弧状	0.66	0.62	0.13	91.43

第４表　A・B区ピット（P）観察表

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	平面形状	断面形状	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	底面標高（m）
A区	1	19	18	円形	逆台形状	0.47	0.46	0.17	91.89
	2	20	18	円形	半円状	0.34	0.32	0.18	91.85
	3	20	18	(円形)	V字状	0.32	(0.25)	0.17	91.85
	4	23	20	円形	逆台形状	0.28	0.24	0.11	91.95
	5	23	21	円形	逆台形状	0.21	0.20	0.09	91.97
	6	23	21	楕円形	逆台形状	0.42	0.37	0.15	91.92
	7	24	21	円形	U字状	0.38	0.33	0.29	91.82
	8	19	18	円形	逆台形状	0.61	0.51	0.26	91.82
	9	20	18	楕円形	逆台形状	0.78	0.58	0.53	91.54
	10	20	17	楕円形	逆台形状	0.85	0.62	0.15	91.94
	11	19・20	17	円形	逆台形状	0.65	0.55	0.10	91.99
	12	20	17・18	円形	弧状	0.86	0.77	0.20	91.84
	13	20	17・18	円形	弧状	0.61	0.52	0.21	91.85
	14	20	17	円形	漏斗状	0.42	0.38	0.43	91.66
	15	20	17	円形	U字状	0.40	0.37	0.43	91.66
	16	23	20・21	隅丸長方形	半円状	0.54	0.43	0.19	91.77
	17	24	21	円形	逆台形状	0.38	0.32	0.18	91.92
	18	23・24	21	円形	V字状	0.26	0.26	0.18	91.89
	19	24	21	円形	逆台形状	0.36	0.31	0.26	91.85
	20	24	21	楕円形	逆台形状	0.55	0.39	0.40	91.72
	21	19	17	楕円形	逆台形状	0.41	0.25	0.15	91.95
	22	23・24	21・22	円形	半円状	0.50	0.44	0.31	91.69
	23	23	21	(円形)	V字状	0.23	(0.14)	0.22	91.79
	24	24	22	楕円形	U字状	0.60	0.41	0.41	91.60
	25	24	22	(楕円形)	U字状	0.60	(0.36)	0.41	91.60
	26	19	17	(楕円形)	U字状	0.48	(0.35)	0.70	91.41
	27	24	21	楕円形	U字状	0.40	0.28	0.31	91.75
	28	26	20・21	円形	半円状	0.36	0.32	0.18	91.77
	29	24	21	(楕円形)	半円状	0.56	(0.40)	0.13	91.86
	30	25	21	円形	弧状	0.81	0.76	0.07	92.03
	31	25	21	(楕円形)	U字状	1.05	(0.66)	0.53	91.56
	32	19	17	(円形)	逆台形状	(0.33)	(0.31)	0.32	91.77
	33	20・21	18	円形	逆台形状	0.46	0.45	0.28	91.73
	34	21	18	(楕円形)	逆台形状	0.56	(0.46)	0.57	91.43
	35	21	18	円形	逆台形状	0.44	0.38	0.48	91.58
	36	21	18	(円形)	逆台形状	0.51	(0.44)	0.43	91.63
	37	20	21	円形	逆台形状	0.34	0.31	0.28	91.82
	38	20	21	隅丸方形	逆台形状	0.40	0.33	0.23	91.88
	39	26	22	円形	V字状	0.22	(0.19)	0.31	91.62
	40	26・27	20	楕円形	U字状	0.70	0.49	0.30	91.68
	41	30	21・22	円形	弧状	0.46	0.42	0.13	91.92
	42	30	22	(楕円形)	V字状	(0.53)	(0.43)	0.54	91.49
	43	20	19	円形	箱状	0.44	0.42	0.25	91.72
	44	26	22	(隅丸方形)	U字状	(0.50)	(0.47)	0.57	91.35
	45	25	21	円形	弧状	0.56	0.55	0.19	91.90
	46	25	21	楕円形	階段状	0.68	0.51	0.51	91.61
	47	25・26	21	(楕円形)	半円状	(0.30)	(0.25)	0.16	91.88
	48	25	21	(楕円形)	半円状	(0.49)	(0.32)	0.39	91.64
	49	25・26	21	(楕円形)	逆台形状	0.54	(0.37)	0.38	91.72
	50	25	19	楕円形	逆台形状	0.40	0.32	0.23	91.86
	51	23	18	楕円形	弧状	0.52	0.42	0.13	91.86
	52	29	22	円形	弧状	0.25	0.25	0.14	91.91
B区	1	41	26	楕円形	弧状	0.63	0.44	0.22	91.43
	2	27	40	不明	U字状	0.20	不明	0.44	91.41

番号	グリッド X	グリッド Y	平面形状	断面形状	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	底面標高（m）
53	24	18	円形	U字状	0.31	0.30	0.22	91.79
54	25	21	円形	逆台形状	0.62	0.52	0.28	91.52
55	25	21	円形	弧状	0.24	0.22	0.09	92.00
56	25	21	(円形)	逆台形状	0.26	(0.22)	0.08	92.00
57	24	21	(楕円形)	半円状	(0.47)	(0.38)	0.29	91.57
58	25	20	(楕円形)	箱状	0.46	0.35	0.31	91.77
59	24	20	(楕円形)	弧状	(0.36)	(0.33)	0.26	91.85
60	24	20	(円形)	逆台形状	(0.42)	(0.38)	0.18	91.65
61	23	18	(円形)	半円状	(0.30)	(0.28)	0.17	91.85
62	24	18	円形	弧状	0.34	0.29	0.09	91.93
63	24	21	(隅丸方形)	V字状	(0.39)	0.33	0.20	91.89
64	27	19	円形	弧状	0.56	0.48	0.09	91.88
65	27	22	隅丸方形	半円状	0.28	0.25	0.22	91.32
66	25	18	(円形)	逆台形状	0.63	(0.35)	0.18	91.88
67	28	21	円形	U字状	0.24	0.21	0.25	91.66
68	25	18	楕円形	弧状	0.48	0.38	0.21	91.89
69	26	20	隅丸方形	逆台形状	0.40	0.36	0.25	91.74
70	27	20	(楕円形)	逆台形状	0.45	(0.35)	0.24	91.73
71	27	20・21	(楕円形)	半円状	(0.60)	(0.39)	0.31	91.65
72	29	21	隅丸方形	逆台形状	0.28	0.26	0.16	91.64
73	26	20	(楕円形)	U字状	0.46	(0.35)	0.39	91.63
74	19	18	(円形)	弧状	0.68	(0.47)	0.19	91.89
75	26	22	(円形)	U字状	0.35	(0.34)	0.22	91.40
76	29	21	(楕円形)	逆台形状	(0.32)	(0.21)	0.17	91.47
77	29	21	(楕円形)	逆台形状	(0.35)	(0.25)	0.18	91.43
78	26	20	(隅丸方形)	逆台形状	(0.49)	(0.48)	0.52	91.49
79	26	21	(円形)	箱状	(0.33)	(0.32)	0.14	91.83
80	26	21	隅丸方形	U字状	0.33	0.32	0.36	91.72
81	26	21	円形	逆台形状	0.35	0.28	0.11	91.58
82	27	21	楕円形	半円状	0.29	0.24	0.20	91.49
83	27	21	円形	半円状	0.19	0.19	0.14	91.57
84	27	21	隅丸方形	U字状	0.27	0.26	0.27	91.33
85	26	21	(楕円形)	逆台形状	(0.43)	(0.06)	0.14	91.85
86	26	21	(楕円形)	逆台形状	0.54	0.43	0.10	91.85
87	26	21	(楕円形)	逆台形状	0.31	0.27	0.35	91.72
88	25	20	(円形)	U字状	(0.26)	(0.22)	0.29	91.70
89	30	22	(楕円形)	U字状	0.42	(0.25)	0.45	91.44
90	26	22	(円形)	弧状	(0.22)	(0.19)	0.08	91.29
91	27	22	(円形)	逆台形状	(0.24)	(0.21)	0.11	91.27
92	27	22	(円形)	弧状	(0.23)	(0.19)	0.10	91.34
93	27	22	(円形)	V字状	(0.15)	(0.10)	0.08	91.41
94	27	22	(隅丸方形)	弧状	(0.21)	(0.20)	0.11	91.41
95	27	22	(楕円形)	弧状	(0.31)	(0.25)	0.11	91.45
96	26	21	隅丸長方形	逆台形状	0.37	0.30	0.30	91.33
97	26	21	隅丸方形	逆台形状	0.31	0.27	0.15	91.39
98	26	21	(隅丸長方形)	弧状	(0.41)	0.31	0.11	91.39
99	24	22	楕円形	逆台形状	0.39	0.36	0.28	91.74
100	23	21	円形	逆台形状	0.48	0.45	0.19	91.86
101	27	22	楕円形	弧状	0.21	0.16	0.03	91.33
102	27	22	円形	逆台形状	(0.30)	(0.27)	0.13	91.43

第５表　A区井戸跡（I）観察表

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	構造	断面形状	平面形状	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	底面標高（m）	時期	重複関係・備考
A区	1	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	25・26	20・21	石組み	漏斗状	円形	2.39	2.27	1.89	90.18	10世紀後半以降	D-57より古い。掘り方の平面形状は隅丸方形。
	4	29	21・22	素掘り	V字状	円形	2.29	1.90	1.87	90.17	10世紀以降	T-3・4、D-89、P-76、X-5・6より新しい。
	5	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	19	18	素掘り	円筒状	(隅丸方形)	0.91	(0.90)	1.60	90.07	10世紀後半以前	H-7より古い。

第６表　A・B 区溝跡（W）観察表

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	断面形状	走行方向	規模（m）検出長	規模（m）幅	規模（m）深さ（約）	底面標高（m）	時期・備考
A 区	1	20～24	19～22	逆台形状	北西―南東（N-54°-W）	27.04	3.89～5.32	0.48～0.96	91.11～91.52	近世
	2	19～32	14～22	弧状	北西―南東（N-59°-W）	59.96	1.42～3.76	0.19～0.64	91.19～91.50	1108 年以前 As-B で埋没
	3	24～29	21･22	箱状	西―東（N-78°-E）／北西―南東（N-60°- W）	15.38／5.28	0.68～1.44	0.28～0.52	91.52～91.72	近世
	4	21～27	18～21	弧状	北西―南東（N-66°-W）／ 北西―南東（N-11°- W）	26.49／2.41	0.24～0.61	0.10～0.18	91.91～92.10	近世か
	5	30･31	20～22	V 字状	北東―南西（N-9°-E）	12.35	1.34～1.85	0.68～0.91	90.98～91.24	近世
	6	28･29	20･21	逆台形状	北東―南西（N-31°-E）	5.82	0.27～0.61	0.05～0.13	91.77～91.77	近世
	7	28	20･21	逆台形状	北東―南西（N-6°-E）	2.69	0.20～0.34	0.06～0.11	91.80～91.89	古代～近世
	8	欠番	―	―	―	―	―	―	―	―
	9	25～27	18～20	逆台形状	北西―南東（N-44°-W）	11.46	0.89～1.13	0.08～0.37	91.62～91.89	1108 年以前
	10	25～27	18～20	（逆台形状）	北西―南東（N-42°-W）	11.56	0.99 以上	0.08～0.34	91.71～91.83	1108 年以前
	11	25～28	20～22	弧状	北東―南西（N-67°-E）	4.98	1.29～1.35	0.36～0.44	91.65～91.71	8 世紀以前
	12	19～33	14～22	弧状	北西―南東（N-58°-W）	63.34	2.72 以上	0.64～0.68	91.29～91.47	1108 年以前
	13	19～33	14～22	不明	北西―南東（N-55°-W）	42.85	2.87 以上	1.20 以上	90.43 以下	9～10 世紀～ 1108 年以前
	14	26･27	17･18	逆台形状	北西―南東（N-68°- W）／ 北西―南東（N-30°- W）	2.97／1.44	0.24～0.61	0.04～0.11	91.74～91.79	1108 年以降
	15	23～33	17～22	不明	西―東（N-79°-W）／北西―南東（N-50°- W）	31.95／9.87	4.02 以上	0.92 以上	90.90 以下	9～10 世紀～ 1108 年以前
	16	23～33	17～22	不明	西―東（N-79°-W）／北西―南東（N-50°- W）	31.95／9.87	2.42 以上	0.92 以上	90.90 以下	9～10 世紀～ 1108 年以前
B 区	1	40～42	27～29	弧状	北西―南東（N-46°-W）	9.76	2.05～3.45	0.46～0.66	91.08～91.20	1108 年以前 A 区 W-2 と同一遺構
	2	42～44	28･29	逆台形状	北東―南西（N-59°-E）	7.34	0.24～0.49	0.06	91.25	10 世紀以降
	3	42･43	27･28	逆台形状	北東―南西（N-41°-E）	6.89	0.32～0.48	0.06～0.14	91.49～91.55	10 世紀以降
	4	40～44	27～29	逆台形状	北西―南東（N-53°-W）	15.94	1.12～2.17	0.32～0.66	90.89～91.24	9～10 世紀前半以降
	5	40～45	26～29	逆台形状	北西―南東（N-56°-W）	19.73	1.34～1.98	0.45～0.69	90.37～91.37	9～10 世紀前半以降
	6	40～42	26･27	不明	北西―南東（N-55°-W）／ 北西―南東（N-33°-W）	3.67／3.03	0.57 以上	0.25	91.54	9～10 世紀前半以降
	7	欠番	―	―	―	―	―	―	―	―
	8	40～42	27～29	弧状	北西―南東（N-38°-W）	7.98	0.51～4.02	0.70	91.00～91.23	A 区 W-12 と同一遺構
	9	40～42	29	不明	不明	3.64	3.6 以上	0.55 以上	91.02～91.05	A 区 W-15 と同一遺構
	10	40～43	28･29	弧状	北西―南東（N-53°-W）	9.91	4.79 以上	0.78 以上	90.3～90.91	A 区 W-16 と同一遺構
	11	40	25	不明	不明	不明	3.4 以上	0.5 以上	91.1 以下	A 区 W-13 と同一遺構

第７表　B 区畠跡観察表

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	断面形状	規模（m）検出長	規模（m）幅	規模（m）深さ（約）	底面標高（m）	時期	重複関係・備考
B 区	1-1	41･42･43	26･27･28	弧状	8.58	0.27～0.42	0.03	91.62	10 世紀以降	W-3･5･6 より新しい。
	1-2	42･43	27･28	逆台形状	(3.30)	0.23～0.44	0.07	91.59	10 世紀以降	W-3･5･6 より新しい。
	1-3	42	27･28	不定形	(3.36)	0.21～0.49	0.08	91.62	10 世紀以降	W-5･6 より新しい。

第８表　A・B 区性格不明遺構（X）観察表（1）

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	平面形状	断面形状	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	底面標高（m）	時期	重複関係・備考
A 区	1	欠番	―	―	―	―	―	―	―	―	―
	2	26	21	不明	弧状	(0.64)	(0.25)	0.55	92.06	9 世紀以降	W-2 より新しい。
	3	28･29	20･21	（楕円形）	不明	(5.93)	(2.16)	(0.46)	(91.48)	8 世紀頃	T-4、D-81、X-4･10･11 より新しく、D-101、W-2･6･7 より古い。
	4	28	20	不明	不明	(1.72)	(1.02)	(0.55)	(91.48)	10 世紀頃	D-1、W-2 より古い。
	5	28･29	21	（長楕円形）	逆台形状	(0.46)	0.40	0.14	91.58	10 世紀以前	X-6 より新しく、T-3、I-4 より古い。

第 9 表　A・B 区性格不明遺構（X）観察表（2）

（　）は推定値・残存値

区	番号	グリッド X	グリッド Y	平面形状	断面形状	規模（m）長軸	規模（m）短軸	規模（m）深さ	底面標高（m）	時期	重複関係・備考
A 区	6	28･29	21	（長楕円形）	弧状	2.82	1.60	0.41	91.19	10 世紀以前	X-8･10 より新しく、T-3･4 より古い。
	7	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	28･29	21	長楕円形	弧状	2.32	0.72	0.24	91.50	10 世紀以前	T-3･4、X-6 より古い。
	9	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10	28･29	21	（長楕円形）	弧状	1.68	0.49	0.24	91.52	10 世紀以前	T-3･4、X-3･6 より古い。
	11	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12	28	22	（長楕円形）	弧状	(1.28)	0.76	0.30	91.34	9 世紀以前	H-21、D-32 より古い。
	13	25･26	19･20	不定形	弧状	3.66	1.95	0.33	91.67	9 世紀中葉	D-84 より新しく、H-9、D-20･22･74 より古い。
B 区	1	28･29	43･44	長楕円形	弧状	2.51	1.70	0.53	90.60	9 世紀以前	W-2･4･5 より古い。

第 10 表　遺物観察表（1）

（　）は推定値・残存値

掲載番号	出土遺構	出土位置	種別器種	法量（cm･g）口径	法量（cm･g）底径	法量（cm･g）器高	残存	焼成	色調	胎土（胎土色 / 含有物）	特徴　調整　文様　等
1	A 区 H—1	覆土 カマド	須恵器 椀	14.7	6.6	4.9	口縁～底部 2/3	やや良好	浅黄色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。底部糸切痕。高台貼付。
2	A 区 H—1	覆土	須恵器 坏	13.4	6.8	4.1	口縁～底部 1/2	やや良好	褐灰色	長石 角閃石 チャート 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成気味。底部糸切痕。
3	A 区 H—1	床面	須恵器 椀	—	7.0	(3.9)	体部～底部 1/2	やや良好	にぶい黄橙色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。底部ヘラ切後ナデ。
4	A 区 H—1	カマド	土師器 坏	(11.6)	(5.5)	3.6	体部～底部 1/4	良好	にぶい赤褐色	長石 石英 角閃石	外：口縁部ヨコナデ。体部指頭圧痕。底部無調整。内：ナデ。
5	A 区 H—1	覆土 カマド 掘り方	土師器 甕	(21.0)	—	(8.4)	口縁～胴部 破片	良好	橙色	長石 石英 チャート 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
6	A 区 H—2	覆土	須恵器 坏	(12.5)	5.7	4.1	口縁～底部 1/3	やや良好	浅黄色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成気味。底部糸切後ナデ。体部に墨書「□」。内面底部に煤付着。
7	A 区 H—2	覆土	土師器 坏	11.4	(6.1)	3.8	口縁～底部 1/6	良好	にぶい橙色	長石 石英	外：ナデ。体部指頭圧痕。底部無調整。内：ナデ。
8	A 区 H—2	床面	須恵器 壺	—	—	(9.9)	胴部～底部 破片	やや良好	外：黒褐色 内：にぶい黄色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形。外：胴部下位ケズリ。
9	A 区 H—2	覆土	須恵器 甕	(39.5)	—	(10.1)	口縁部 破片	良好	灰色	長石 白色粒	ロクロ成形。外：頸部櫛描波状文 3 段。
10	A 区 H—3	床面	須恵器 椀	12.0	5.7	5.1	完形	やや良好	黄灰色	長石 石英 雲母 結晶片岩 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。底部糸切痕。高台貼付。
11	A 区 H—3	床面 貯蔵穴	須恵器 椀	13.6	—	(4.5)	口縁～体部 4/5	やや良好	灰黄色	長石 石英 小礫 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。底部糸切痕。高台剥落。
12	A 区 H—3	覆土 床面	須恵器 椀	13.0	6.0	5.6	口縁～底部 3/4	やや良好	橙色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。底部糸切痕。高台貼付。
13	A 区 H—3	覆土	須恵器 耳皿	幅（5.4）	4.2	2.8	3/4	やや良好	橙色	長石 石英 チャート 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。底部焼成前に穿孔 1 ヶ所。
14	A 区 H—3	カマド	須恵器 壺	—	10.0	(17.7)	胴部～底部 2/3	やや良好	灰褐色	長石 赤色粒 白色粒	ロクロ成形。外：胴部下位ケズリ。高台貼付。
15	A 区 H—3	床面	須恵器 壺	—	—	(14.9)	胴部 1/8	やや良好	橙色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。外：把手 1 ヶ所残る。頸部打ち欠き再利用か。
16	A 区 H—3	カマド 床面 貯蔵穴	須恵器 壺	(15.7)	—	(25.3)	口縁～胴部 1/2	やや良好	にぶい橙色	長石 石英 結晶片岩 チャート	ロクロ成形。酸化焔焼成。内外面剥離。外面からの穿孔 1 ヶ所。内面指頭圧痕。
17	A 区 H—3	カマド	須恵器 甕	(30.9)	—	(14.4)	口縁～胴部 1/5	やや良好	灰白色	石英 赤色粒 白色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成気味。
18	A 区 H—3	床面	須恵器 甕	—	21.2	(8.6)	胴部～底部 破片	やや良好	にぶい黄橙色	長石 石英 小礫 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。外：胴部ヘラナデ。
19	A 区 H—3	カマド 床面 貯蔵穴	須恵器 甕	—	13.2	18.0	胴部～底部 2/3	やや良好	黄灰色	長石 石英 小礫	ロクロ成形。酸化焔焼成気味。外：胴部下位～底部ケズリ。
20	A 区 H—3	カマド 床面 貯蔵穴	須恵器 甕	—	16.3	(19.5)	胴部～底部 1/8	良好	明黄褐色	長石 石英 角閃石 礫	ロクロ成形。酸化焔焼成。外：胴部下位～底部回転ヘラケズリ。内面煤付着。
21	A 区 H—3	カマド 床面 貯蔵穴 掘り方	羽釜	18.4	(7.1)	(23.3)	口縁～底部 4/5	良好	にぶい黄橙色	長石 石英 結晶片岩 チャート 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。外：胴部下位ケズリ。

第 11 表　遺物観察表（2）

（　）は推定値・残存値

掲載番号	出土遺構	出土位置	種別 器種	法量（cm・g）			残存	焼成	色調	胎土 (胎土色 / 含有物)	特徴　調整　文様　等
				口径	底径	器高					
22	A 区 H—3	カマド	羽釜	(19.1)	—	(21.9)	口縁～胴部 1/5	良好	橙色	長石 石英 チャート 小礫	ロクロ成形。酸化焔焼成。 外：胴部中位～下位ケズリ。
23	A 区 H—3	覆土	羽釜	(23.0)	—	(15.3)	口縁～胴部 1/6	良好	にぶい橙色	長石 石英 角閃石 白色粒	酸化焔焼成。 外：ナデ、指頭圧痕。 内：ナデ、指頭圧痕。
24	A 区 H—3	床面	砥石	長：7.0	幅：3.4	厚：2.5	周縁一部 欠損	—	—	石材：凝灰岩 重量：69.7 g	短冊状を呈し、下端は上端の 2 倍ほどの厚さ。背面上端及び右側面には、鉄製工具を用いた揉み切りによる穿孔痕あり。被熱により全体が黒色に変化。
25	A 区 H—4	覆土	須恵器 坏	(9.0)	4.8	3.6	口縁～底部 1/2	やや良好	灰白色	赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。 底部糸切痕。
26	A 区 H—4	床面	羽釜	(24.0)	—	(7.3)	口縁～胴部 破片	やや良好	橙色	長石 石英 チャート 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。
27	A 区 H—5	カマド横 床面	須恵器 椀	—	(5.4)	(3.2)	体部～底部 1/2	やや良好	灰黄色	長石 石英 チャート 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 高台貼付。
28	A 区 H—5	カマド	羽釜	(20.4)	—	(6.1)	口縁部 破片	やや良好	橙色	長石 石英 チャート 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。
29	A 区 H—6	覆土	須恵器 椀	14.7	7.0	5.6	口縁～底部 1/2	やや良好	浅黄色	石英 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。高台貼付。
30	A 区 H—6	床面	土師器 坏	11.6	6.2	4.1	口縁～底部 3/4	良好	にぶい橙色	長石 石英 角閃石	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内：ナデ。
31	A 区 H—6	カマド 床面	土師器 甕	19.8	—	(17.3)	口縁～胴部 1/2	良好	橙色	石英 角閃石 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、指頭圧痕。
32	A 区 H—6	貯蔵穴	土師器 甕	20.4	—	(16.6)	口縁～胴部 2/3	良好	にぶい褐色	石英 白色粒	外：口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部ケズリ。 内：ナデ、ヘラナデ。
33	A 区 H—6	カマド 床面	土師器 甕	19.2	—	(19.0)	口縁～胴部 1/2	良好	明赤褐色	石英 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。
34	A 区 H—6	カマド 床面	須恵器 甕	(41.9)	(16.0)	口 (11.4) 胴 (19.2)	口縁～底部 破片	良好	灰色	長石 石英	大甕。 外：口縁部櫛描波状文 3 段。胴部平行タタキ。 底部カキ目。 内：胴部当て具痕。
35	A 区 H—6	カマド	土錘	長 3.8	最大径 2.2	孔径 (0.3)	3/4	良好	にぶい 黄橙色	石英 白色粒	ナデ。
36	A 区 H—7 b	カマド	須恵器 椀	11.2	(7.2)	4.9	口縁～底部 1/2	やや良好	にぶい 黄橙色	長石 石英 礫 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。 高台貼付。
37	A 区 H—7 b	床面	須恵器 坏	12.8	6.2	3.6	口縁～底部 2/3	やや良好	橙色	長石 赤色粒 白色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。
38	A 区 H—7 b	床面	灰釉陶器 壺	(3.9)	5.2	9.3	ほぼ完形	良好	灰白色	長石	ロクロ成形。 底部糸切痕。外面自然釉。虎渓山段階。
39	A 区 H—7 b	カマド	土釜	(24.5)	—	(7.1)	口縁～胴部 破片	良好	橙色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：ヘラナデ
40	A 区 H—7	覆土	羽釜	(18.6)	—	(4.9)	口縁部 破片	良好	にぶい橙色	長石 礫 赤色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。
41	A 区 H—8	床面	須恵器 坏	(13.9)	8.0	3.3	口縁～底部 1/2	やや良好	灰白色	石英 チャート	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切後ナデ。体部外面墨書「□」
42	A 区 H—8	床面	須恵器 坏	11.8	6.5	3.3	口縁～底部 2/3	良好	黒色	長石 白色粒	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。
43	A 区 H—8	床面	土師器 坏	12.4	8.6	3.6	完形	良好	橙色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ、指頭圧痕。 底部ケズリ。 内：ナデ、指頭圧痕。口唇部に煤付着。
44	A 区 H—8	カマド	土師器 坏	12.1	8.3	3.5	ほぼ完形	良好	橙色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ、指頭圧痕。 底部ケズリ。 内：ナデ、指頭圧痕。
45	A 区 H—8	覆土	土師器 甕	11.2	—	(5.9)	口縁～胴部 1/3	良好	にぶい 赤褐色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：ナデ。
46	A 区 H—8	床面	土錘	長 5.4	径 1.6	孔径 0.5	完形	良好	にぶい橙色	赤色粒 白色粒	ナデ。
47	A 区 H—9	床面	土師器 高台付坏	11.5	7.0	5.9	ほぼ完形	やや良好	橙色	石英 雲母 角閃石 赤色粒 白色粒	外：指頭圧痕。体部下位ケズリ。高台貼付。
48	A 区 H—9	カマド	土釜	(19.0)	—	(8.5)	口縁～胴部 破片	良好	橙色	長石 石英 赤色粒 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。
49	A 区 H—9	カマド	土釜	(21.4)	—	(13.2)	口縁～胴部 1/6	良好	外：橙色 内：明赤 褐色	長石 石英 角閃石 微石粒 小礫	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁～胴部上位ヘラナデ。胴部ナデ。
50	A 区 H—9	覆土	羽釜	(20.0)	—	(7.1)	口縁～胴部 破片	やや良好	にぶい 黄橙色	長石 石英 礫 白色粒	ロクロ成形。酸化焔焼成。
51	A 区 H—10	貯蔵穴	須恵器 坏	(12.1)	(7.0)	3.5	口縁～底部 1/3	やや良好	灰白色	赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成気味。 底部ヘラ切後ナデ。

第 12 表　遺物観察表（3）

（　）は推定値・残存値

掲載番号	出土遺構	出土位置	種別器種	法量（cm・g）			残存	焼成	色調	胎土（胎土色 / 含有物）	特徴　調整　文様　等
				口径	底径	器高					
52	A 区 H—10	貯蔵穴	土師器 坏	(12.1)	(6.4)	(3.2)	口縁～底部 1/6	良好	橙色	長石	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
53	A 区 H—11	床面	須恵器 蓋	(17.3)	ツマミ径 2.9	3.5	3/4	良好	灰色	長石 小礫	ロクロ成形（右）。 天井部回転ヘラケズリ（左）。
54	A 区 H—11	H—3 カマド 掘り方	須恵器 坏	(14.1)	7.6	3.3	口縁～底部 1/2	やや良好	外：黄灰色 内：灰白色	長石	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成気味。 底部糸切痕。
55	A 区 H—11	P—1 覆土	須恵器 坏	12.8	6.0	3.5	口縁～底部 4/5	良好	黄灰色	長石	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。
56	A 区 H—11	H—25 掘り方	須恵器 坏	(13.3)	8.0	4.0	口縁～底部 1/2	やや良好	灰黄色	長石 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。体部線刻あり。
57	A 区 H—11	掘り方	土師器 坏	(14.0)	10.3	2.6	口縁～底部 1/5	良好	明赤褐色	長石 石英	外：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ後ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
58	A 区 H—11	貯蔵穴	土師器 鉢	(20.0)	11.3	9.2	口縁～底部 1/2	良好	橙色	長石 角閃石	外：口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部下位ケズリ。 底部ケズリ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体～底部ナデ。
59	A 区 H—11	覆土	土師器 甕	(13.5)	—	(5.3)	口縁～胴部 1/2	良好	にぶい赤褐色	石英	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：ナデ。
60	A 区 H—11	貯蔵穴	土師器 甕	(18.5)	—	8.9	口縁～胴部 破片	良好	橙色	長石 石英 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：ナデ。
61	A 区 H—13	カマド 掘り方 D—25	灰釉陶器 椀	(15.2)	(6.6)	5.0	口縁～底部 1/3	良好 堅緻	灰白色	断面：灰白色	ロクロ成形。虎渓山段階。
62	A 区 H—13	カマド	須恵器 椀	(12.2)	(6.9)	5.4	口縁～底部 1/3	やや良好	灰白色	長石 石英	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。高台貼付。
63	A 区 H—13	カマド 掘り方	須恵器 皿	10.1	5.1	2.5	口縁～底部 1/2	やや良好	橙色	長石 赤色粒 白色粒	外：ナデ。 内：ナデ。
64	A 区 H—16	カマド	須恵器 椀	11.9	5.1	4.2	完形	やや良好	にぶい橙色	長石 石英 微砂粒 小礫	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。
65	A 区 H—16	貯蔵穴	須恵器 坏	11.8	5.0	3.6	ほぼ完形	やや良好	褐灰色	長石 石英 角閃石 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成気味。 底部糸切痕。
66	A 区 H—16	カマド	羽釜	(17.0)	—	(5.1)	口縁部 破片	良好	にぶい黄橙色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形。
67	A 区 H—16	掘り方	土師器 甕	(20.0)	(3.2)	口（7.6） 胴（15.3）	口縁～底部 破片	良好	にぶい橙色	石英 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。 胴部下位ナデ。
68	A 区 H—17	覆土	土師器 坏	(12.0)	(8.9)	2.6	口縁～底部 1/3	良好	にぶい橙色	石英	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
69	A 区 H—17	カマド	土師器 坏	13.2	8.1	4.2	ほぼ完形	良好	橙色	長石 石英 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。体～底部ケズリ、ナデ。 内：ナデ。放射状暗文。口縁に油煤付着。 燈明皿に転用か。
70	A 区 H—17	カマド	土師器 甕	20.9	6.3	29.0	口縁～底部 2/3	やや良好	橙色	長石 石英 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：ナデ。
71	A 区 H—23	覆土	須恵器 椀	(14.8)	7.9	5.8	口縁～底部 2/3	やや良好	浅黄色	長石 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 高台貼付。
72	A 区 H—24	覆土	須恵器 坏	(12.1)	7.2	3.6	口縁～底部 1/2	良好	灰白色	長石	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。
73	A 区 H—24	カマド	土師器 鍋	25.2	8.8	16.2	ほぼ完形	良好	明赤褐色	長石 石英 角閃石 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体～底部ナデ。
74	A 区 H—25	掘り方	須恵器 蓋	16.0	天井 7.1	2.8	口縁～天井 1/2	良好	黄灰色	長石 小礫 赤色粒	ロクロ成形（右）。 天井部糸切痕。口縁端部折り返し、肥厚。皿の可能性あり。
75	A 区 H—25	掘り方	須恵器 高台付坏	(13.0)	(8.8)	5.0	口縁～底部 1/3	やや良好	灰白色	長石 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。高台貼付。
76	A 区 H—25	覆土	須恵器 坏	12.5	5.8	3.8	ほぼ完形	良好	灰色	長石	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。
77	A 区 H—25	床面	須恵器 坏	12.3	5.8	3.8	完形	やや良好	灰黄色	長石 石英 結晶片岩 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。
78	A 区 H—25	床面	須恵器 坏	11.7	5.7	3.1	完形	良好	灰白色	長石 石英 白色粒	ロクロ成形（右）。 底部糸切痕。口縁部油煤付着。
79	A 区 H—25	床面	土師器 坏	11.9	8.0	3.5	完形	良好	にぶい褐色	長石 石英 チャート 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部指頭圧痕、ナデ。 底部ケズリ、ナデ。 内：ナデ。
80	A 区 H—25	貯蔵穴	土師器 坏	11.7	7.8	3.4	口縁～底部 2/3	良好	にぶい赤褐色	長石 石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部指頭圧痕、ナデ。 底部ケズリ、ナデ。 内：ナデ、指頭圧痕。
81	A 区 H—25	覆土	土師器 坏	13.0	(8.4)	3.6	口縁～底部 1/5	良好	にぶい赤褐色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。底部ケズリ。 内：ナデ。放射状暗文。
82	A 区 H—25	貯蔵穴	土師器 甕	(19.9)	—	5.4	口縁～胴 破片	良好	にぶい赤褐色	長石 石英 角閃石	外：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。

第 13 表　遺物観察表（4）

（　）は推定値・残存値

掲載番号	出土遺構	出土位置	種別 器種	法量（cm・g） 口径	底径	器高	残存	焼成	色調	胎土 （胎土色 / 含有物）	特徴　調整　文様　等
83	A 区 H—26	貯蔵穴 上面	須恵器 椀	17.8	—	(6.4)	口縁～底部 4/5	やや良好	黄褐色	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成気味。 高台貼付。
84	A 区 H—26	カマド	須恵器 椀	(12.0)	—	(4.4)	口縁～体部 1/3	やや良好	灰色	長石 白色粒	ロクロ成形（右）。 高台貼付。
85	A 区 H—31	床面	灰釉陶器 椀	15.4	7.5	5.1	口縁～底部 2/3	良好 堅緻	灰白色	断面：灰白色	ロクロ成形。 外：体部下位回転ケズリ。高台貼付。口縁～体部施釉 漬け掛け。 内：口縁～体部施釉。大原段階。
86	A 区 H—31	床面	須恵器 椀	10.4	6.1	4.1	口縁～底部 3/4	良好	橙色	長石 石英 赤色粒 白色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。高台貼付。
87	A 区 H—31	床面	須恵器 椀	14.0	5.6	5.8	ほぼ完形	やや良好	灰褐色	石英 赤色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。高台貼付。
88	A 区 H—31	カマド	須恵器 椀	(13.2)	7.0	5..6	口縁～底部 2/3	やや良好	にぶい 黄橙色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。
89	A 区 H—31	床面	土錘	長 4.6	径 2.2	孔径 0.5	完形	良好	浅黄橙色	砂粒	ナデ。
90	A 区 H—32	H—20 覆土	土師器 坏	(12.2)	—	2.5	口縁～底部 1/6	良好	橙色	石英	外：摩滅。 内：ナデ。
91	A 区 H—33	H—27 覆土	須恵器 坏	—	(8.5)	(3.7)	体～底部 1/2	やや良好	淡黄色	長石	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部切り離し後ナデ。調整不明瞭。
92	A 区 H—33	H—26 掘り方	土師器 坏	(12.8)	(8.5)	3.5	口縁～底部 1/4	良好	橙色	長石 石英 角閃石	外：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。底部ケズリ。 内：ナデ。
93	A 区 H—33	D—2	土師器 坏	(16.6)	(7.8)	4.0	口縁～底部 1/4	良好	橙色	長石 石英	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 内：ナデ
94	A 区 H—38	覆土	須恵器 椀	13.7	6.2	5.2	完形	やや良好	浅黄色	長石 石英 小礫	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切痕。高台貼付。外面に漆付着。
95	A 区 H—38	覆土	須恵器 椀	19.0	—	(6.0)	口縁～底部 4/5	やや良好	黄灰色	長石 石英 赤色粒 砂粒	ロクロ成形。酸化焔焼成気味。 底部糸切痕。高台貼付。内面に鉄分の付着あり。
96	A 区 H—38	覆土	土師器 坏	(12.6)	(7.7)	3.5	口縁～底部 1/2	良好	明赤褐色	長石 石英	外：口縁部ヨコナデ。体～底部ケズリ後ナデ。 指頭圧痕。 内：ナデ。
97	A 区 T—1	底面	土師器 坏	12.6	—	3.8	口縁～底部 3/4	良好	橙色	長石 角閃石	外：口縁部ヨコナデ。体部指頭圧痕、ナデ。底部ケズリ後ナデ。 内：ナデ、指頭圧痕。
98	A 区 T—2	底面	須恵器 坏	13.3	(8.0)	4.2	口縁～底部 1/3	良好	灰色	赤色粒 白色粒	ロクロ成形（右）。 底部回転ヘラ切。
99	A 区 I—3	覆土	灰釉陶器 椀	15.0	7.5	4.8	完形	良好 堅緻	灰白色	断面：灰黄色	外：口縁～体部施釉漬け掛け。 内：口縁～体部施釉。虎渓山段階。
100	A 区 I—4	覆土	円筒 埴輪	—	最大径 (18.0)	(12.7)	破片	良好	橙色	長石 石英 赤色粒	朝顔形埴輪。 外：突帯２段、ハケ目、円形透孔か。 内：ナデ、ハケ目。
101	A 区 W—1	覆土	灰釉陶器 椀	(14.2)	6.8	4.3	口縁～底部 2/3	良好 堅緻	オリーブ 灰色	断面：灰白	外：口縁～体部上半施釉漬け掛け。 内：口縁～体部施釉。大原段階。
102	A 区 W— 12・13	覆土	須恵器 坏	9.3	6.1	3.1	口縁～底部 3/4	やや良好	浅黄橙色	細砂粒	ロクロ成形（右）。酸化焔焼成。 底部糸切後ナデ。
103	A 区 W—15	覆土	灰釉陶器 耳皿	長（6.9）	幅（7.6）	2.6	口縁～底部 1/3	良好 堅緻	オリーブ 灰色	断面：灰白色	ロクロ成形。底部糸切痕。 外：口縁部自然釉。 内：見込み施釉。
104	A 区 X—1	覆土	灰釉陶器 段皿	13.9	7.6	2.7	口縁～底部 3/4	良好 堅緻	灰白色	断面：灰白色	底部糸切痕。 外：施釉漬け掛け。煤付着。 内：口縁部施釉。虎渓山段階。
105	B 区 W—4	覆土	土師器 坏	(13.9)	9.4	4.1	口縁～底部 1/2	良好	橙色	長石 石英 角閃石 細砂粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。放射状暗文。
106	B 区 W—4	覆土	土師器 坏	12.0	7.9	3.6	口縁～底部 1/2	良好	にぶい橙色	長石 石英 白色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
107	遺構外	A 区 H—10	石鏃	長：2.2	幅：1.2	厚：0.4	完存	—	—	石材：チャート 重量：0.63g	砲弾形を呈し、基部を山形状に大きく抉る無茎石鏃。 連続する細かな押圧剥離が器体中央におよび、左右対称で厚さが一定した優美な石鏃。
108	遺構外	A 区 H—9	石鏃	長：4.3	幅：2.6	厚：0.5	完存	—	—	石材：黒色安山岩 重量：3.2g	大型な有茎石鏃。断面をレンズ状に薄く仕上げ、両側縁の上方には飛行機鏃を意図したと思われる突起が伴う。
109	遺構外	A 区 H—8	打製石斧	長：7.7	幅：3.8	厚：1.2	下半欠損	—	—	石材：黒色頁岩 重量：41.42g	背面に自然面を多く残し、腹面は横方向からの剥離によって薄く仕上げる。削器の可能性もあり得る。
110	遺構外	A 区 X—4	削器	長：11.4	幅：8.1	厚：2.3	完存	—	—	石材：黒色頁岩重 量量：214.57g	扁平な円礫を薄く２分割し、その一方をさらに折り取って素材とする。鋭利な周辺部分に表裏面の双方から剥離を施して刃部とする。
111	遺構外	A 区 H—11	凹石	長：11.8	幅：8.6	厚：3.15	完存	—	—	石材：砂岩 重量：526.25g	扁平な円礫の表裏面に凹を残す。側縁の一部に敲打痕あり。
112	B 区 W—5	覆土	骨類 歯	長：6.2	幅：1.6	厚：0.8	破片	—	—	重量：6.0g	ウマか。 図示なし。写真のみ掲載。

Y18
Y19
Y20
Y21
Y22
Y23
Y24
X35
X34
X33
X32
X31
X30
X29
X28
X27
X26
1
2
3
91.90m
91.80m
91.80
D-94
W-2
W-5
W-12
W-15・16
低地・W-13
W-14
W-3
W-4
W-6
W-7
W-9
W-10
W-11
D-100
D-53
P-41
P-42
P-89
D-58
P-52
D-101
T-4
P-72
X-8
I-4
P-76
P-77
D-28
X-10
X-3
X-4
X-5
X-6
X-12
D-89
T-3
D-32
H-21
D-27
D-81
P-67
D-87
D-86
D-43
D-41
D-42
D-40
D-80
D-1
H-26
D-37
D-63
H-13
P-101
T-1
H-17
P-65
D-95
D-107
カクラン
D-39
P-84
P-83
H-27
D-96
T-2
P-94
P-95
P-93
P-64
D-17
D-72
P-70
P-40
P-71
P-82
D-91
D-24
P-91
P-92
P-69
D-25
P-102
D-26
P-90
D-38
D-71
P-28
P-81
D-44
P-75
H-33
T-5
P-73
P-78
H-32
D-92
D-23
D-73
P-86
P-98
P-85
P-97
P-39
P-44
D-88
D-57
P-79
D-12
P-87
P-96
D-11
X-13
D-74
I-3
D-84
P-47
P-80
X-2
D-47
P-68
D-20
D-54
D-55
P-45
P-49
P-48
W-11
X-13
カクラン
D-62
H-9
D-22
P-58
D-31
P-56
P-55
P-31
P-46
P-66
トレンチ
C
H
0
1：160
4m

第６図　Ａ区分割図１

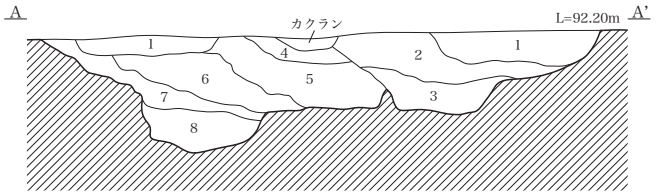
1
2
3
X28
X27
X26
X25
X24
X23
X22
X21
X20
X19
Y13
Y14
Y15
Y16
Y17
Y18
Y19
W-14
W-2
P-64
T-5
W-9
D-12
D-11
W-10
P-68
P-66
H-9
D-62
W-15・16
H-16
D-19
D-15
D-82
P-62
D-79
D-67
P-53
D-83
H-10
W-12
D-68
H-5
H-22
W-4
D-64
P-51
P-61
H-11
D-65
91.50
低地・W-13
H-23
H-3
H-38
P-36
P-35
H-1
H-2
W-2
P-34
P-33
P-15
P-13
D-61
D-105
P-14
P-12
P-2
H-19
P-3
P-10
P-9
P-11
P-32
H-7
P-21
P-8
P-26
D-13
P-1
P-74
I-6
トレンチ
トレンチ
B
B'
O
O'
P
P'
M
M'

第７図　A 区分割図２

低地・W-13
W-15・16
W-14
W-12
W-2
W-9
W-10
T-5
D-12
D-11
X-13
D-74
D-84
D-20
P-68
H-9
D-62
D-22
P-66
H-16
D-19
D-82
P-62
D-79
D-67
P-53
D-83
D-16
D-15
D-2
D-76
D-75
P-50
D-88
D-57
D-17
D-72
P-64
D-38
D-71
D-73
P-73
P-78
P-28
P-69
P-40
P-70
P-71
P-82
D-39
P-84
P-83
H-27
D-96
D-91
D-43
D-42
D-41
D-40
D-81
D-86
D-87
W-6
D-80
W-11
D-37
D-63
W-4
D-1
H-17
H-13
P-101
T-1
P-65
D-95
D-107
D-27
H-21
H-26
T-2
P-94
P-95
P-93
P-91
P-92
P-90
D-24
P-75
H-33
D-23
P-39
P-44
D-47
D-25
P-102
D-26
D-44
P-81
H-32
D-92
P-98
P-97
P-86
P-85
P-87
P-96
P-80
X-2
P-79
I-3
P-47
D-54
D-55
P-49
P-48
P-45
W-11
カクラン
カクラン
トレンチ
P-46
P-31
P-30
P-56
P-55
D-31
P-58
D-30
P-54
P-88
D-18
P-60
D-29
P-57
D-77
D-70
P-19
D-9
P-99
P-29
P-27
P-24
P-25
P-20
D-78
D-8
D-56
D-21
P-59
D-10
P-7
P-22
P-23
P-5
P-63
P-17
P-18
P-6
P-100
D-4
D-5
P-16
D-3
P-4
D-7
D-6
D-60
D-59
D-52
D-14
D-106
H-10
H-5
D-99
D-64
H-11
H-3
噴砂
H-6
H-25
H-38
H-4
H-31
H-1
H-2
H-22
H-23
D-65
P-51
P-61
P-36
P-35
P-34
P-33
カクラン
ベルト
D-102
W-1
D-46
D-97
D-45
D-103
H-12
D-51
D-50
D-48
噴砂
H-24
D-49
D-34
P-38
P-37
D-33
D-35
H-8
D-69
D-66
D-36
P-43
D-61
H-19
P-15
P-13
P-12
P-14
P-2
P-3
P-10
P-9
P-32
P-8
H-7
D-13
P-74
P-1
I-6
D-104
H-15
W-1
トレンチ
H-14
トレンチ
噴砂
W-3
W-11
X28
X27
X26
X25
X24
X23
X22
X21
X20
X19
Y18
Y19
Y20
Y21
Y22
Y23
Y24
0
1：160
4m

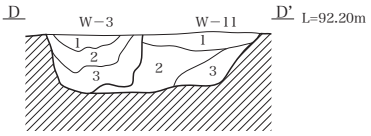
第８図　Ａ区分割図３

A区W−1



A区W−1
1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまり・粘性やや弱。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）　砂混シルト。As-B含む砂粒がラミナ状に堆積。しまりやや弱、粘性やや強。
3　にぶい黄褐色（10YR4/3）　砂混シルト。粘土・砂・砂質シルトがラミナ状に堆積。しまり・粘性やや弱。
4　にぶい黄橙色（10YR6/4）　粘土とシルトがラミナ状に堆積。しまりやや弱、粘性やや強。
5　にぶい黄橙色（10YR6/4）　径5cm程度の礫を含む。しまりやや弱、粘性やや強。
6　にぶい黄橙色（10YR6/4）　粘土〜シルト。ラミナ状に堆積。しまりやや弱、粘性やや強。
7　にぶい黄橙色（10YR7/2）　砂混シルト。砂とシルトがラミナ状に堆積。しまりやや強、粘性やや弱。
8　褐灰色（10YR4/1）　砂礫。しまり弱、粘性弱。

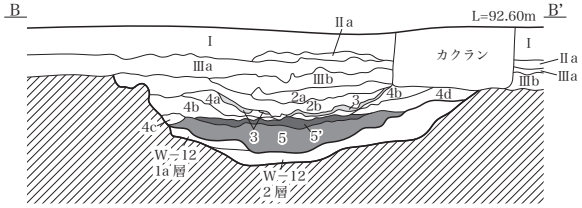
A区W−3・11



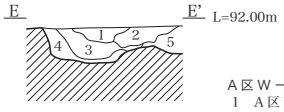
A区W−3
1　灰白色（10YR8/1）　シルト〜砂質シルト。砂を多量含む。しまり弱、粘性弱。
2　灰黄色（2.5Y6/2）　白灰色シルトブロックをやや多量、粗砂・砂質シルトを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3　にぶい黄褐色（10YR4/3）　シルト〜砂質シルト。粗砂・砂混シルトを少量含む。ラミナ状に堆積。しまりやや弱、粘性やや強。

A区W−11
1　黒褐色（10YR3/2）　白色軽石を少量含む。
2　暗褐色（10YR3/3）　粗砂・砂混シルトを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR3/2）　白色軽石を微量含む。

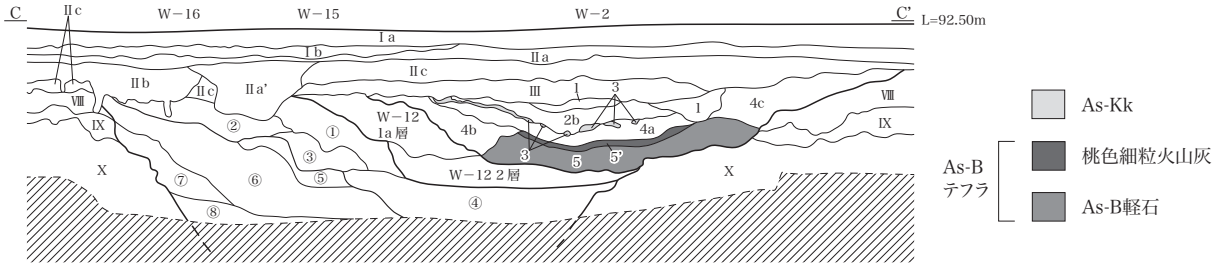
A区W−2・12・15・16



A区W−3・6



A区W−3・6
1　A区W-3断面D、1層と同一。
2　A区W-6断面H、1層と同一。
3　A区W-3断面D、2層と同一。
4　A区W-3断面D、3層と同一。
5　A区W-6断面H、2層と同一。



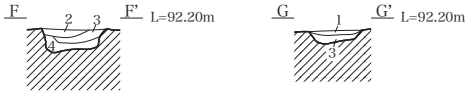
A区断面B・C
Ia　褐灰色（10YR6/1）　現代の耕作土。
Ib　褐灰色（10YR6/1）　黄褐色土を少量含む。現代の耕作土。
IIa　褐灰色（10YR5/1）　しまりやや強、粘性やや弱。近世・近代の耕作土。
IIa'　褐灰色（10YR5/1）　小礫を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
IIb　褐灰色（10YR6/1）　近世・近代の耕作土。
IIc　灰黄褐色（10YR6/2）　近世・近代の耕作土。
IIIa　黄褐色（10YR5/6）　As-B混土。全体的に酸化。
IIIb　褐灰色（10YR4/1）　As-B混土。

A区W−2
1　褐灰色（10YR5/1）　As-Bを少量含む。
2a　暗青灰色（5B4/1）　As-Bを多量含む。しまり・粘性弱。
2b　褐灰色（10YR6/1）　As-Bをやや多量含む。酸化している部分あり。しまり・粘性やや弱。
3　As-Kk
4a　褐灰色（10YR4/1）　As-Bを少量含む。しまり・粘性やや弱。
4b　灰黄褐色（10YR5/2）　As-Bをやや多量含む。やや酸化している部分あり。しまりやや弱、粘性弱。
4c　黒褐色（10YR3/1）　As-Bを少量、白色軽石微量含む。しまり・粘性やや弱。
4d　灰黄褐色（10YR6/2）　As-Bを多量含む。しまりやや弱、粘性弱。
5'　桃色細粒火山灰　一次堆積。IV層相層。
5　As-B　一次堆積。IV層相層。

A区W−12
1a　断面O・Pの1a層と同一。
2　断面O・Pの2層と同一。

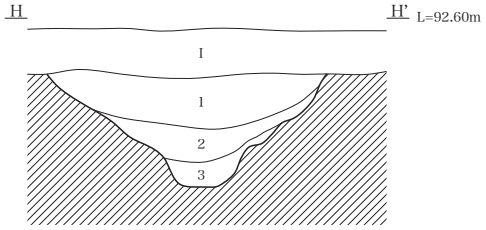
A区W−15・16
①　褐灰色（10YR6/1）　灰白色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。W-15の覆土。
②　褐灰色（10YR5/1）　白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。W-15の覆土。
③　褐灰色（10YR5/1）　小礫を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。W-15の覆土。
④　褐灰色（10YR5/1）　灰白色土をやや多量、小礫を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
⑤　灰白色（10YR8/1）　褐灰色土をやや多量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑥　灰白色（10YR8/1）　上部に褐灰色土を多量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑦　黒褐色（10YR3/1）　灰白色土を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑧　褐灰色（10YR6/1）　小礫を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。

A区W−4



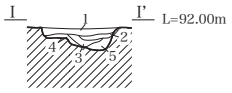
A区W−4
1　灰白色（10YR8/1）　砂。しまり・粘性弱。
2　黄色（2.5Y8/8）　砂粒・軽石を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3　黄橙色（10YR7/8）　砂粒・軽石を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
4　暗褐色（10YR3/4）　砂質。砂粒・軽石を少量含む。ラミナ状に堆積。しまりやや強、粘性やや弱。

A区W−5



A区W−5
1　黒褐色（10YR3/2）　黄褐色土ブロックを微量、灰白色土ラミナ状に含む。
2　褐灰色（10YR5/1）　白色〜灰白色シルトがラミナ状に堆積。炭化物微量含む。
3　褐灰色（10YR6/1）　白色〜灰白色シルト・粘土がラミナ状に堆積。

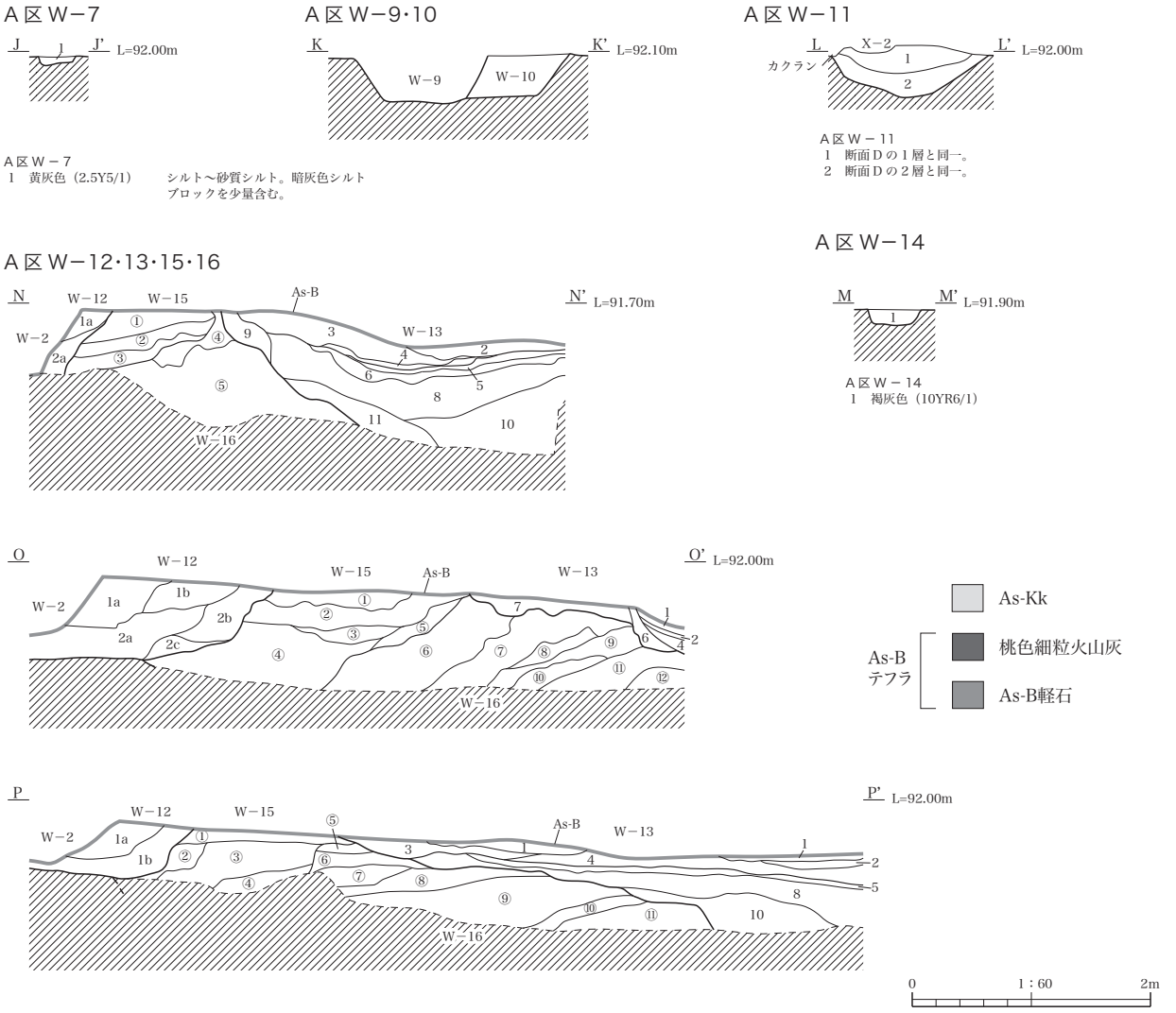
A区W−6



A区W−6
1　黄灰色（2.5Y5/1）　シルト〜砂質シルト。暗灰色シルトブロックを少量含む。
2　暗褐色（10YR3/3）　シルト。しまりやや強、粘性やや弱。
3　黄橙色（10YR7/8）　砂質シルト。暗灰色シルトブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
4　暗褐色（10YR3/4）　砂質。軽石を少量含む。ラミナ状に堆積。しまりやや強、粘性やや弱。
5　暗褐色（10YR3/3）　砂質シルト。砂・軽石を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。

0　1：60　2m

第9図　A区W−1〜6・11・12・15・16号溝跡断面図



A区W−7
1　黄灰色（2.5Y5/1）　シルト〜砂質シルト。暗灰色シルトブロックを少量含む。

A区W−11
1　断面Dの1層と同一。
2　断面Dの2層と同一。

A区W−12　断面B・C・N・O・P

1a	灰黄褐色（10YR6/2）	灰白色シルトをやや多量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
1b	褐灰色（10YR5/1）	灰白色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2a	灰白色（10YR7/1）	褐灰色土と灰白色土が互層状に堆積。しまり・粘性やや強。
2b	褐灰色（10YR5/1）	灰白色土を微量含む。しまり・粘性やや強。
2c	灰白色（N8/）	しまりやや強、粘性やや弱。

A区W−13　断面N〜P

1	灰白色（N6/）	さらに明るい灰白色土ブロック・明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。
2	褐灰色（10YR6/1）	灰色土をやや多量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3	黄灰色（2.5Y6/1）	黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。
4	灰白色（10YR8/1）	黒色土を微量含む。しまり・粘性やや強。
5	黒色（10YR2/1）	灰白色土を少量含む。しまり・粘性やや強。
6	褐灰色（10YR6/1）	暗褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。
7	黄灰色（2.5Y5/1）	灰白色土・黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。
8	灰白色（10YR7/1）	黄灰色土をやや多量、黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。
9	灰白色（10YR7/1）	黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。
10	灰白色（2.5Y7/1）	黄灰色土・黄褐色土を少量含む。下部に黒褐色土堆積。しまり・粘性やや強。
11	灰黄褐色（10YR6/2）	小礫を少量含む。しまり・粘性やや強。

A区W−15・16　断面N

①	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を少量、黄灰色土粒を微量含む。しまり・粘性やや強。A区W-15・16断面Cの②層相当。W-15の覆土。
②	褐灰色（10YR5/1）	灰白色土粒・明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。A区W-15・16断面Cの⑤層相当。W-15の覆土。
③	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。A区W-15・16断面Cの⑥層相当。W-15の覆土。
④	褐灰色（10YR6/1）	明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑤	灰白色（10YR8/1）	明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。

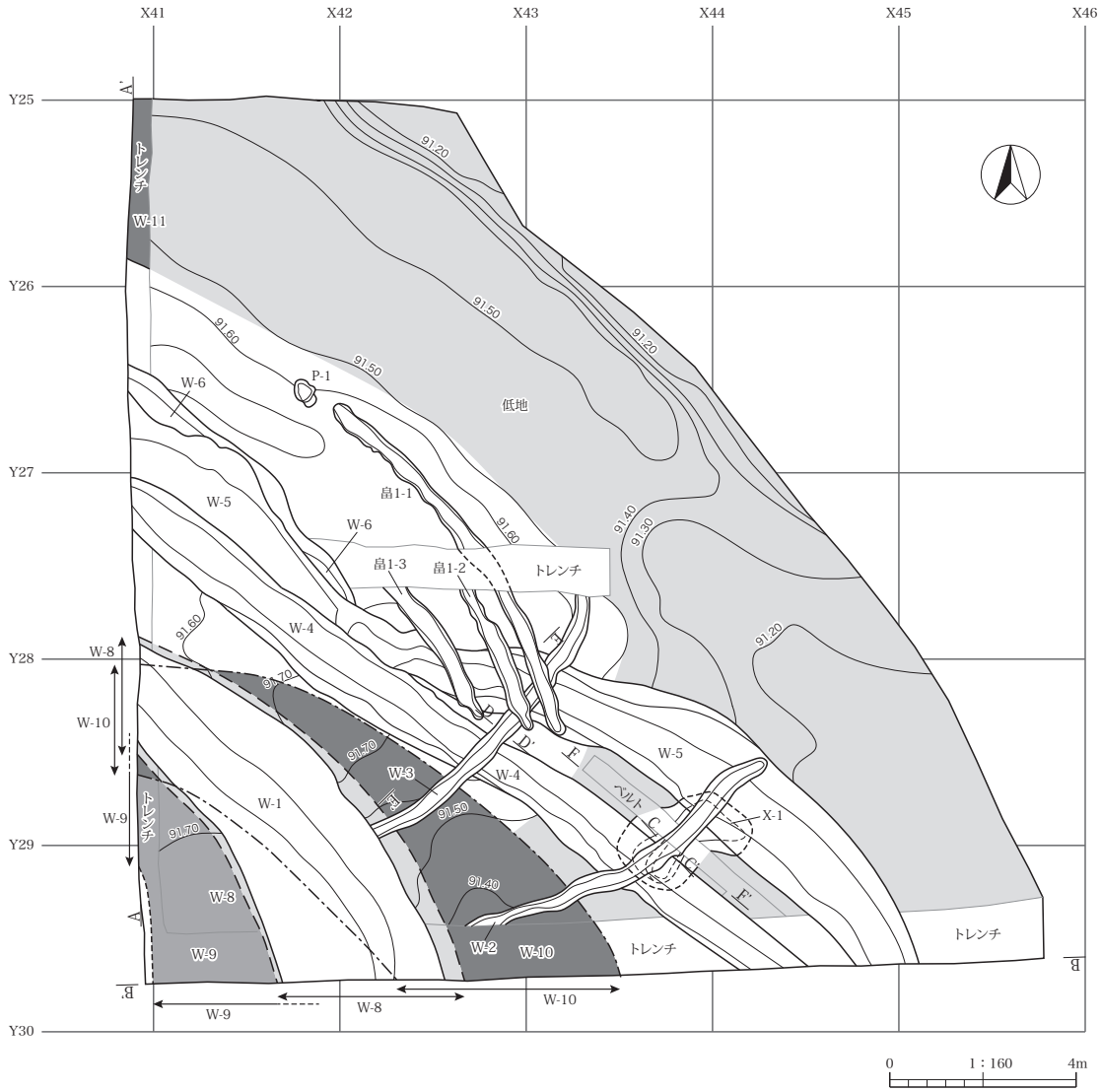
A区W−15・16　断面O

①	褐灰色（10YR6/1）	明黄褐色土ブロック・黒色土ブロック・灰白色土ブロックを少量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
②	灰黄褐色（10YR6/2）	明黄褐色土を少量、灰白色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
③	灰白色（10YR7/1）	褐灰色土を少量、明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
④	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
⑤	黒褐色（10YR3/1）	灰白色粘土ブロック・明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
⑥	褐灰色（10YR6/1）	灰白色土ブロックをやや多量、明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑦	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑧	黒褐色（10YR3/1）	灰白色土・明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑨	褐灰色（10YR6/1）	灰白色土ブロック・明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑩	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑪	黒褐色（10YR3/1）	灰白色土・明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑫	褐灰色（10YR5/1）	灰白色土ブロック・明黄褐色土ブロックを少量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。

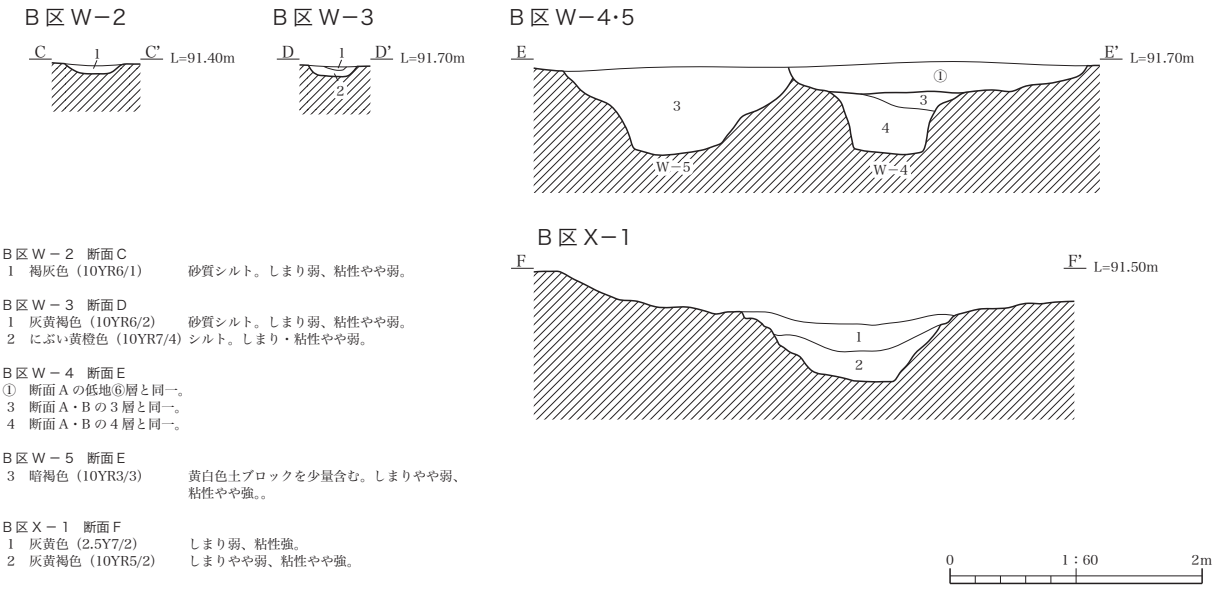
A区W−15・16　断面P

①	灰白色（10YR7/1）	褐灰色土・灰白色土を少量、明黄褐色土を微量含む。。しまり・粘性やや強。
②	褐灰色（10YR6/1）	灰白色土・明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
③	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
④	灰白色（10YR8/1）	褐灰色土・明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-15の覆土。
⑤	灰白色（10YR8/1）	明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑥	褐灰色（10YR5/1）	灰白色土粒・明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑦	褐灰色（10YR6/1）	灰白色土を少量、明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑧	灰白色（10YR7/1）	明黄褐色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。W-16の覆土。
⑨	灰白色（10YR7/1）	褐灰色土をやや多量、明黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。
⑩	褐灰色（10YR6/1）	明黄褐色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。W-16の覆土。
⑪	黒色（10YR2/1）	灰白色土を微量含む。しまり・粘性やや強。W-16の覆土。

第10図　A区W−7・9〜16号溝跡断面図



第 11 図　B 区分割図 1



B 区 W－2　断面 C
1　褐灰色（10YR6/1）　砂質シルト。しまり弱、粘性やや弱。

B 区 W－3　断面 D
1　灰黄褐色（10YR6/2）　砂質シルト。しまり弱、粘性やや弱。
2　にぶい黄橙色（10YR7/4）シルト。しまり・粘性やや弱。

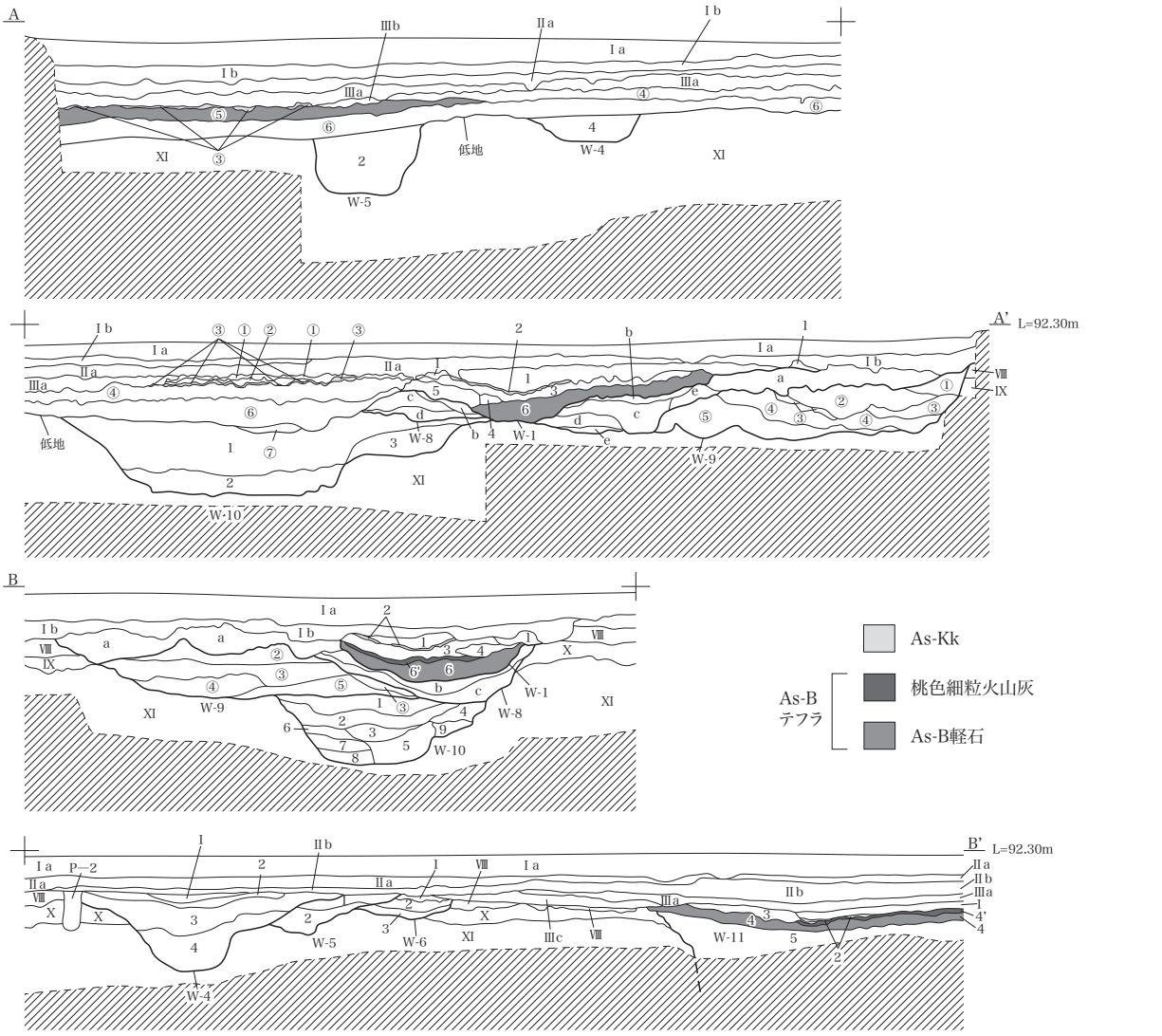
B 区 W－4　断面 E
①　断面 A の低地⑥層と同一。
3　断面 A・B の 3 層と同一。
4　断面 A・B の 4 層と同一。

B 区 W－5　断面 E
3　暗褐色（10YR3/3）　黄白色土ブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。。

B 区 X－1　断面 F
1　灰黄色（2.5Y7/2）　しまり弱、粘性強。
2　灰黄褐色（10YR5/2）　しまりやや弱、粘性やや強。

第 12 図　B 区 W－2～5号溝跡、X－1号性格不明遺構断面図

B区W－1・4～6・8～11・低地



B区　断面A・B
Ⅰa　黄褐色（10YR5/6）表土。
Ⅰb　黄褐色（10YR5/8）表土。
Ⅱa　にぶい黄褐色（10YR5/4）　しまり・粘性やや弱。
Ⅱb　灰黄褐色（10YR5/2）　しまり・粘性やや弱。
Ⅲa　明黄褐色（10YR6/6）　As-B混土。
Ⅲb　灰黄褐色（10YR5/2）　As-B混土。
Ⅲc　褐色（10YR4/4）　As-B混土。

B区低地　断面A
①　黒褐色（10YR3/1）　しまり、粘性やや弱。
②　灰黄褐色（10YR5/2）
③　As-Kk
④　褐灰色（10YR5/1）　As-B主体。黄褐色土ブロックを含む。しまり・粘性やや弱。
⑤　As-B　一次堆積。Ⅳ層相層。
⑥　褐灰色（10YR4/1）　上部に黄褐色粘質土堆積。しまりやや弱、粘性やや強。
⑦　灰黄褐色（10YR6/2）　上部に黄褐色粘質土堆積。しまり弱、粘性やや強。

B区W－1　断面A・B
1　黒褐色（10YR3/1）　As-Bを少量、黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
2　As-Kk
3　にぶい黄橙色（10YR7/2）　As-Bを少量、黄褐色土ブロック状に含む。
4　褐灰色（5YR4/1）　As-Bを多量含む。粘性・しまり弱。
5　にぶい黄橙色（10YR7/2）　As-Bを少量、黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
6'　桃色細粒火山灰　一次堆積。Ⅳ層相層。
6　As-B　一次堆積。Ⅳ層相層。

B区W－4　断面A・B
1　黒褐色（10YR3/1）　黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
2　にぶい黄橙色（10YR6/4）　シルト～砂質シルト。ラミナ状に堆積。しまりやや弱、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR3/1）　シルト層。有機質と白色軽石を少量含む。しまりやや弱、粘性強。
4　灰黄褐色（10YR4/2）　灰色土ブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性強。

B区W－5　断面A・B
1　暗褐色（10YR3/3）　しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR2/2）　シルト～砂質シルト。ラミナ状に堆積。しまりやや弱、粘性やや強。

B区W－6　断面B
1　黒褐色（10YR3/2）　しまりやや弱、粘性強。
2　にぶい黄橙色（10YR6/4）　黄褐色土ブロックを含む。しまりやや弱、粘性強。
3　黒褐色（10YR3/1）　白色軽石を少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。

B区W－8　断面A・B
a　褐灰色（10YR5/1）　黄白色土ブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
b　浅黄橙色（10YR8/3）　黄白色シルトブロックを少量含む。しまり弱、粘性やや強。
c　褐灰色（10YR6/1）　しまり弱、粘性強。
d　浅黄橙色（10YR8/3）　黄白色シルトブロックを少量含む。しまり弱、粘性強。
e　褐灰色（10YR5/1）　黒褐色土ブロックを微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。

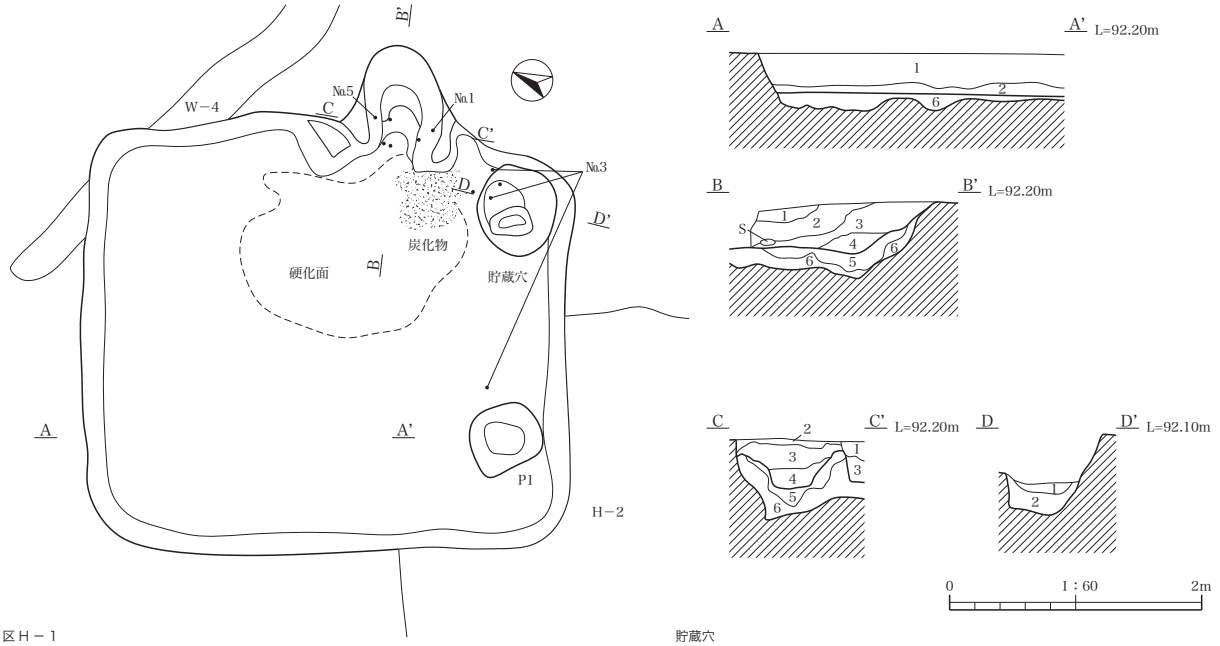
B区W－9　断面A・B
①　褐灰色（10YR4/1）　黄橙色土ブロックを微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
②　灰白色（10YR8/2）　黒褐色・灰白色土ブロックを少量含む。しまり弱、粘性強。
③　褐灰色（10YR4/1）　灰白色土ブロックを含む。しまりやや弱、粘性やや強。
④　にぶい黄橙色（10YR7/2）　褐灰色・灰白色土ブロックを含む。しまり弱、粘性強。
⑤　褐灰色（10YR5/1）　黒褐色土ブロックを微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。

B区W－10　断面A・B
1　灰白色（10YR8/1）　ラミナ状に堆積。しまり弱、粘性強。
2　にぶい黄橙色（10YR7/2）　灰白色土ブロックを含む。しまり弱、粘性やや強。
3　灰色（N6/）　粘土質。しまり弱、粘性やや弱。
4　にぶい黄褐色（10YR5/3）　小礫を含む。しまり弱、粘性やや強。
5　灰白色（N7/）　小礫を含む。しまり弱、粘性やや弱。
6　にぶい灰黄褐色（10YR4/2）　有機質をラミナ状に含む。しまり弱、粘性やや弱。
7　にぶい黄橙色（10YR6/3）　しまり弱、粘性強。
8　にぶい灰黄褐色（10YR4/2）　有機質をラミナ状に含む。しまり弱、粘性やや弱。
9　浅黄橙色（10YR8/3）　しまり弱、粘性やや強。

B区W－11　断面B
1　灰黄褐色（10YR5/2）　As-B混土層。As-Bを含む。Ⅲb層相当。
2　As-Kk
3　暗褐色（7.5YR3/3）　As-B混土層。Ⅲc層相当。
4'　桃色細粒火山灰　一次堆積。Ⅳ層相当。
4　As-B　一次堆積。Ⅳ層相当。
5　黒褐色（10YR3/2）　しまりやや強、粘性強。

第13図　B区W－1・4～6・8～11号溝跡、低地断面図

A区H−1



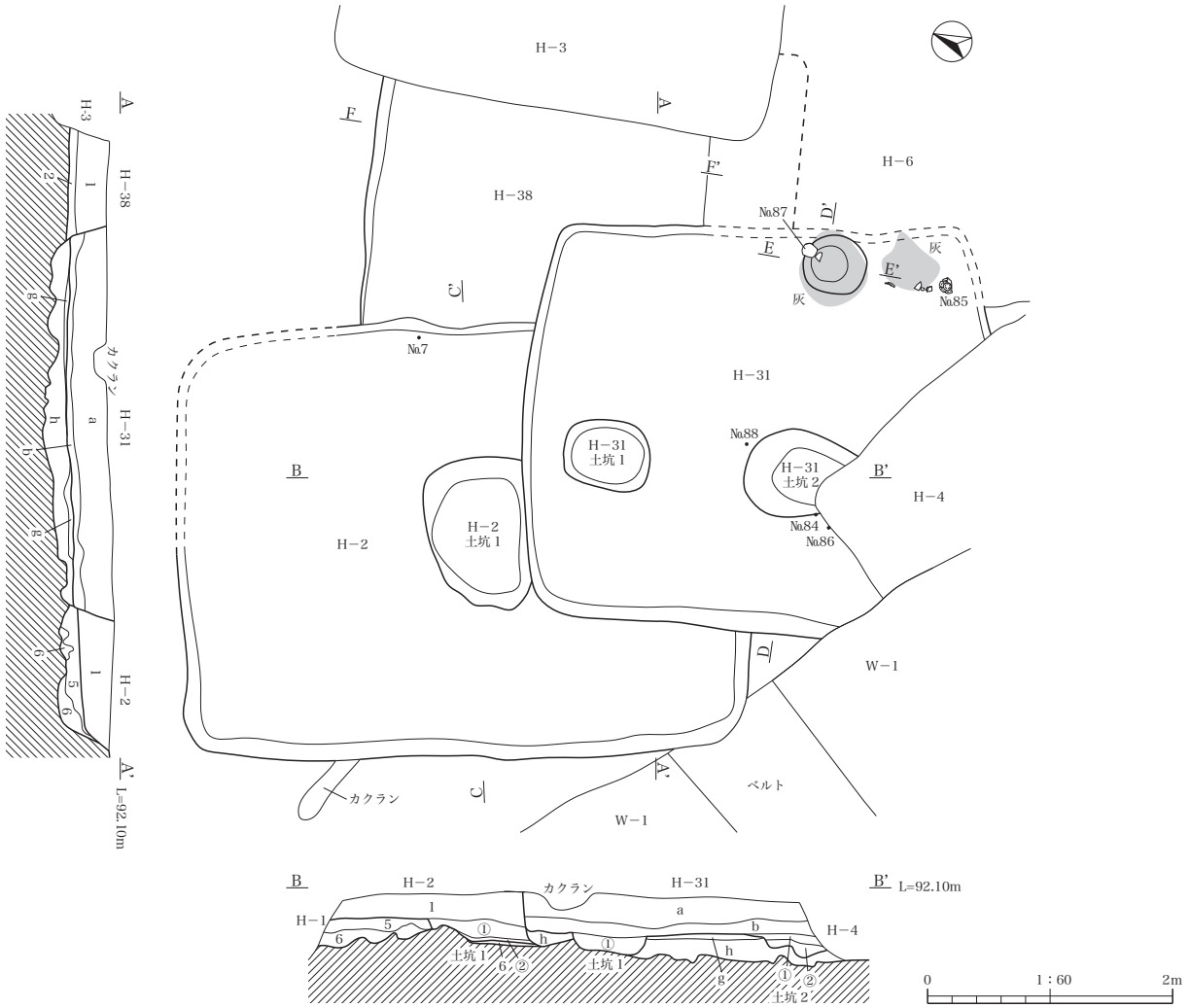
A区H−1

1	褐灰色(10YR4/1)	灰白色土・白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。
2	褐灰色(10YR4/1)	白色軽石を少量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性やや強。
3	褐灰色(10YR4/1)	灰をやや多量、焼土を少量、灰白色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	褐灰色(10YR4/1)	焼土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。下部にわずかに灰層あり。
5	灰黄褐色(10YR4/2)	黄褐色土・焼土・灰を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。カマド掘り方。
6	黒褐色(10YR3/1)	焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。

貯蔵穴

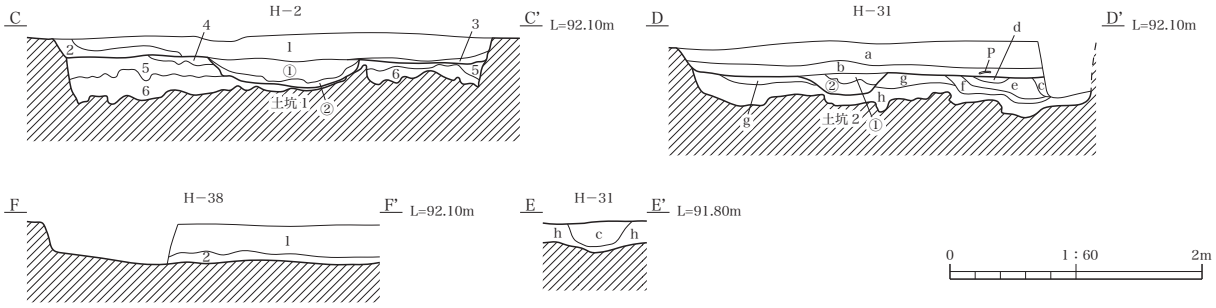
1	灰黄褐色(10YR5/2)	黄褐色土・焼土・灰を少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
2	灰黄褐色(10YR5/2)	黄褐色土・焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。

A区H−2・31・38（1）



第14図　A区H−1号住居跡、H−2・31・38号住居跡（1）

A区H−2・31・38（2）



A区H−2

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。
5	黒褐色 (10YR3/1)	白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。
6	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色砂を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。

A区H−2　土坑1

①	黒褐色 (10YR3/2)	焼土・灰を微量含む。しまり・粘性やや弱。
②	灰白色 (10YR8/1)	粘土。黒色土を少量含む。しまりやや強、粘性強。

A区H−38

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石・焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色砂を微量含む。しまり・粘性やや弱。

A区H−31

a	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石を少量、黄褐色砂・焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
b	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石・焼土・灰を微量含む。しまり・粘性やや弱。
c	黒褐色 (10YR3/2)	灰を多量、焼土を微量含む。しまり・粘性弱。カマド掘り方。
d	灰白色 (10YR8/2)	砂質。焼土・灰を微量含む。しまりやや強、粘性弱。カマド掘り方。
e	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。カマド掘り方。
f	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰を多量含む。しまり・粘性弱。カマド掘り方。
g	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。
h	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色砂を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。

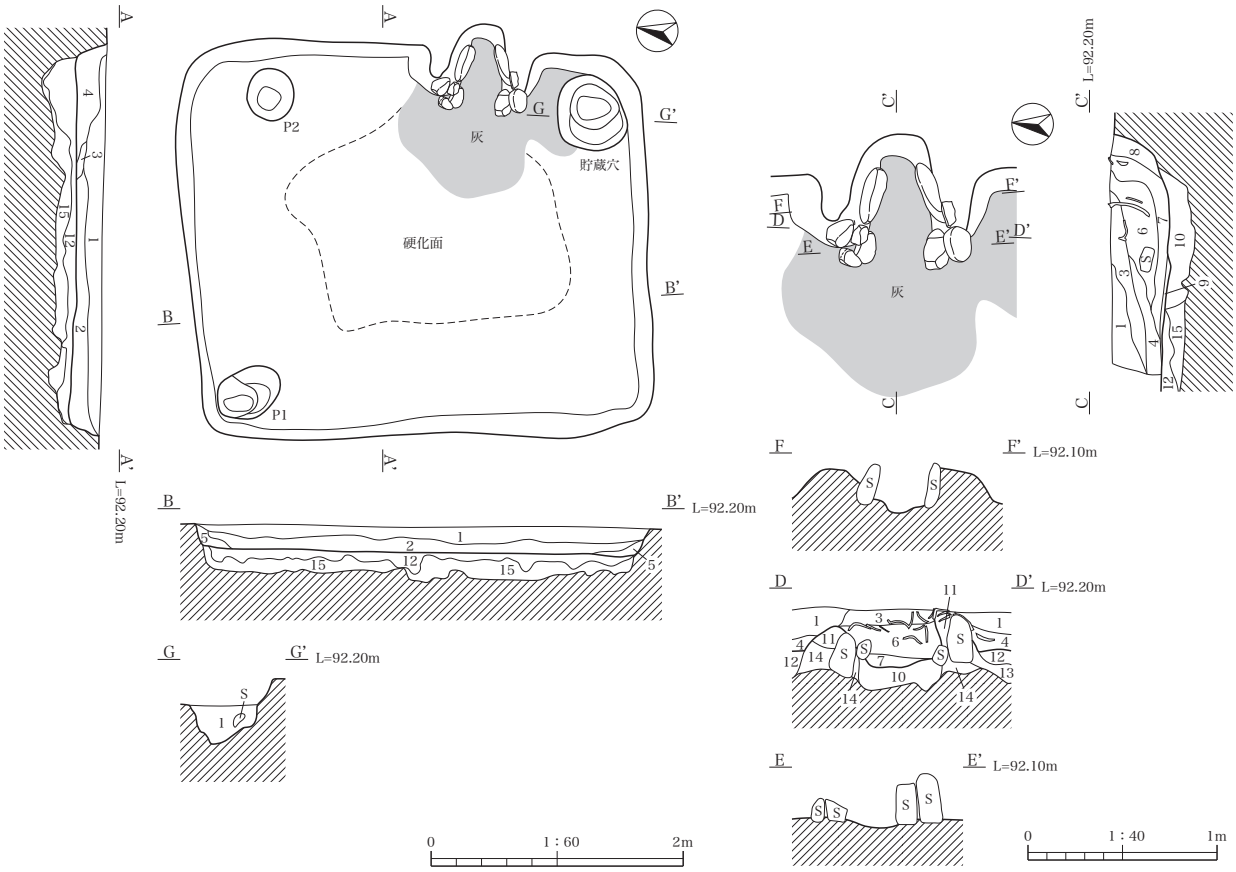
A区H−31　土坑1

①	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石・焼土・灰を微量含む。しまり・粘性やや弱。

A区H−31　土坑2

①	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
②	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰を多量、黄褐色砂を少量含む。しまり・粘性弱。

A区H−3（1）



A区H−3

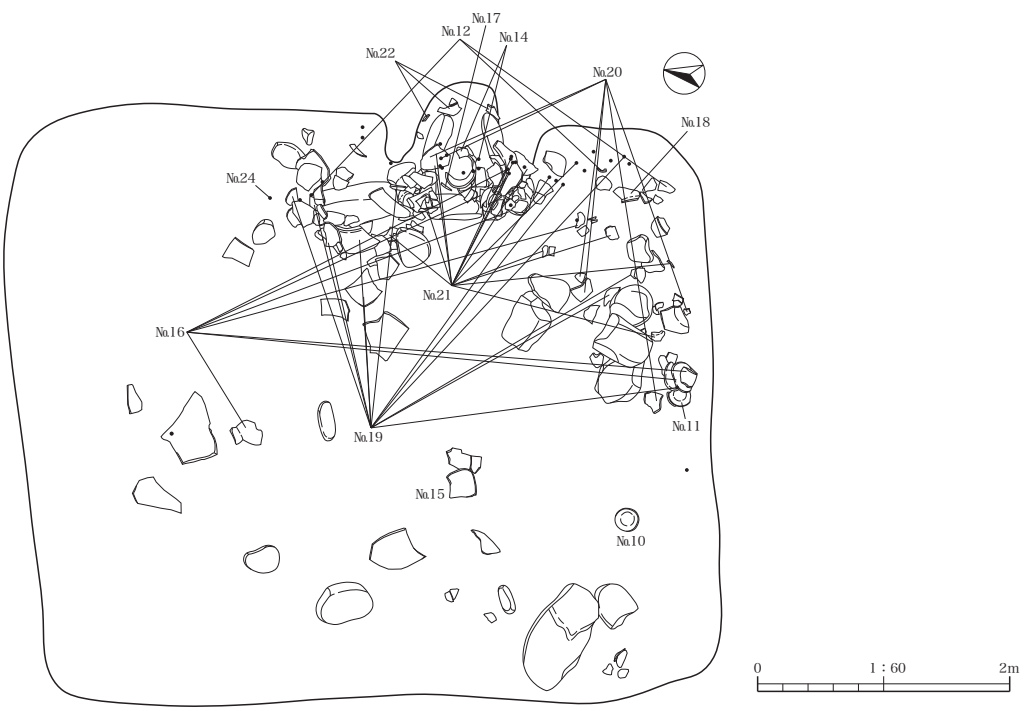
1	極暗褐色 (7.5YR2/3)	白色軽石少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (7.5YR3/2)	白色軽石を微量含む。焼土・炭化物を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (7.5YR3/2)	焼土・炭化物を多量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (7.5YR3/2)	灰褐色土ブロックを多量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
5	暗褐色 (7.5YR3/3)	黄褐色土ブロックをやや多量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
6	灰黄褐色 (10YR5/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
7	褐灰色 (10YR4/1)	焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
8	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。
9	灰色 (N6/)	灰層。焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
10	灰黄褐色 (10YR4/2)	黄褐色砂・焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。カマド掘り方。
11	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
12	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色砂を少量、白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。
13	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖の基部。
14	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色砂・焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖の基部。
15	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色砂をやや多量含む。しまりやや強、粘性弱。掘り方。

貯蔵穴

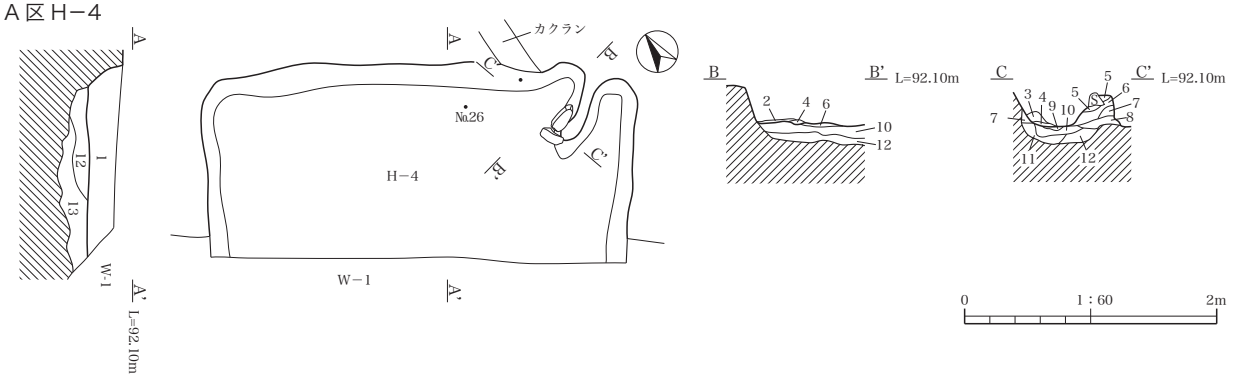
1	黒褐色 (10YR3/1)	焼土・炭化物を微量含む。しまり弱、粘性やや弱。

第15図　A区H−2・31・38号住居跡（2）、H−3号住居跡（1）

A区H−3（2）



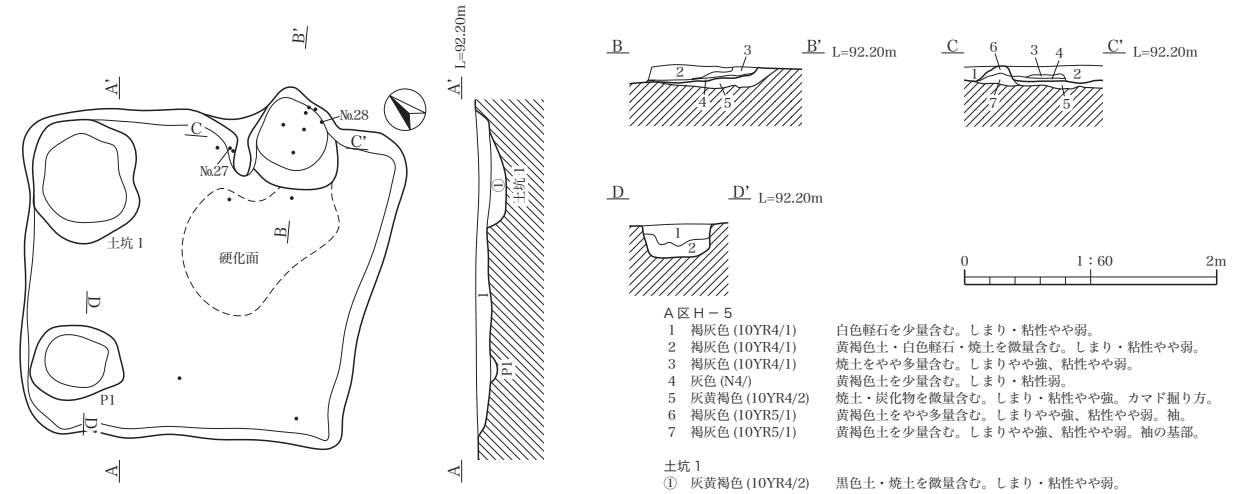
A区H−4



A区H−4

1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
2	灰白色 (10YR8/2)	褐灰色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
3	橙色 (5YR6/8)	焼土。褐灰色土を多量含む。しまりやや強く、粘性やや弱い。
4	灰色 (N4/)	灰層。焼土を微量含む。しまり・粘性弱。
5	黒褐色 (10YR3/1)	焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
6	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・灰を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
7	黒褐色 (10YR3/1)	白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
8	灰白色 (10YR8/2)	粘土。しまり・粘性やや強い。袖。
9	橙色 (5YR6/8)	焼土。褐灰色土を微量含む。しまりやや弱く、粘性弱い。上面が火床面。カマド掘り方。
10	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土を微量含む。しまりやや強く、粘性やや弱い。カマド掘り方。
11	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	褐灰色土を多量含む。しまり・粘性やや強。カマド掘り方。
12	黒褐色 (10YR3/1)	焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。
13	褐灰色 (10YR4/1)	しまり・粘性やや弱。掘り方。

A区H−5



A区H−5

1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を少量含む。しまり・粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土・白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR4/1)	焼土をやや多量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	灰色 (N4/)	黄褐色土を少量含む。しまり・粘性弱。
5	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性やや強。カマド掘り方。
6	褐灰色 (10YR5/1)	黄褐色土をやや多量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
7	褐灰色 (10YR5/1)	黄褐色土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖の基部。

土坑1

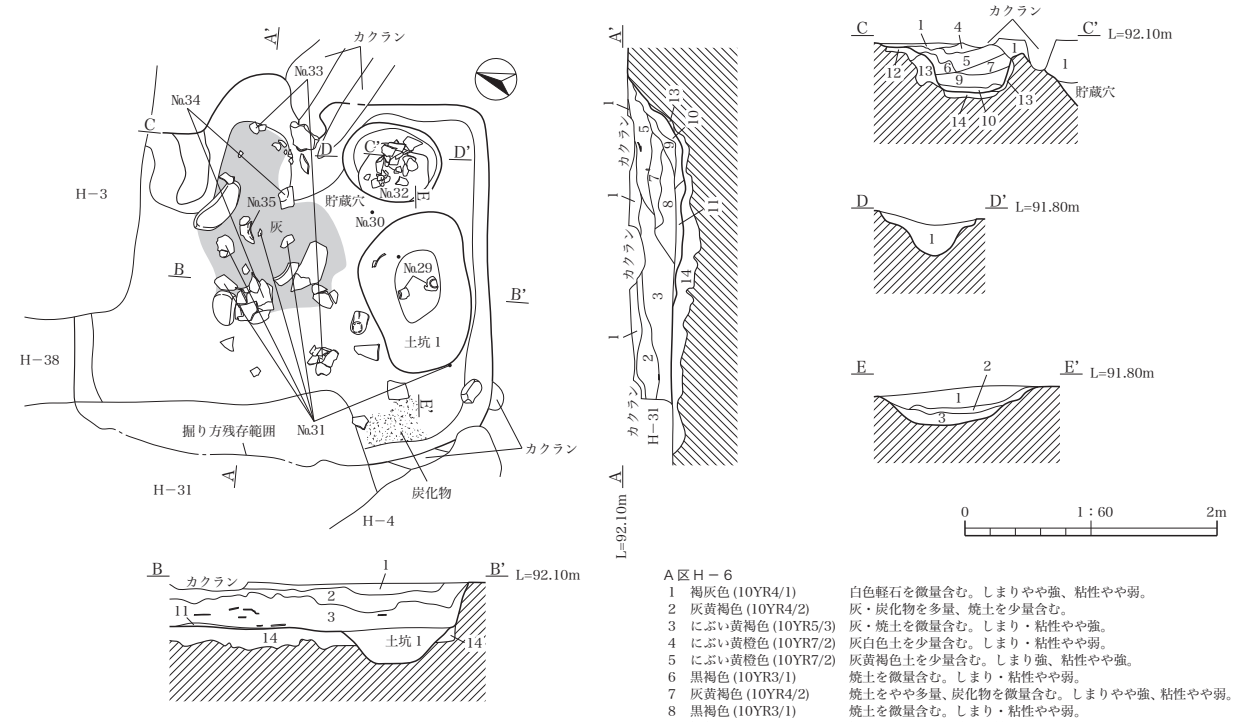
①	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒色土・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。

P1

1	灰黄褐色土 (10YR4/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
2	黒褐色土 (10YR3/1)	黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強。

第16図　A区H−3号住居跡（2）、H−4号住居跡、H−5号住居跡

A区H−6

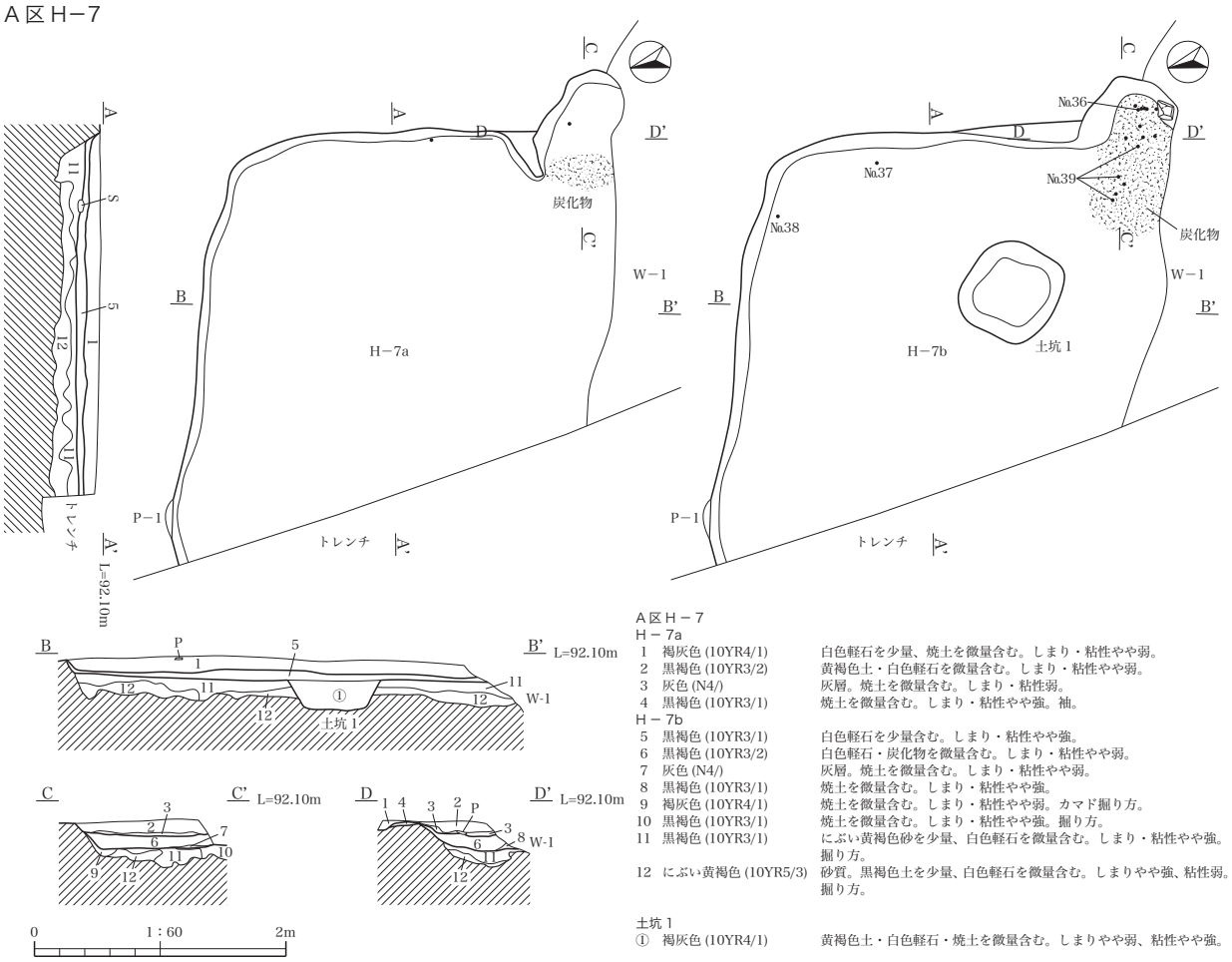


貯蔵穴
1　灰黄褐色 (10YR4/2)　焼土をやや多量、灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。

土坑1
1　褐灰色 (10YR4/1)　灰白色土・焼土・灰を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
2　にぶい黄橙色 (10YR7/3)　しまりやや弱、粘性やや強。
3　灰黄褐色 (10YR5/2)　しまりやや弱、粘性やや強。

A区H−6
1　褐灰色 (10YR4/1)　白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2　灰黄褐色 (10YR4/2)　灰・炭化物を多量、焼土を少量含む。
3　にぶい黄褐色 (10YR5/3)　灰・焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。
4　にぶい黄橙色 (10YR7/2)　灰白色土を少量含む。しまり・粘性やや弱。
5　にぶい黄橙色 (10YR7/2)　灰黄褐色土を少量含む。しまり強、粘性やや強。
6　黒褐色 (10YR3/1)　焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
7　灰黄褐色 (10YR4/2)　焼土をやや多量、炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
8　黒褐色 (10YR3/1)　焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
9　橙色 (5YR6/8)　焼土。しまりやや強、粘性弱。
10　灰色 (N4/)　灰層。焼土を微量含む。しまり・粘性弱。
11　灰色 (N4/)　灰・焼土をやや多量含む。しまり・粘性弱。
12　灰白色 (10YR8/2)　褐灰色土を少量、白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
13　灰黄褐色 (10YR4/2)　焼土・灰を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
14　褐灰色 (10YR4/1)　黄褐色砂を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。

A区H−7

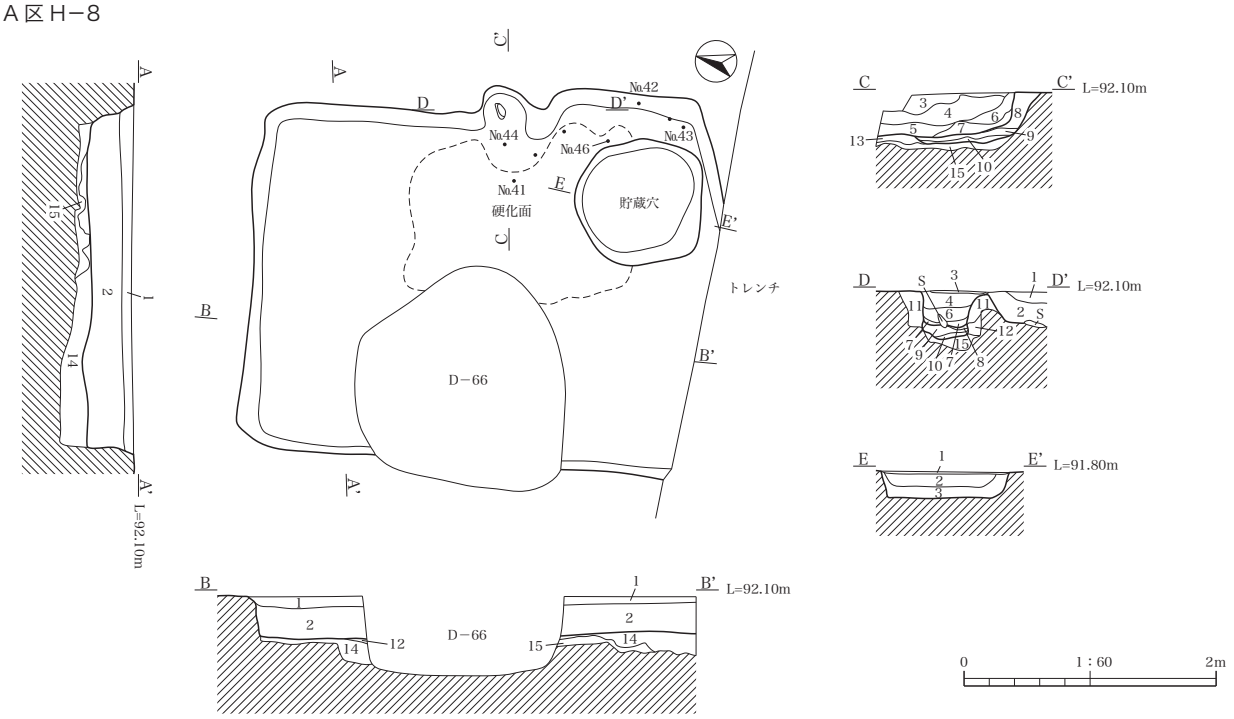


A区H−7
H−7a
1　褐灰色 (10YR4/1)　白色軽石を少量、焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
2　黒褐色 (10YR3/2)　黄褐色土・白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。
3　灰色 (N4/)　灰層。焼土を微量含む。しまり・粘性弱。
4　黒褐色 (10YR3/1)　焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。袖。
H−7b
5　黒褐色 (10YR3/1)　白色軽石を少量含む。しまり・粘性やや強。
6　黒褐色 (10YR3/2)　白色軽石・炭化物を微量含む。しまり・粘性やや弱。
7　灰色 (N4/)　灰層。焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
8　黒褐色 (10YR3/1)　焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。
9　褐灰色 (10YR4/1)　焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。カマド掘り方。
10　黒褐色 (10YR3/1)　焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。
11　黒褐色 (10YR3/1)　にぶい黄褐色砂を少量、白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。
12　にぶい黄褐色 (10YR5/3)　砂質。黒褐色土を少量、白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性弱。掘り方。

土坑1
①　褐灰色 (10YR4/1)　黄褐色土・白色軽石・焼土を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。

第17図　A区H−6号住居跡、H−7号住居跡

A区H−8



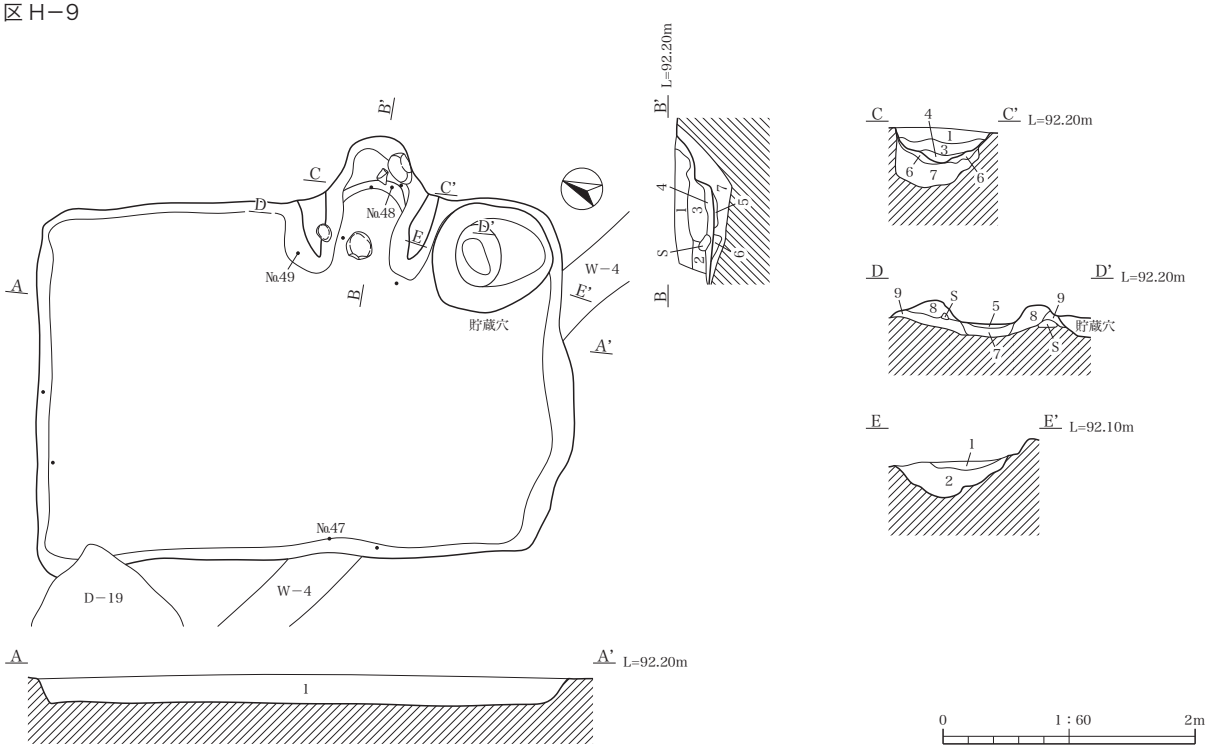
A区H−8

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石を少量、炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR3/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR5/1)	白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土・白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや強。
5	灰黄褐色 (10YR4/2)	黄褐色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
6	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰をやや多量含む。しまり・粘性やや弱。
7	灰色 (N6/)	灰層。焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。下面が最終火床面。
8	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰をやや多量含む。しまり・粘性やや弱。
9	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土をやや多量含む。しまり・粘性やや弱。
10	灰 (N6/)	焼土を少量含む。しまり・粘性弱。下面が火床面。
11	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。袖。
12	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。袖。
13	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。カマド掘り方。
14	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。
15	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	黒褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。

貯蔵穴

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	しまり・粘性やや強。
2	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土・炭化物をやや多量含む。しまり・粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR4/1)	しまりやや弱、粘性やや強。

A区H−9



A区H−9

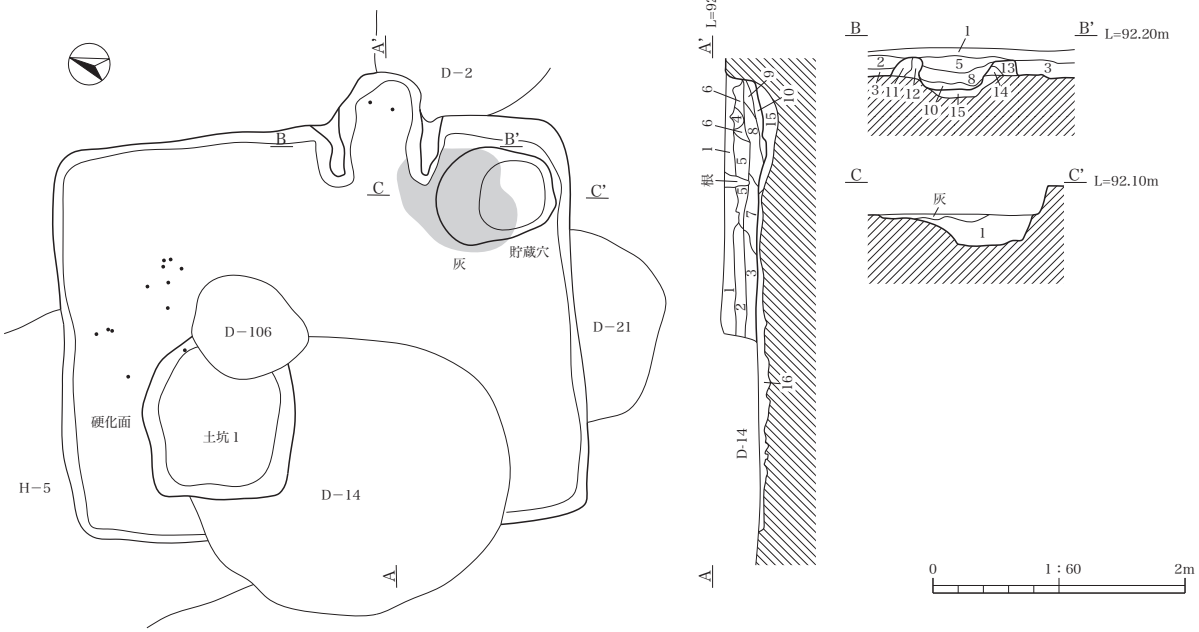
1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を少量、黄褐色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR5/1)	黄褐色土・焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。
4	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰をやや多量含む。しまり・粘性弱。
5	明赤褐色 (5YR5/6)	焼土。被熱部。上面が火床面。
6	黒褐色 (10YR3/1)	焼土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。カマド掘り方。
7	黒褐色 (10YR3/1)	しまり・粘性やや強。カマド掘り方。
8	黒褐色 (10YR3/1)	焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
9	黒色 (10YR2/1)	しまり・粘性やや強。袖。

貯蔵穴

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰を少量含む。しまりやや強・粘性やや弱。
2	灰色 (N4/)	黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱。

第18図　A区H−8号住居跡、H−9号住居跡

A区H−10



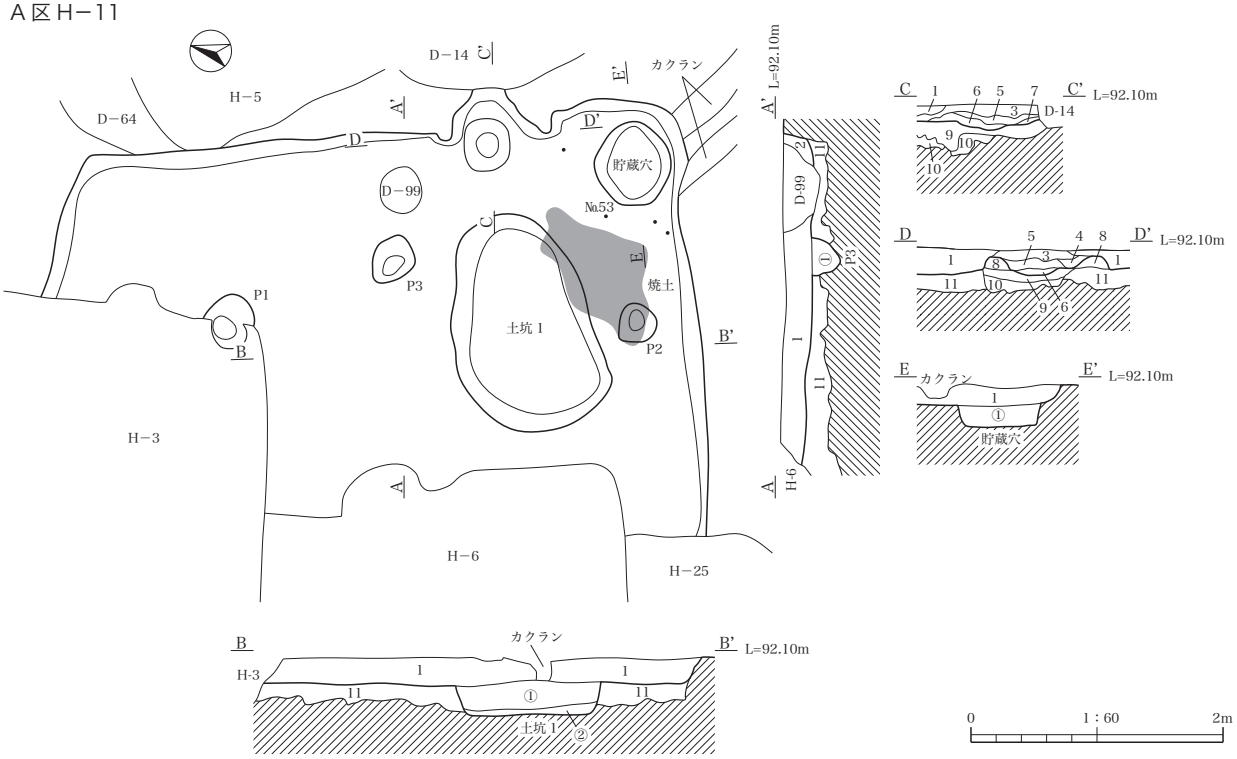
A区H−10

1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を少量、焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR5/1)	黄褐色土を少量、白色軽石・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	灰黄褐色 (10YR5/2)	黄褐色土・黒色土・白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。
4	褐灰色 (10YR5/1)	黄褐色土・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
5	褐灰色 (10YR5/1)	黒色土を少量、白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
6	褐灰色 (10YR6/1)	焼土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。
7	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
8	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土をやや多量含む。しまり・粘性やや弱。
9	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
10	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土を多量、灰をやや多量含む。しまりやや強、粘性弱。
11	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	黒褐色土を少量、焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
12	灰黄褐色 (10YR5/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
13	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石・焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
14	灰黄褐色 (10YR5/2)	焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
15	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。カマド掘り方。上面が火床面。
16	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。

貯蔵穴

1	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。

A区H−11



A区H−11

1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	灰黄褐色 (10YR5/2)	しまりやや強、粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR3/1)	焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
5	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰を少量含む。しまりやや弱、粘性弱。
6	黒褐色 (10YR3/1)	灰を多量、黄褐色土・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
7	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
8	褐灰色 (10YR4/1)	焼土・灰を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
9	黒褐色 (10YR3/1)	焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。カマド掘り方。
10	灰黄褐色 (10YR5/2)	黄褐色砂を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。カマド掘り方。
11	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土・白色軽石を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。

P3

①	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色砂を微量含む。しまり・粘性やや弱。

貯蔵穴

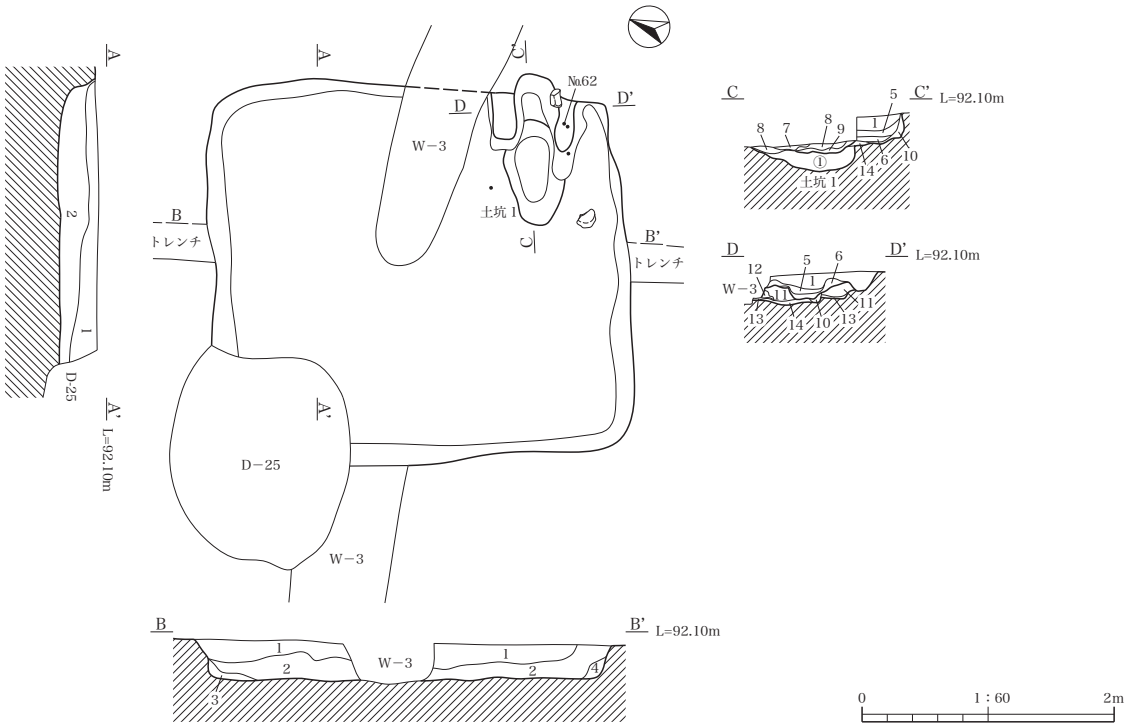
①	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒色土を少量、黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。

土坑1

①	黒褐色 (10YR3/1)	灰黄褐色土を少量、白色軽石を微量含む。しまり・粘性やや弱。
②	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色砂を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。

第19図　A区H−10号住居跡、H−11号住居跡

A区H−13



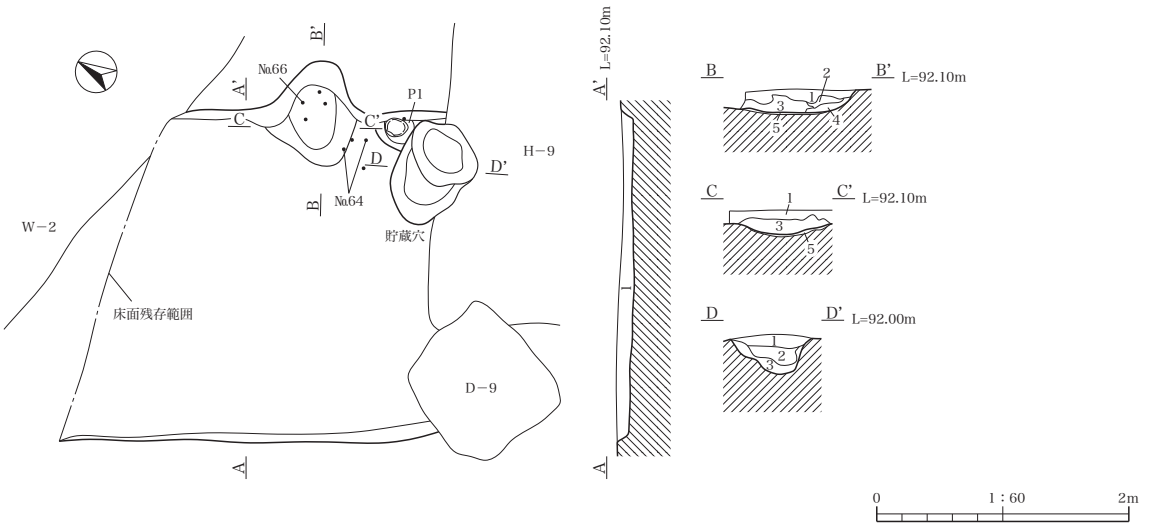
A区H−13

1	褐色 (10YR3/3)	白色軽石・焼土・炭化物をやや多量含む。
2	暗褐色 (10YR3/3)	白色軽石・焼土・炭化物を少量含む。
3	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	しまりやや弱、粘性やや強。
4	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	黄褐色土ブロック少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
5	暗褐色 (10YR3/3)	軽石・焼土を微量含む。
6	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	炭化物･焼土多量、黄褐色土ブロック少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
7	褐灰色 (10YR4/1)	灰層。黄褐色土粒少量含む。
8	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	白色軽石を少量含む。しまり強、粘性弱。
9	褐灰色 (10YR4/1)	灰層。しまり・粘性やや弱。
10	黒褐色 (10YR3/2)	黄褐色粒微量含む。カマド掘り方。
11	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	黄褐色土ブロック・炭化物・白色軽石・焼土を少量含む。しまりやや弱、粘性強。袖。
12	灰褐色 (10YR4/2)	黄褐色土ブロック・炭化物・白色軽石・焼土を微量含む。袖。
13	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土粒少量含む。カマド掘り方。
14	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色土ブロックを少量、炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。カマド掘り方。

土坑1

①	灰黄褐色 (10YR5/2)	黄褐色粒微量含む。

A区H−16



A区H−16

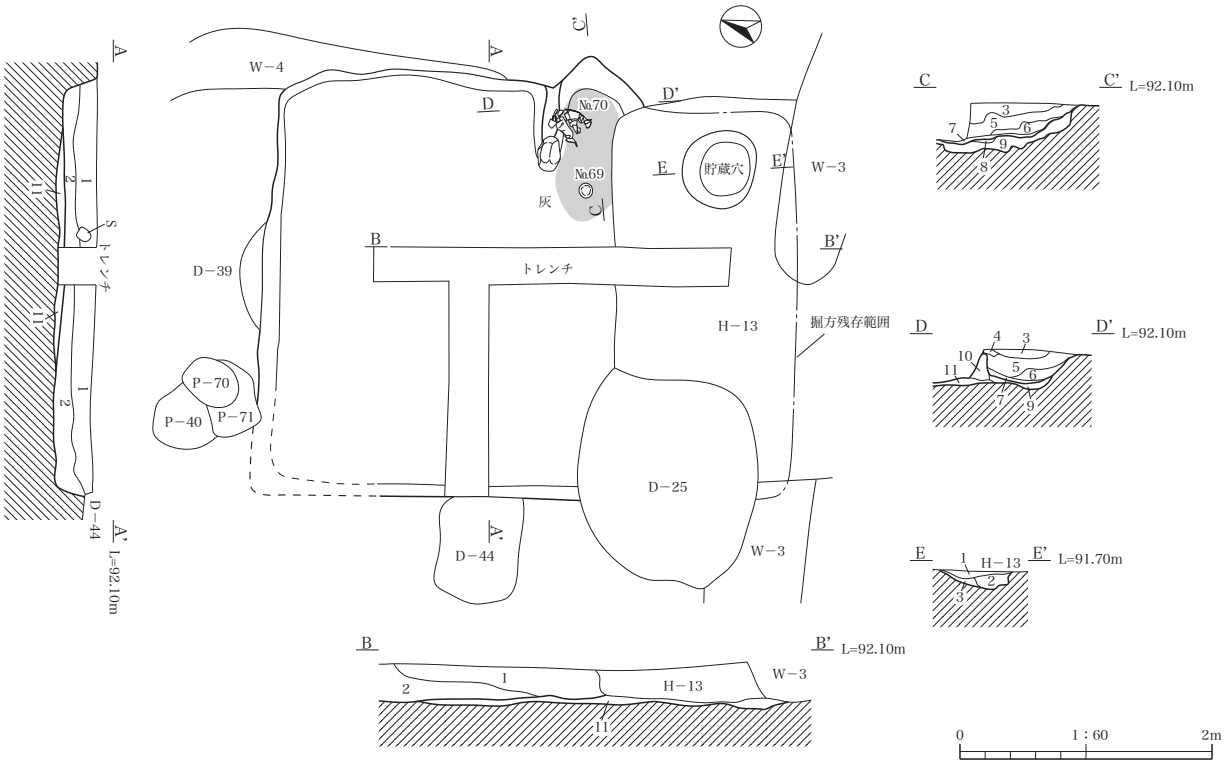
1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を少量、炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR4/1)	焼土を少量含む。しまり・粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR5/1)	灰黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR3/1)	焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
5	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土・灰を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。カマド掘り方。

貯蔵穴

1	褐灰色 (10YR4/1)	しまり・粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR5/1)	焼土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR3/1)	にぶい黄橙色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。

第20図　A区H−13号住居跡、H−16号住居跡

A区H−17



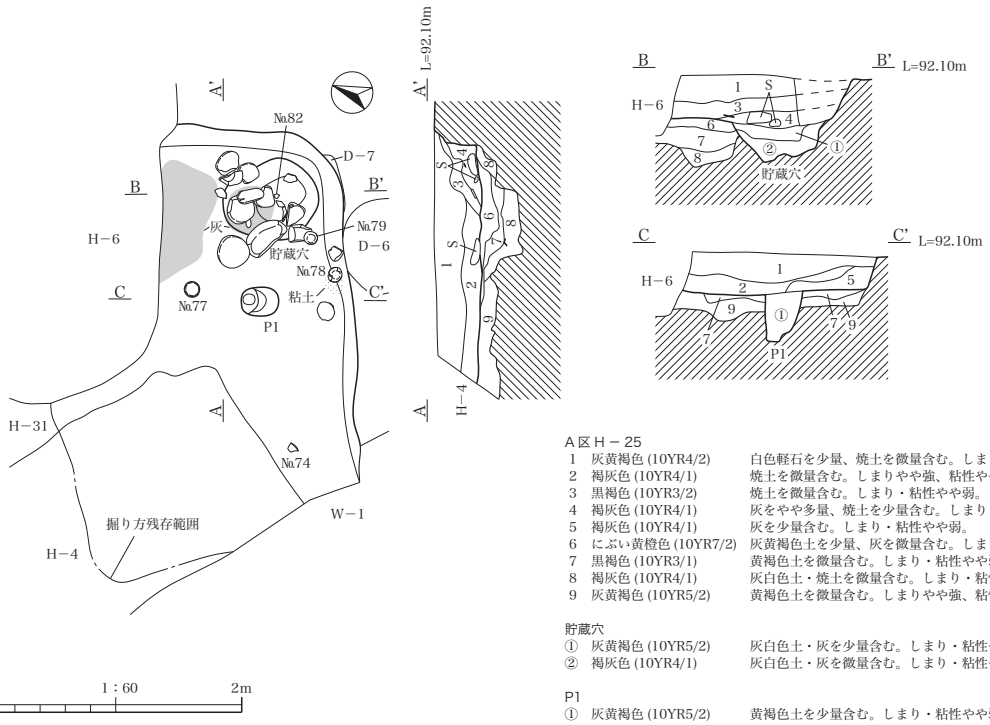
A区H−17

1	黒褐色 (7.5YR2/2)	白色軽石・焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (7.5YR3/2)	白色軽石・焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	褐灰色 (10YR5/1)	焼土・灰を少量含む。
4	灰黄褐色 (10YR5/2)	白色軽石を微量含む。
5	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土・炭化物を多量に含む。しまりやや弱、粘性やや強。
6	褐灰色 (10YR5/1)	灰ブロック・焼土を少量含む。しまり・粘性やや弱。
7	灰色 (N6/)	灰層。しまり・粘性やや弱。
8	褐灰色 (10YR4/1)	焼土ブロックを多量、黄褐色土ブロックを少量含む。しまり・粘性やや強。カマド掘り方。
9	褐灰色 (10YR4/1)	黄褐色土ブロック多量、白色軽石・焼土粒微量含む。カマド掘り方。
10	暗褐色 (10YR3/3)	黄褐色土・焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
11	灰黄褐色 (10YR4/2)	黒色粘質土ブロック・白色軽石を多量含む。しまりやや弱、粘性やや強。掘り方。

貯蔵穴

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	
2	暗褐色 (10YR3/3)	白色軽石・焼土を微量含む。
3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	

A区H−25



A区H−25

1	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石を少量、焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR4/1)	焼土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR3/2)	焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。
4	褐灰色 (10YR4/1)	灰をやや多量、焼土を少量含む。しまり・粘性弱。
5	褐灰色 (10YR4/1)	灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。
6	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	灰黄褐色土を少量、灰を微量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。
7	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色土を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。
8	褐灰色 (10YR4/1)	灰白色土・焼土を微量含む。しまり・粘性やや弱。掘り方。
9	灰黄褐色 (10YR5/2)	黄褐色土を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方。

貯蔵穴

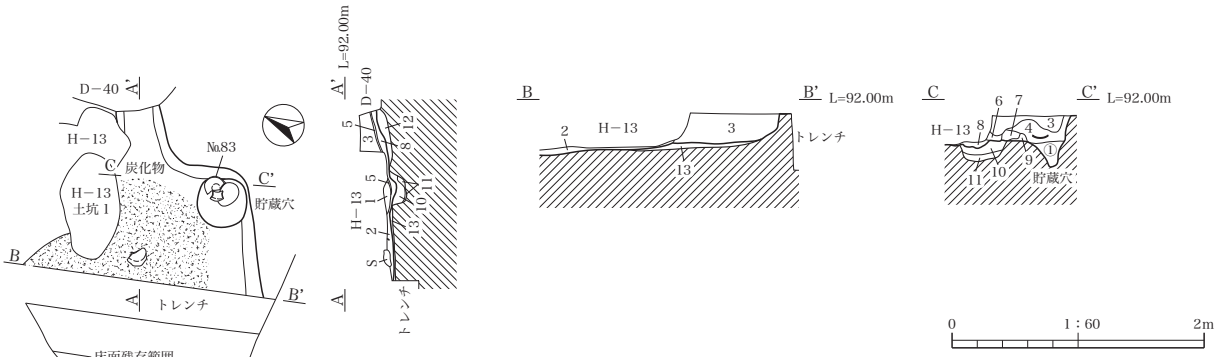
①	灰黄褐色 (10YR5/2)	灰白色土・灰を少量含む。しまり・粘性やや弱。
②	褐灰色 (10YR4/1)	灰白色土・灰を微量含む。しまり・粘性やや弱。

P1

①	灰黄褐色 (10YR5/2)	黄褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱。

第21図　A区H−17号住居跡、H−25号住居跡

A区H−26



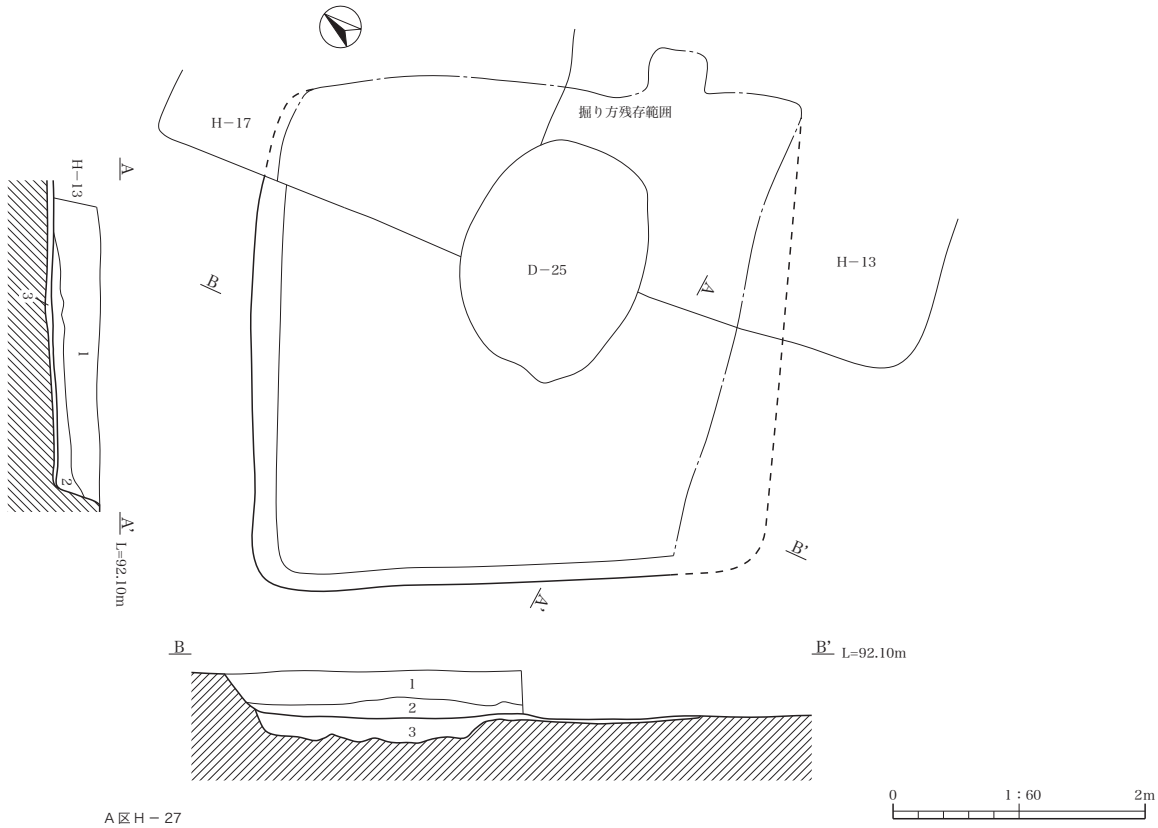
A区H−26

1	褐色 (10YR4/6)	黄褐色土ブロックを少量含む。しまり強、粘性やや弱。
2	暗褐色 (10YR3/3)	白色軽石・黄褐色土粒を少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3	暗褐色 (10YR3/4)	白色軽石・焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR3/2)	白色軽石を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
5	灰黄褐色 (10YR4/2)	粘質土が互層状に堆積。しまりやや強、粘性やや弱。
6	暗褐色 (10YR3/3)	灰・炭化物を多量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
7	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	灰を多量含む。しまり弱、粘性強。
8	灰黄褐色 (10YR4/2)	灰・黄褐色土ブロックを含む。しまりやや弱、粘性やや強。
9	暗褐色 (10YR3/3)	黄褐色土粒を微量含む。しまり、粘性やや強。
10	黒褐色 (10YR3/1)	焼土・灰・炭化物を多量含む。しまりやや弱、粘性やや強。掘り方。
11	灰黄褐色 (10YR5/2)	黄褐土ブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。掘り方。
12	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	しまり強、粘性やや弱。掘り方。
13	褐色 (10YR4/6)	しまりやや弱、粘性やや強。掘り方。

貯蔵穴

①	黒褐色 (10YR3/2)	黄褐色土ブロック・焼土を少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。

A区H−27

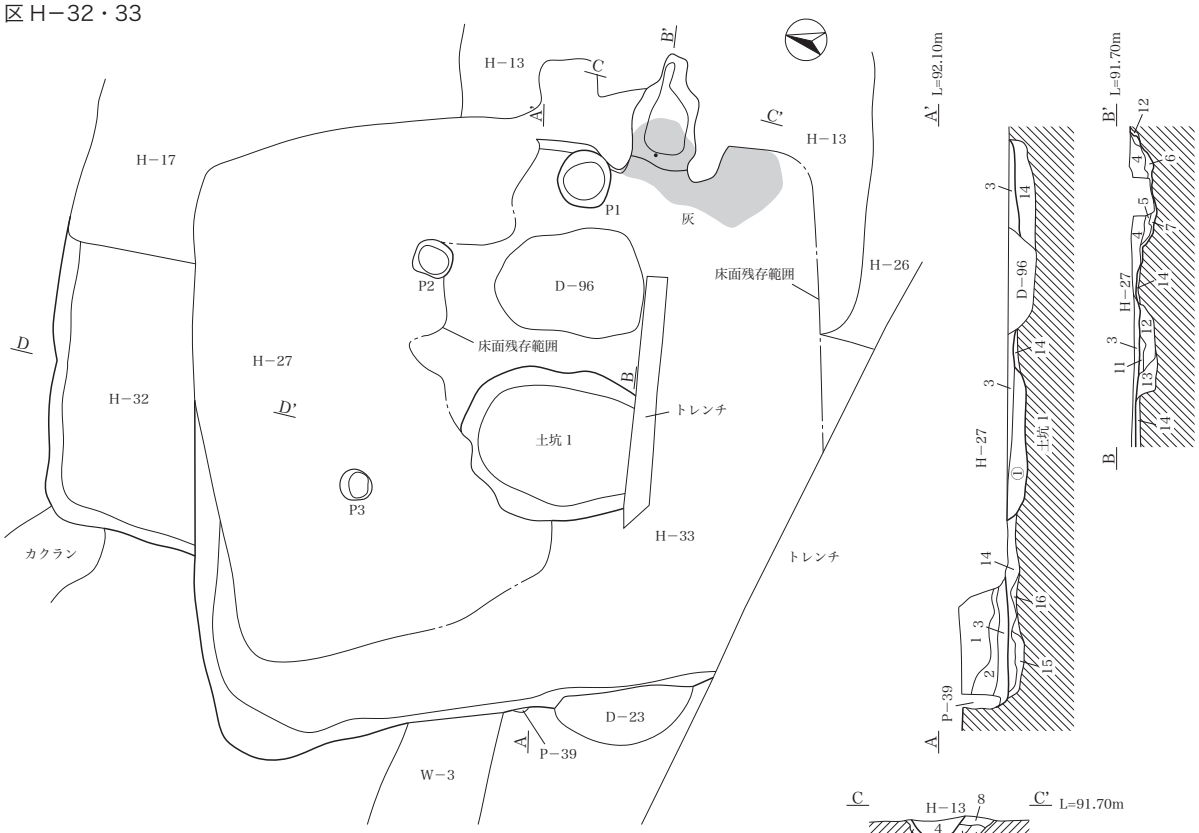


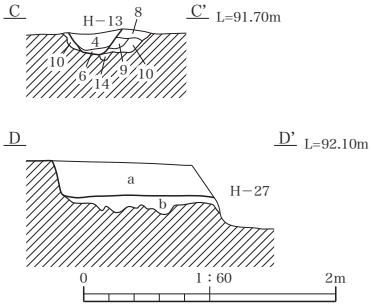
A区H−27

1	暗褐色 (10YR3/3)	白色軽石・焼土少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を少量、焼土・炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黄灰色 (2.5Y4/1)	灰・黄褐色土ブロックを多量含む。しまりやや弱、粘性やや強。掘り方。

第22図　A区H−26号住居跡、H−27号住居跡

A区H−32・33





A区H−33

1	褐灰色 (10YR4/1)	白色軽石を少量、焼土･炭化物を微量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黄灰色 (2.5Y4/1)	灰・黄褐色土ブロックを多量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3	暗褐色 (10YR3/3)	白色軽石・焼土少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR3/1)	焼土・灰を含む。しまりやや弱、粘性やや強。
5	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黄褐色土ブロックを少量、焼土・炭化物を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
6	暗褐色 (10YR3/3)	焼土ブロックを多量、灰・炭化物を少量、白色軽石を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
7	黒褐色 (10YR2/3)	灰・焼土・炭化物を多量、白色軽石を微量含む。しまり弱、粘性強。
8	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	白色軽石・焼土・炭化物を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。袖。
9	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黄褐色土ブロックを多量含む。袖。
10	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石・黄褐色土粒・焼土を少量含む。しまり・粘性やや強。袖。
11	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	灰・黄褐色土ブロックを多量含む。掘り方。
12	灰黄褐色 (10YR4/2)	焼土ブロックを多量、白色軽石・黄褐色土粒を少量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。
13	灰黄褐色 (10YR4/2)	白色軽石・黄褐色土粒を少量含む。しまり・粘性やや強。掘り方。
14	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	炭化物を多量、黄褐色土ブロック・軽石を少量含む。掘り方。
15	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	黄褐色土ブロックを少量含む。掘り方。
16	黒褐色 (10YR3/1)	黄褐色土ブロックを多量含む。掘り方。

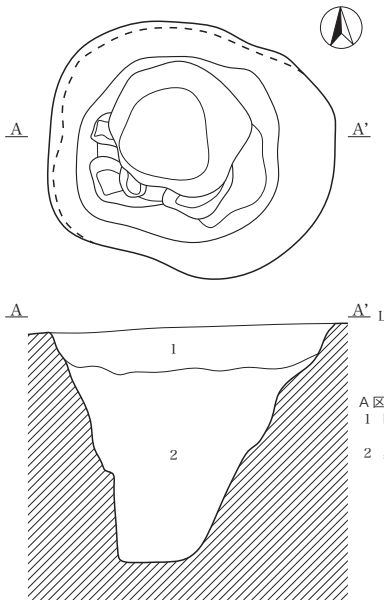
A区H−32

a	黒褐色 (7.5YR2/2)	白色軽石・焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
b	暗褐色 (10YR3/3)	しまりやや弱、粘性やや強。掘り方。

A区H−33 土坑1

①	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	白色軽石・黄褐色土粒を微量含む。

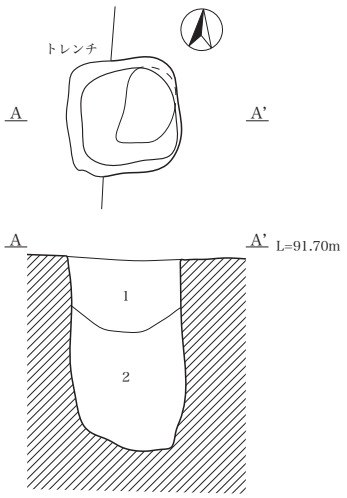
A区I−4



A区I−4

1	暗褐色（10YR3/3）	白色軽石・炭化物を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR3/1）	灰褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。

A区I−6



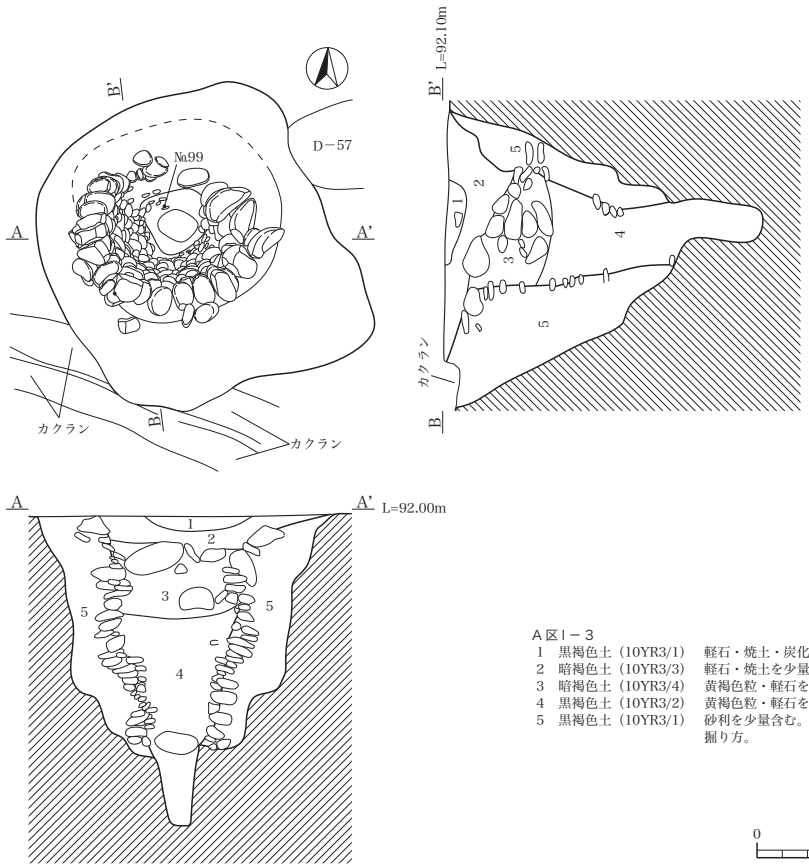
A区I−6

1	黒褐色（10YR3/2）	にぶい黄褐色シルトブロックを少量、黒色土を微量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
2	黒褐色（10YR3/1）	にぶい黄橙色シルトブロックを微量含む。しまり・粘性やや強。

0　1：60　2m

第23図　A区H−32・33号住居跡、I−4・6号井戸跡

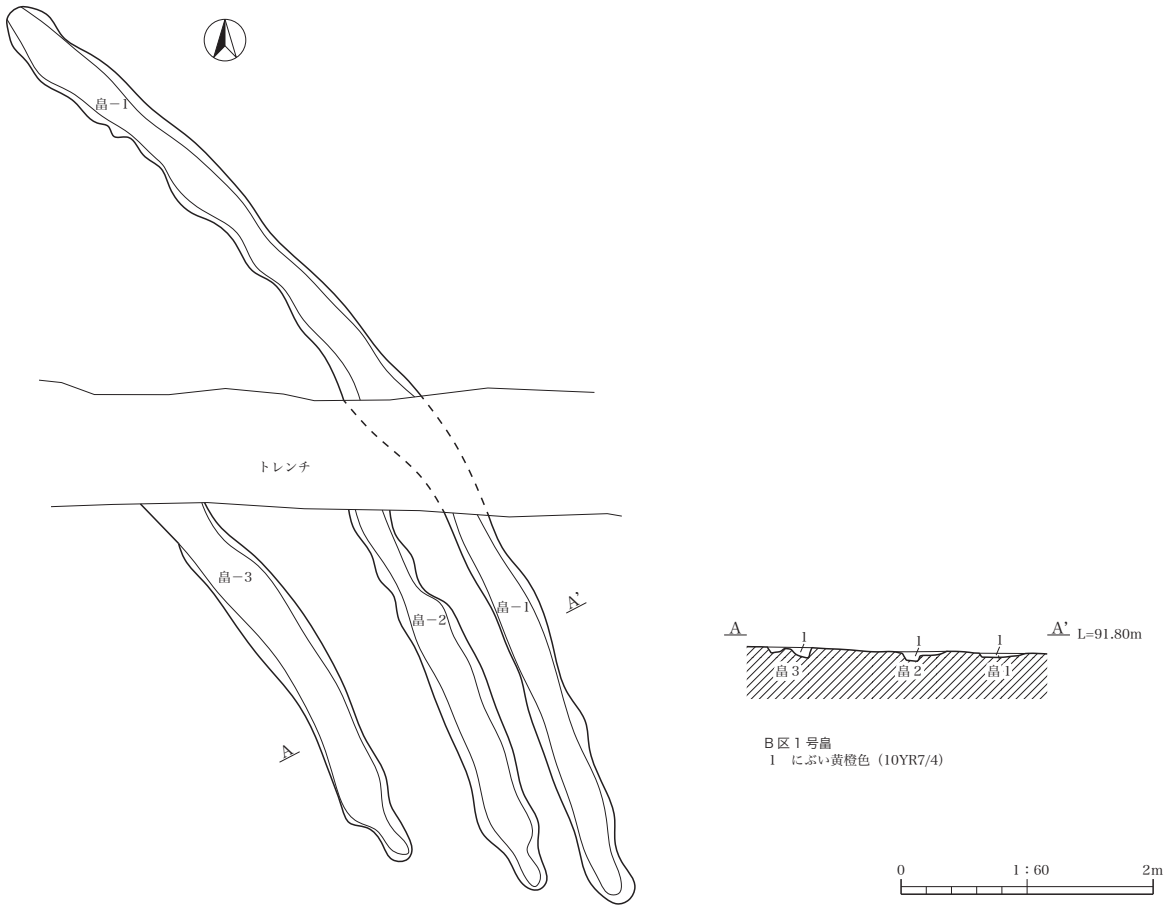
A区I−3



A区I−3
1　黒褐色土（10YR3/1）　軽石・焼土・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　軽石・焼土を少量含む。粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色粒・軽石を多量含む。崩落土。
4　黒褐色土（10YR3/2）　黄褐色粒・軽石を少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/1）　砂利を少量含む。しまり・粘性やや強い。
掘り方。

0　1：60　2m

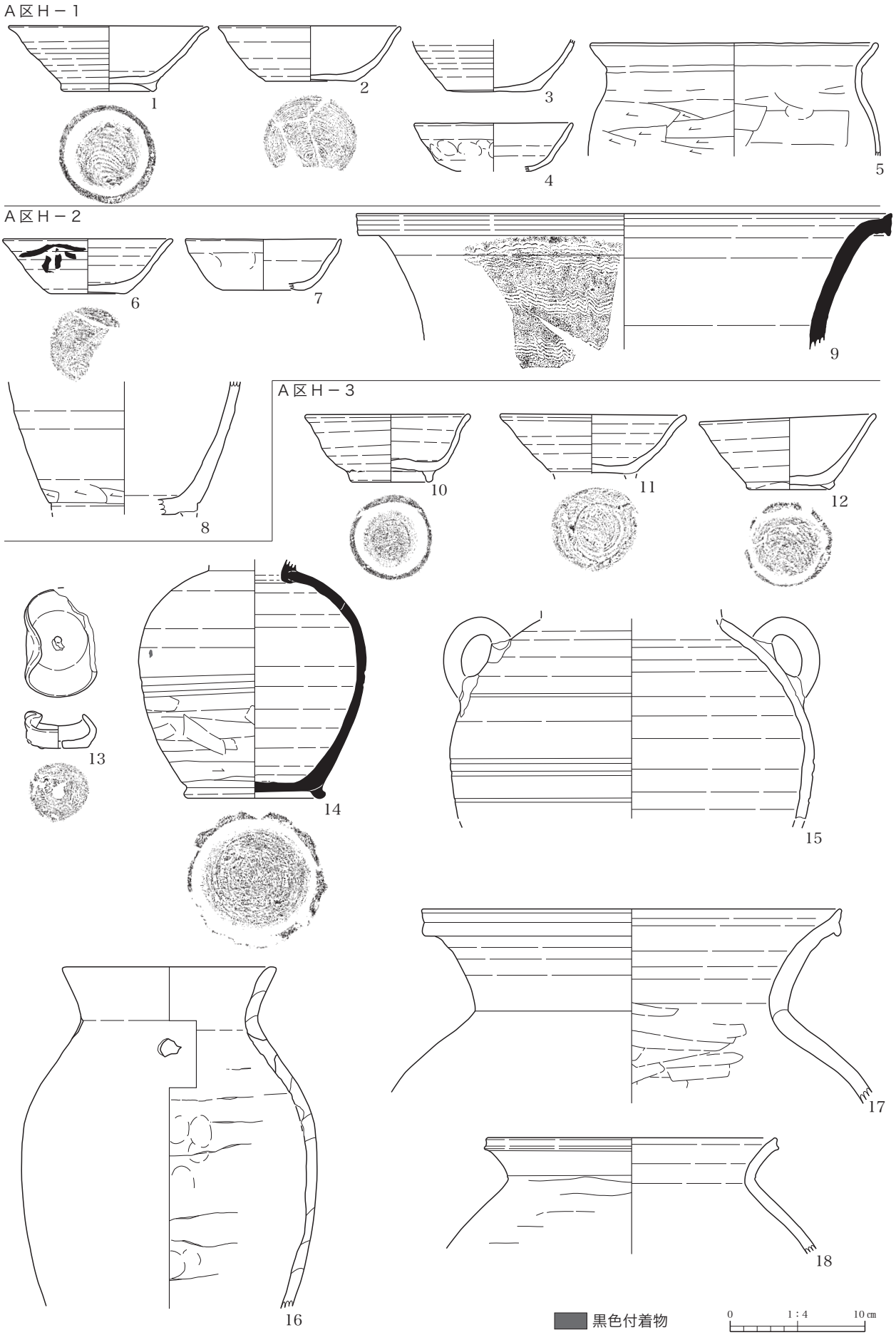
B区1号畠



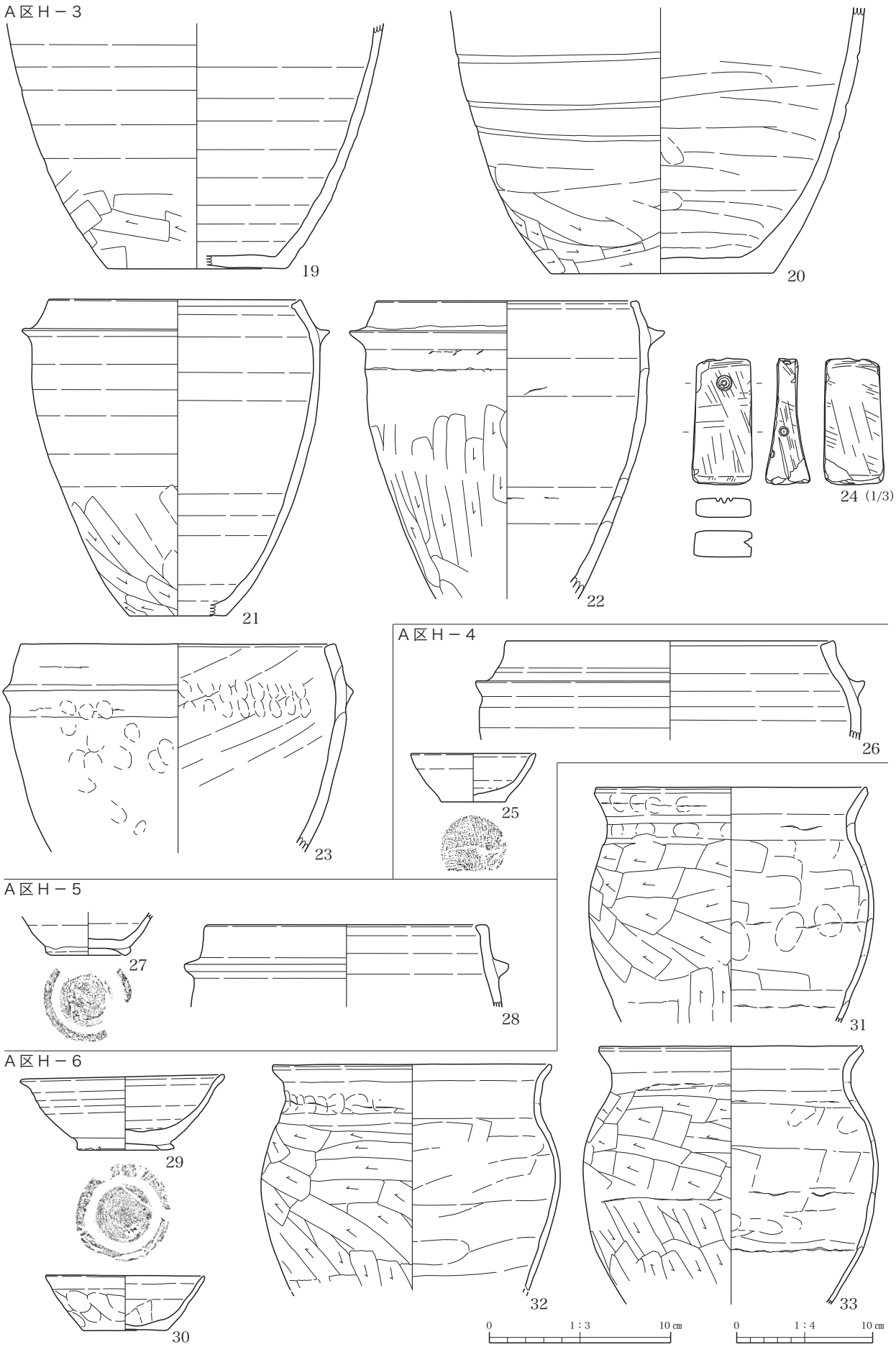
B区1号畠
1　にぶい黄橙色（10YR7/4）

0　1：60　2m

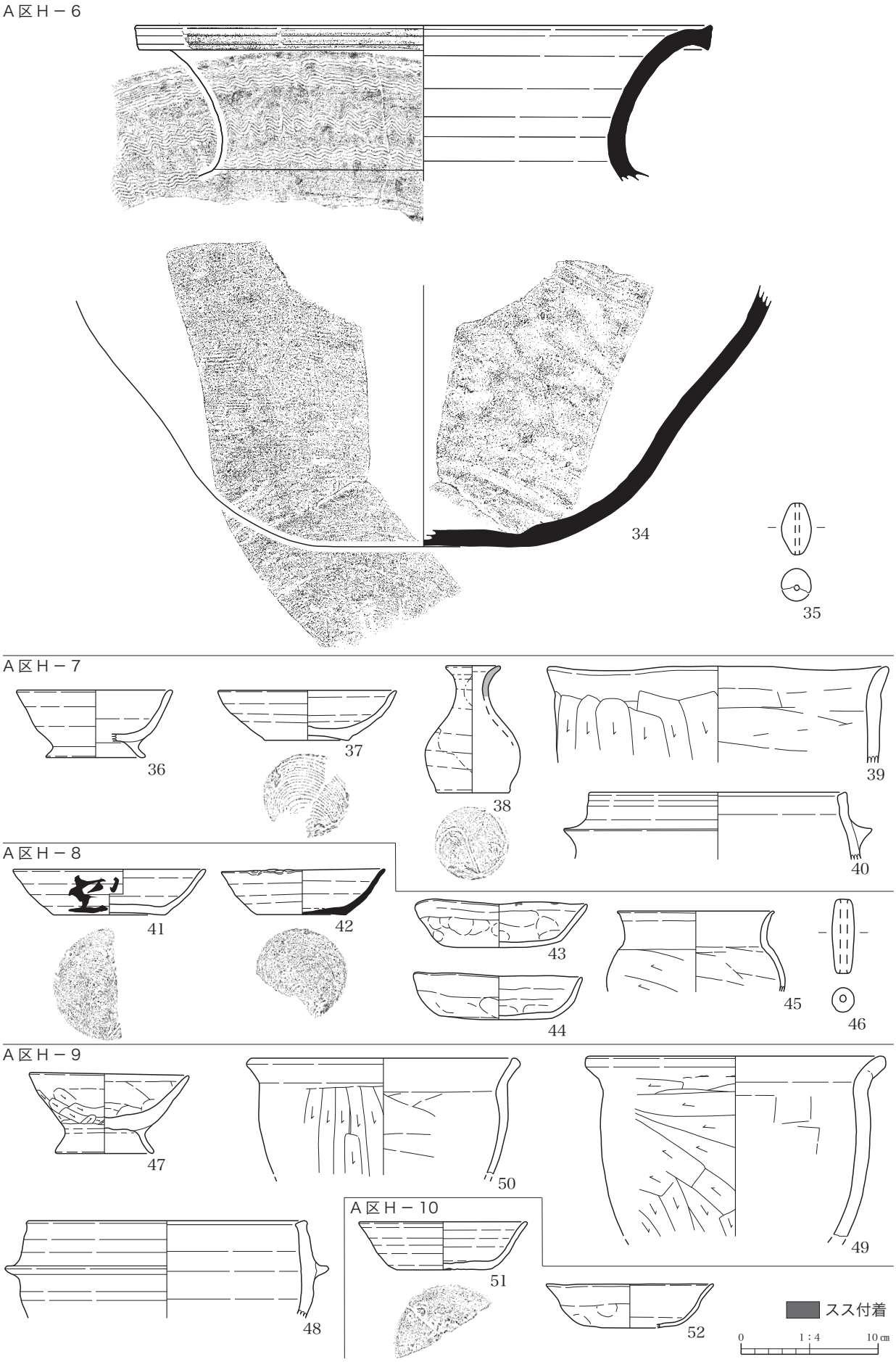
第24図　A区I−3号井戸跡、B区1号畠跡



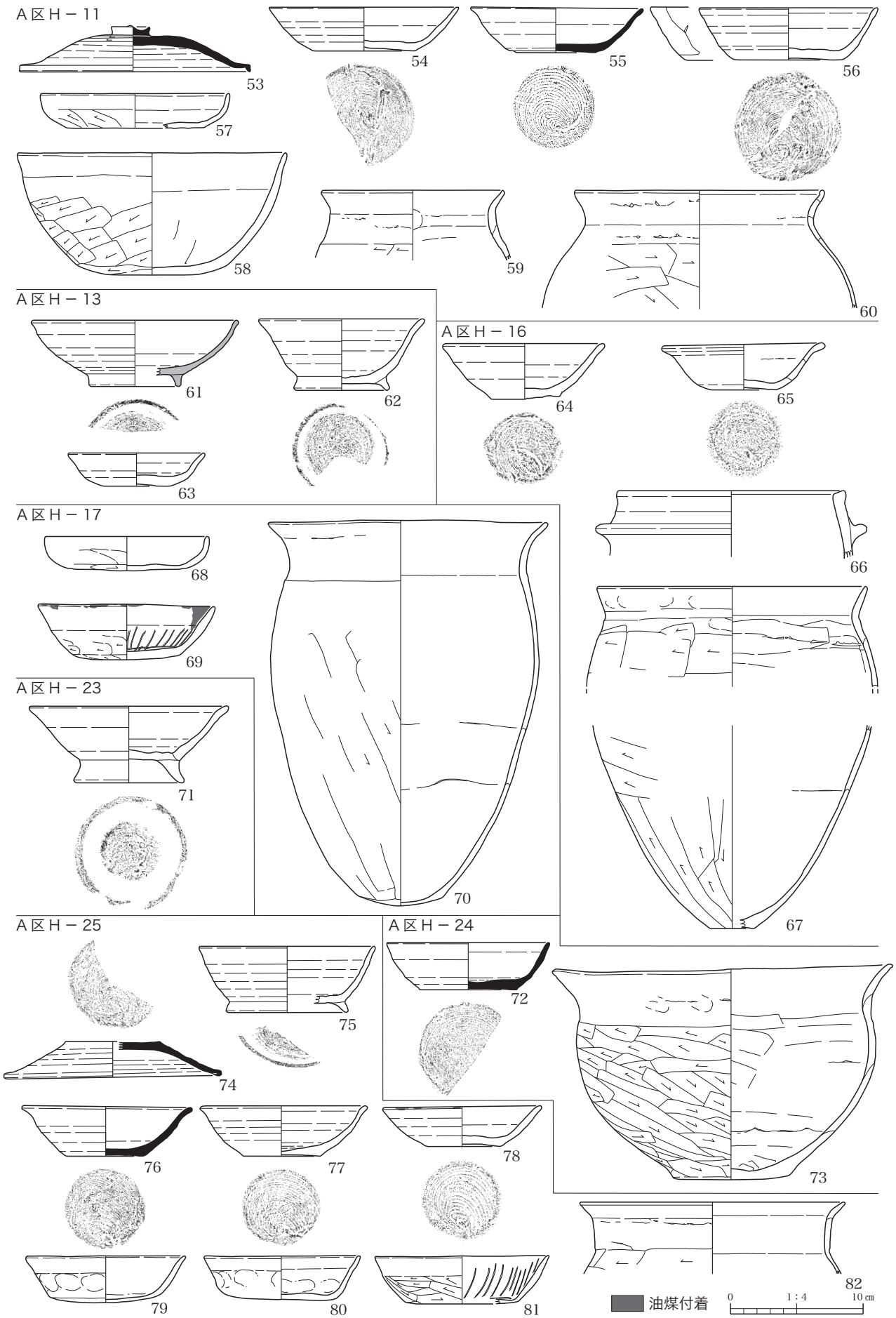
第 25 図　A 区 H－1～3 号住居跡出土遺物



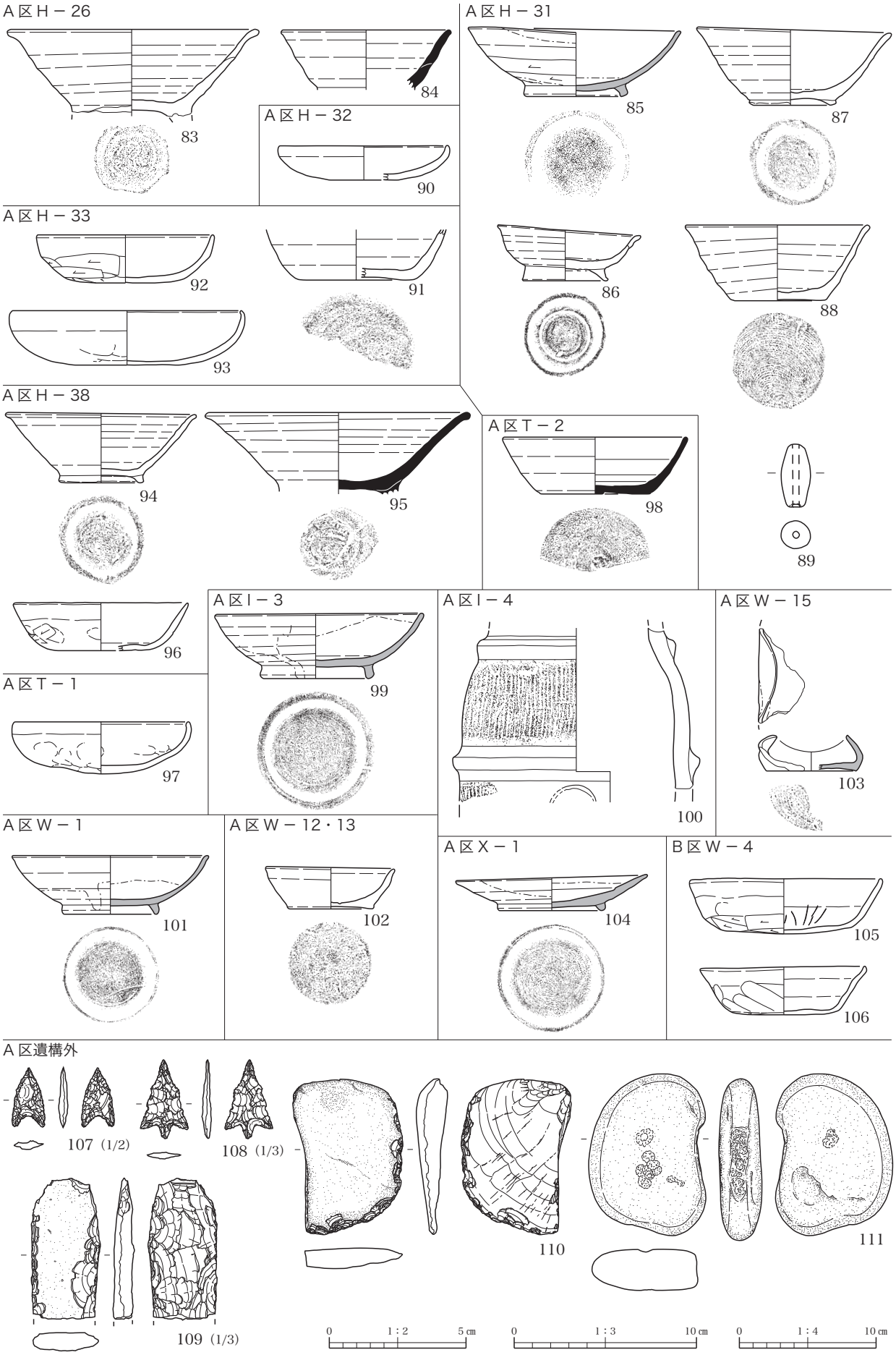
第26図　A区H−3〜6号住居跡出土遺物



第 27 図　A 区 H－6～10 号住居跡出土遺物



第28図　A区H－11・13・16・17・23～25号住居跡出土遺物



第29図　A区H－26・31～33・38号住居跡、T－1・2号竪穴状遺構、I－3・4号井戸跡、W－1・12・13・15号溝跡、X－1号性格不明遺構、遺構外、B区W－4号溝跡出土遺物

第Ⅵ章　朝倉伊勢西 No.3 遺跡テフラ分析

第 1 節　はじめに

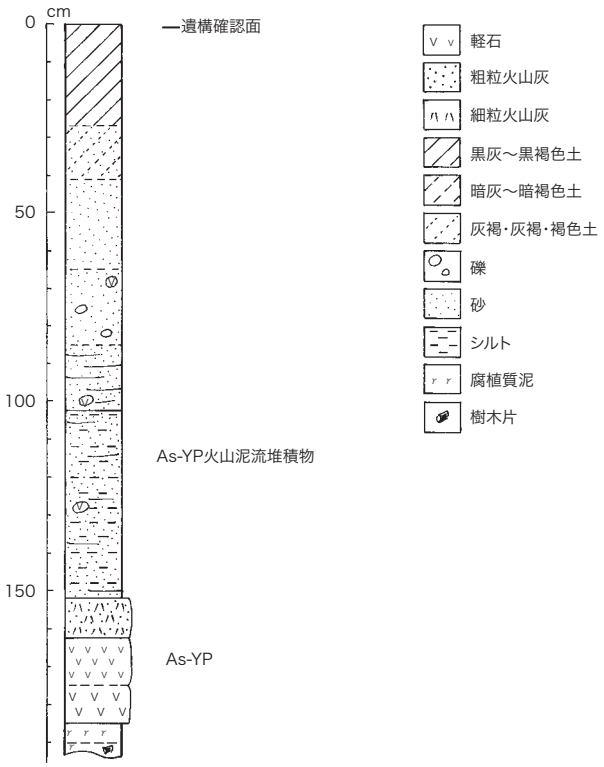
関東地方北西部に位置する前橋市域とその周辺には、赤城、浅間、榛名など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物（さいせつぶつ），いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（たとえば町田・新井，2011）などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古学的な遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

前橋市朝倉伊勢西 No.3 遺跡における発掘調査でも、層位や年代が不明な土層や遺構とともにテフラ層などが認められたことから、地質調査を実施して土層の層序やテフラ層の記載を行うとともに、高純度で分析試料を採取し、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析）を実施して、土層や遺構の層位・年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象は、A 区 I － 3 号井戸跡壁面、A 区 D － 97 号土坑、A 区 W － 1 号溝跡、A 区 W － 2 号溝跡、B 区 W － 1 号溝跡、B 区北東壁の 6 地点である。

第 2 節　土層の層序

(1) A 区 I － 3 号井戸跡壁面

A 区で検出された I － 3 号井戸跡の壁面では、下位より腐植質灰色泥層（層厚 3cm 以上）、黒褐色泥炭層（層厚 5cm）、成層したテフラ層（層厚 37cm）、層理が発達した黄灰色の砂泥互層（層厚 49cm）、円磨された黄色軽石を含む層理が発達した灰色砂層（層厚 17cm，軽石の最大径 38mm）、円磨された黄色軽石混じり褐灰色砂層（層厚 20cm，軽石の最大径 38mm）、やや褐色がかった灰色砂層（層厚 24cm）、褐灰色砂質土（層厚 14cm）、黒灰褐色土（層厚 27cm）が認められる（第 30 図）。



第 30 図　A 区 I － 3 号井戸跡壁面の土層柱状図

このうち成層したテフラ層は、下部のやや黄色がかった白色軽石層（層厚 22cm）と、上部の細かく成層した桃色砂質細粒火山灰層（層厚 15cm）からなる。下位の軽石層の下部 10cm はより粗粒で、最大径 22mm の軽石や、最大径 3mm の石質岩片を含む。このテフラ層は、層相から約 1.5 ～ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992，2003 など）に同定される。

(2) A 区 D － 97 号土坑

倒木痕の可能性がある A 区 D － 97 号土坑の断

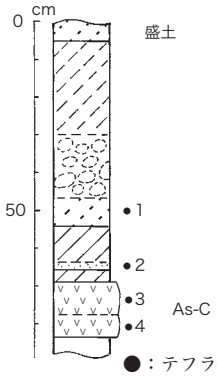
面では、下位より、かすかに成層したテフラ層（層厚 14cm）、黒褐色土（層厚 3cm）、黄色砂層（層厚 2cm）、黒褐色土（層厚 9cm）、黄灰色土（層厚 7cm）黒褐色土ブロック混じり暗灰褐色土（層厚 17cm）、灰白色軽石混じり暗灰褐色土（層厚 25cm，軽石の最大径 5mm）、盛土（層厚 23cm）が認められる（第 31 図）。このうち、成層したテフラ層は、やや細粒のわずかに褐色がかった灰色軽石層（層厚 5cm，軽石の最大径 6mm，石質岩片の最大径 2mm）と、上位の灰白色軽石層（層厚 9cm，軽石の最大径 8mm，石質岩片の最大径 2mm）からなる。

(3) A 区 W － 1 号溝跡

A 区 W － 1 号溝跡では、下位より層理が発達した灰色砂質シルト層（層厚 23cm）、褐色砂層（層厚 3cm）、かすかに成層した灰色砂質シルト層（層厚 11cm）、かすかに成層した灰色シルト層（層厚 4cm）、白色粗粒火山灰を多く含む褐灰色層（層厚 3cm）、色調がとくに暗い暗灰褐色と灰色シルトブロックを含むやや褐色がかった灰色土（層厚 37cm）からなる（第 32 図）。

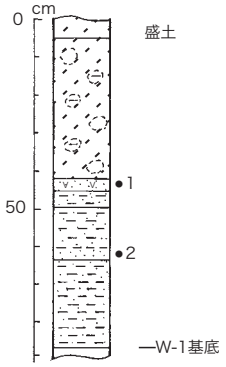
(4) A 区 W － 2 号溝跡

A 区 W － 2 号溝跡では、亜円礫混じり褐灰色砂礫層（層厚 15cm，礫の最大径 28mm）の上位に、下位より灰色泥層（層厚 15cm 以上，礫の最大径 28mm）、灰色泥層（層厚 14cm）、黒灰色泥層（層厚 1cm）、砂混じり灰色泥層（層厚 10cm）、灰色シルト質砂層（層厚 12cm）、褐灰色砂質シルト層（層厚 4cm）、黄灰色シルト層（層厚 3cm）、黒泥層（層厚 0.3cm）、黄灰色シルト層（層厚 0.3cm）、成層したテフラ層（層厚 15.2cm）、青灰色細粒火山灰ブロック混じり暗灰色土（層厚 4cm）、やや暗い灰色土（層厚 8cm）、灰色粗粒火山灰混じりでやや暗い灰色土（層厚 9cm）、灰色粗粒火山灰を多く含む灰褐色土（層厚 16cm）、上部 5cm に灰白色軽石を含むやや暗い褐灰色土（層厚 15cm，軽石の最大径 5mm）、灰色土（層厚 27cm）が認められる（第 33 図）。



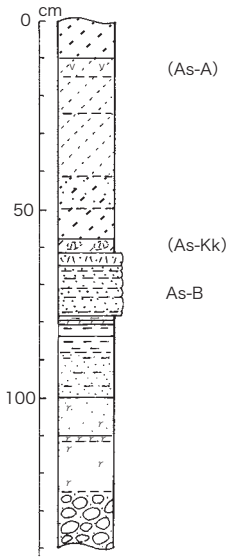
●：テフラ分析試料の層位．数字：テフラ分析の試料番号．

第 31 図　A 区 D － 97 号土坑の土層柱状図



●：テフラ分析試料の層位．数字：テフラ分析の試料番号．

第 32 図　A 区 W － 1 号溝跡の土層柱状図



●：テフラ分析試料の層位．数字：テフラ分析の試料番号．

第 33 図　A 区 W － 2 号溝跡の土層柱状図

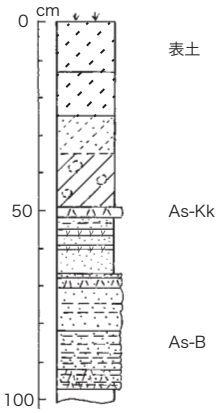
このうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚 0.2cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚 3cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、灰色がかった黄色粗粒火山灰層（層厚 3cm）、かすかに成層した灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚 3cm）からなる。このテフラ層は、層相から 1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ（As-B，荒牧，1968，新井，1979）に同定される。また、その上位の土層中にブロック状に認められる青灰色細粒火山灰は、層位や層相から 1128（大治 3）年に浅間火山から噴出した可能性が指摘されている浅間粕川テフラ（As-Kk，早田，1991，1996，2004）に同定される。

また、上位より 2 層目の褐灰色土中に含まれる灰白色軽石は、その層位や岩相から、1783（天明 3）年に浅間火山から噴出した浅間 A 軽石（As-A，荒牧，1968，新井，1979）と思われる。

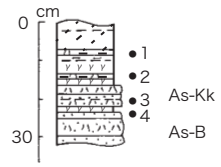
(5) B 区 W － 1 号溝跡

B 区 W － 1 号溝跡とその周辺では、下位より成層したテフラ層（層厚 24.4cm）、灰色砂層（層厚 6cm）、黒泥層（層厚 0.3cm）、灰色砂層（層厚 3cm）、黒泥層（層厚 0.3cm）、灰色砂質シルト層（層厚 3cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚 2cm）、黄灰色土ブロック混じり黒灰褐色土（層厚 14cm）、灰色粗粒火山灰混じり灰褐色土（層厚 10cm）、黄灰色土（層厚 12cm）、灰色土（層厚 13cm）が認められる（第 34 図）。

このうち、成層したテフラ層は、下位より灰色砂質細粒火山灰層（層厚 0.3cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚 0.1cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚 0.2cm）、褐色細粒軽石層（層厚 2cm，軽石の最大径 2mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）暗灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、やや灰色がかった黄色粗粒火山灰層（層厚 5cm）、かすかに成層した暗灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、かすかに成層したやや黄色がかった褐色粗粒火山灰層（層厚 4cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚 2cm）、灰白色粗粒火山灰層（層厚 0.8cm）からなる。このテフラ層は、層相から As-B に同定される。また、As-B の上位の青灰色砂質細粒火山灰層は、層位や層相から As-Kk に同定される。



第 34 図　B 区 W － 1 号溝跡の土層柱状図



●：テフラ分析試料の層位．数字：テフラ分析の試料番号．

第 35 図　B 区北東壁の土層柱状図

(6) B 区北東壁

B 区北東壁では、As-B のすぐ上位の土層をよく観察できた。ここでは、As-B 最上部を構成する桃色砂質細粒火山灰層（層厚 4cm）と灰白色粗粒火山灰層（層厚 0.6cm）の上位に、下位より暗褐色泥層（層厚 0.5cm）、成層したテフラ層（層厚 3.2cm）、黒褐色泥層（層厚 1cm）、黄色凝灰質シルト層（層厚 0.7cm）、黒褐色泥層（層厚 3cm）、黄白色凝灰質シルト層（層厚 1cm）、黒褐色泥層（層厚 0.5cm）、灰色細粒軽石混じりでやや暗い灰色土（層厚 5cm，軽石の最大径 3mm）、灰色細粒軽石を多く含む灰色土（層厚 2cm 以上，軽石の最大径 3mm）が認められる（第 35 図）。

このうち、成層したテフラ層は、下位より灰白色砂質細粒火山灰層（層厚 0.2cm）、青灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚 2cm）からなる。このテフラ層は、層相から As-Kk に同定される。

第３節　テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

Ａ区Ｄ－97号土坑、Ａ区Ｗ－１号溝跡、Ｂ区北東壁において採取したテフラ分析用試料のうちの８点を対象に、軽石やスコリア、さらに火山ガラスや遊離結晶などのテフラ粒子の特徴や量を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、テフラの検出を実施した。分析方法は次のとおりである。

1）砂分の量に応じて試料４～８ｇを電子天秤で秤量。

2）超音波洗浄装置により泥分を除去。

3）恒温乾燥器により 80℃で恒温乾燥。

4）実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表 14 に示す。検出されたテフラには次の４種類がある。

タイプ１：塊状の淡灰色や無色透明の中間型ガラス。

タイプ２：スポンジ状に良く発泡した灰白色の軽石（最大径 13.8mm）や軽石型ガラス。強磁性鉱物以外の班晶として、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

タイプ３：さほど発泡が良くない白色のスポンジ状軽石型火山ガラス。班晶鉱物として、強磁性鉱物以外に角閃石や斜方輝石を含む。

タイプ４：比較的良く発泡した細粒の淡灰色や淡褐色の軽石（最大径 2.1mm）や、淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型火山ガラス。班晶鉱物として、強磁性鉱物以外に斜方輝石や単斜輝石を含む。

第 14 表　朝倉伊勢西 No.3 遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	(不透明鉱物以外)
Ａ区Ｄ－97号土坑	1				*	md	淡灰，無色透明	opx，cpx，(am)
	2				*	pm（sp），md	白，灰白，淡灰，無色透明	opx，cpx，(am)
	3	***	灰白	13.8	**	pm（sp）	灰白	opx，cpx
Ａ区Ｗ－１号溝跡	1				(*)	pm（sp），md	白，淡灰	opx，cpx，(am)
	2				*	pm（sp）	淡灰，淡褐，褐，白，灰白	opx，cpx，(am)
Ｂ区北東壁	1				*	pm（sp）	淡灰	opx，cpx
	2	(*)	淡灰	2.1	**	pm（sp）	淡灰，淡褐，褐	opx，cpx
	3	(*)	淡褐	2.1	(*)	pm（sp）	淡灰，淡褐	opx，cpx

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，(*)：非常に少ない．
bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，sp：スポンジ状，fb：繊維束状．
opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石．重鉱物の（）は，非常に量が少ないことを示す．

第４節　考察

(1) 指標テフラとの同定

タイプ１：火山ガラスの形態や色調から、As-YP で代表される後期更新世末期の浅間火山軽石流期（荒牧，1968）のテフラに由来する可能性が非常に高い。

タイプ２：軽石や火山ガラスの岩相や班晶鉱物の組み合わせから、３世紀後半に浅間火山から噴出した浅間Ｃ軽石（As-C，荒牧，1968，新井，1979，坂口，2010）に由来すると考えられる。

タイプ３：火山ガラスの岩相や班晶鉱物の組み合わせから、古墳時代の榛名系テフラに由来すると考えられる。それらは、下位より５世紀の榛名有馬火山灰（Hr-AA，町田ほか，1984）、６世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，2011 など）、そして６世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井，1962，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，2011 など）である。Hr-FA の降灰がもっとも多いことから、降下テフラ起源の場合には、Hr-FA 起源の可能性がもっとも高い。

タイプ４：軽石や火山ガラスの岩相や班晶鉱物の組み合わせから、As-B で代表される平安（～鎌倉？）時代に浅間火山から噴出した浅間系テフラに由来すると考えられる。

(2) 指標テフラとの関係からみた特徴的な堆積物や遺構の層位

Ａ区Ｉ－３号井戸跡壁面において厚い堆積が認められた円磨された軽石を含む砂質堆積物は、地質調査により As-YP の直上にあることがわかった。伊勢崎市域では、As-YP の軽石層とそれを覆う砂質細粒火山灰層の間に火山泥流堆積物が認められており（早田，未公表）、この層位は As-YP の噴火で発生した大規模な火砕流と一致すると考えられる。今回発見された砂質堆積物は、大規模な火砕流堆積物とは若干時期を異にするものの、直上に層位があることから、火山噴火の影響で発生した火山泥流（ラハール）堆積物と考えて良い。この堆積物は、本遺跡の基盤をなすものである。

本遺跡付近から南東方向には、微高地が続いており、その上に大規模な古墳群が多く分布しているものの、これまで地形学的、自然史的背景については詳しく語られていない。今後は、As-YP 火山泥流（ラハール）堆積物の堆積地形という観点でも調査分析が行われると良い。

倒木痕跡の可能性も考えられているＡ区Ｄ－97 号土坑断面で認められた軽石層（試料３）は、層相観察とテフラ検出分析の結果から、As-C と考えられる。そのすぐ上位の砂層中からは、古墳時代の榛名系テフラが検出されており、Hr-AA 降灰以降の堆積物と考えられる。これまでの周辺遺跡での調査からは、Hr-FA または Hr-FP の噴火に伴う火山泥流（ラハール）堆積物（早田，1989，坂口，2013 など）の可能性を指摘できよう。さらに上位に認められる黄色土と直上の黒褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土に関しては、人為や倒木による可能性のほかに、層位を考えると、818（弘仁９）年地震に伴う地変に関係する可能性があるのかも知れない。

Ａ区Ｗ－１号溝跡において、指標テフラが含まれる可能性が考えられた試料２および試料１からは、As-C、古墳時代の榛名系テフラ、As-B などに由来する火山ガラスなどが検出されたものの、As-A は認められなかった。As-A 降灰後かなり時間が経った後の遺構の可能性も否定はできないが、テフラの産状からは通常 As-B と As-A の間に層位があると推定される。

Ｂ区では、As-B や As-Kk を挟在する腐植質堆積物を詳しく観察できた。分析者はこれまでも多く地点で記載しているが、As-B の最上部には、通常色調が明るい軽石質粗粒火山灰層が堆積している。その一方で、上位の As-Kk には黒色や黒灰色の多孔質の岩片が多く含まれている。As-B 主体部に多く含まれている、淡灰色や淡褐色の軽石型ガラスもわずかに含まれているものの、As-B 最上部に認められるような明色のものは認められなかった。また、As-Kk の上位の凝灰質の複数の薄層に関して、浅間火山の小規模噴火に由来する可能性を考えたが、特徴的なテフラ粒子は認められなかった。今後、今回のように As-B の上位の堆積物の状況が良い場合には、これまで知られていないテフラの有無について確かめる必要がある。なお、Ａ区Ｗ－１号溝跡、Ａ区Ｗ－２号溝跡、Ｂ区Ｗ－１号溝跡では、この As-B の堆積が認められたことから、いずれも As-B より下位の遺構と考えられる。

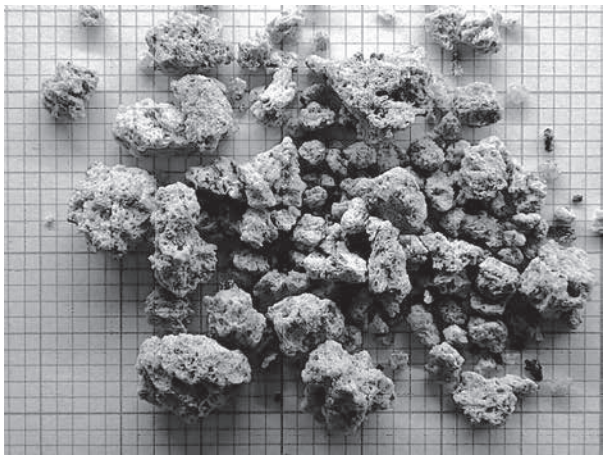


写真１　A区D－97号土坑・試料３（As-C）
やや黄色に風化した灰白色軽石を多く含む．
背景は１mmメッシュ．

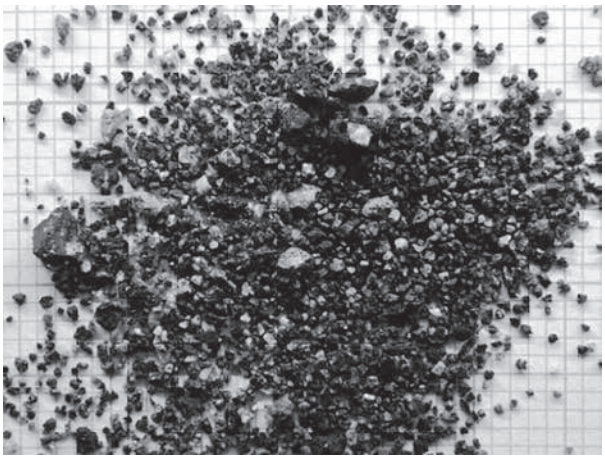


写真２　B区北東壁・試料３（As-Kk）
多孔質の黒褐色や黒灰色の岩片を多く含む．
背景は１mmメッシュ．

第５節　まとめ

前橋市朝倉伊勢西No.3遺跡において、地質調査を行って、土層層序やテフラの産状に関する記載を行うとともに、高純度で採取した試料を対象にテフラ分析（テフラ検出分析）を実施した。その結果、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，約1.5～1.65万年前）、浅間C軽石（As-C，３世紀後半）、榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA，６世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B，1108年）、浅間粕川テフラ（As-Kk，1128年）、浅間A軽石（As-A，1783年）などを検出できた。さらに、そのほかにAs-YP火山泥流堆積物や、Hr-FA火山泥流堆積物あるいはHr-FP火山泥流堆積物なども検出できた。今回の調査分析の成果は、今後、広瀬川低地沿いに分布している古墳群の立地の問題のみならず、前橋台地上の微高地の形成史解明にも参考となるものである。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.53，p.41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.14，p.1-45.

町田　洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス」．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス（第２刷）」．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦夫・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学－考古学研究と関係するテフラのカタログ．古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.

坂口　一（2010）高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向－中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係－．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡３」，p.17-22.

坂口　一（2013）榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA）・榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP）およびそれらに起因する火山泥流の堆積期間と季節に関する考古学的検討．第四紀研究，52，p.97-109.

早田　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.

早田　勉（1991）浅間火山の生い立ち．佐久考古通信，no.53，p.2-7.

早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，7，p.256-267.

早田　勉（2004）火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史－とくに平安時代の噴火について－．かみつけの里博物館編「1108－浅間火山－中世への胎動」，p.45-56.

早田　勉（2016）浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group）の層序と前橋泥流堆積物の層位．2016年度岩宿フォーラム要旨集，p.6-14.

第Ⅶ章　まとめ

今回の調査された朝倉伊勢西 No.3 遺跡は、平成 23・24 年度に調査された朝倉伊勢西 No.1・No.2 遺跡（福田・山田 2011、福田・小林 2012）の北に位置する。No.3 遺跡 A 区・B 区は概ね微高地に立地し、両区内には、No.1・No.2 遺跡より発見された低地が連続する。検出された遺構は、A・B 区合わせて竪穴住居跡 29 軒、住居跡と確定できない竪穴状遺構 5 基、土坑 103 基、ピット 104 基、井戸跡 3 基、溝跡 25 条、畠跡 1 面、性格不明遺構 10 基である。主となる調査成果としては、古代の集落と古代及び近世・近代の用水路が検出されたことが挙げられる。本章では、これらを過去の朝倉伊勢西遺跡の調査成果と併せて概観し、まとめとしたい。

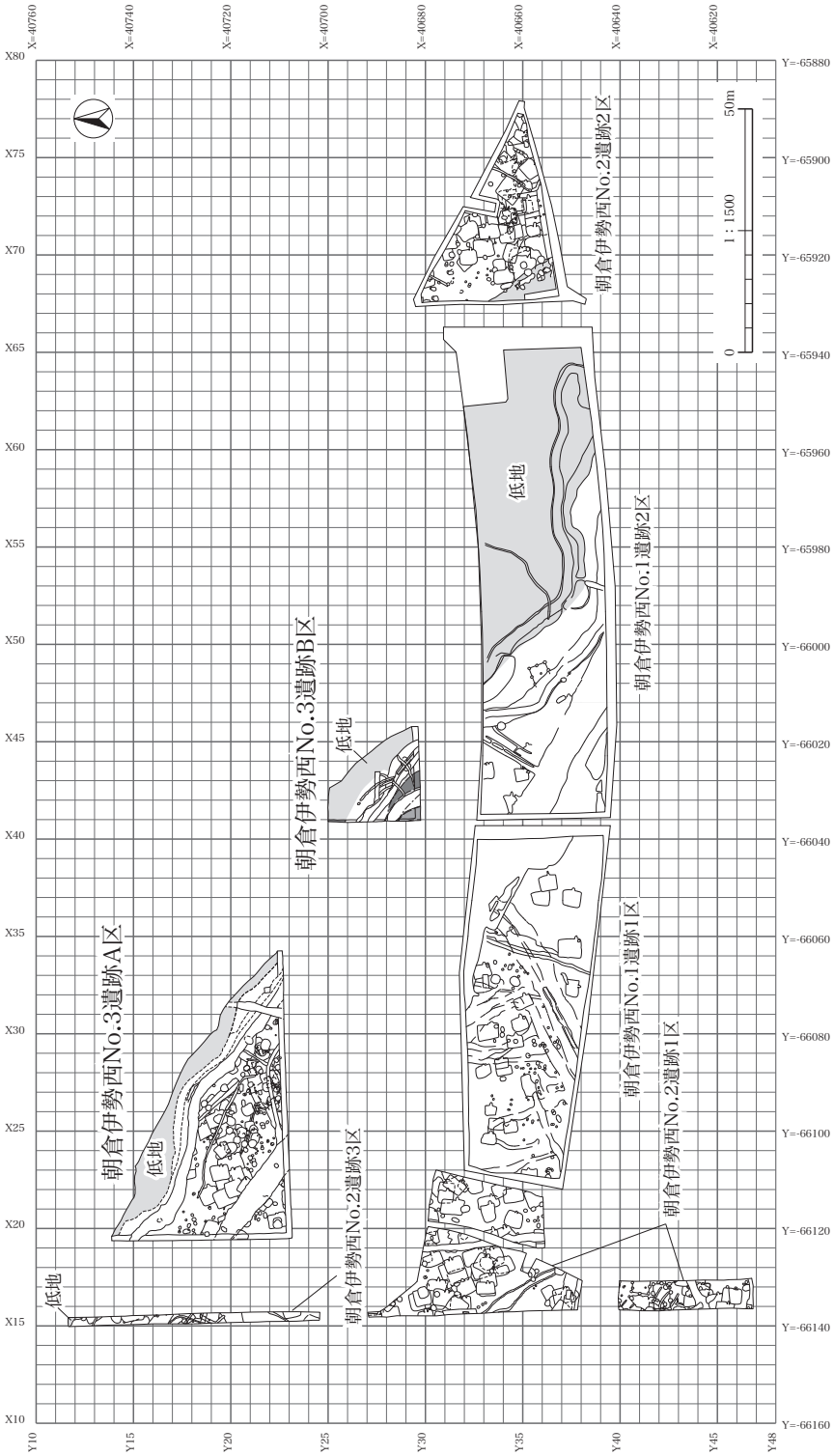
第 1 節　朝倉伊勢西遺跡における集落の様相

朝倉伊勢西遺跡における集落は、北西から南東にかけて広がる低地の両側に形成された微高地上に展開している。No.1 遺跡、および No.2 遺跡で調査された低地南西方の微高地上に展開する集落を西部集落、No.2 遺跡東区（2 区）で調査された低地東方の微高地上に展開する集落を東部集落としている（福田・小林 2012）。

西部集落は 7 世紀末から 8 世紀初頭に営まれ始め、9 世紀から 10 世紀をとおして存続し、11 世紀にて消滅する。No.2 遺跡の様相は、集落形成当初は遺跡南部及び中央部に分布の中心があり、徐々に北（No.1 遺跡及び No.2 遺跡北東・北西部）に拡大・移動する。10 世紀以降になると遺跡南部は集落域外となり、用水路と考えられる溝が構築され、As-B が降下する段階では畠となっている。

今次調査の朝倉伊勢西 No.3 遺跡で検出された住居跡群は、西部集落の北縁にあたり、No.2 遺跡 1・3 区で検出された集落に続くものとみられる（第 36 図）。集落の存続時期は 8 世紀中葉から 10 世紀後半までで、9 世紀中葉から遺構数が増加し、最盛期は 10 世紀前半である。8 世紀代の住居跡は A 区の微高地上にやや散漫に分布しているが、9 世紀代になると A 区西半に集中する傾向が看取される。10 世紀代になるとその集中は A 区中央～東半へと移動し、時期によって住居の立地に偏りがあることがわかる。なお、No.2 遺跡でも、集落が南西から北東へ、微高地中央から縁辺へと展開する様相がうかがわれる。

遺物は、奈良～平安時代の灰釉陶器・須恵器・土師器・羽釜・土釜が出土している。形態的にもっとも古く位置づけられる土器は A 区 H － 32 号住居跡で出土した土師器坏（90）で、口縁部が内湾して外面に稜を有する 8 世紀中葉のものである。その後に底部切り離し後に調整を施す H － 33 号住居跡出土須恵器坏（91）が続き、8 世紀末～ 9 世紀初頭頃の H － 24 号住居跡出土遺物（72･73）へつながる。9 世紀代は比較的出土量が豊富で、前半期では A 区 H － 8 号住居跡、H － 11 号住居跡、中葉～後半期では、A 区 H － 25 号住居跡や H － 26 号住居跡にて良好なセットをみることができる。これらの中では、9 世紀第 4 四半期頃に出現する、体部にやや丸みを持たせて低い高台を付す須恵器椀（1・29・83）の存在が特徴的である。これらに関しては次の 10 世紀前半期にも継続する（12・27・87・94）ものの、10 世紀後半には別系統の「足高高台」を持つ椀（36・47・71）にとってかわるようにもみえる。[註1] 10 世紀代の遺物では、前半期の A 区 H － 3 号住居跡出土遺物（10 ～ 24）が良好な資料として挙げられる。この住居跡からの遺物はほぼすべてカマド周辺の床面からまとまって出土しており、一括性が高い。須恵器椀（10 ～ 12）、耳皿（13）、壺（14・15）、頸部が穿孔された特異な形状の壺（16）、甕（17 ～ 20）、羽釜（21 ～ 23）とバラエティに富む。羽釜は吉井型（21・22）と、別系統のもの（23）の二種が認められる。また、未貫通穿孔された砥石（24）も出土しているが、本住居跡以外も含めて鉄製品は出土していない。このほか、灰釉陶器は少量ではあるが複数の住居跡などから出土しており、図示したものでは大原段階（85・101）のものと虎渓山段階（38・61・99・104）のものがある。[註1] No.2 遺跡でも看取されたように、



第 36 図　朝倉伊勢西遺跡全体図

土釜と羽釜の共伴事例はＡ区Ｈ－７号住居跡（39・40）とＡ区Ｈ－９号住居跡（48～50）で認められた。総じて、今次調査で住居跡から出土した遺物はNo.2遺跡での様相をほぼ踏襲しており、同一集団の集落遺跡とみて納得できる内容である。

第２節　朝倉伊勢西遺跡における用水路について

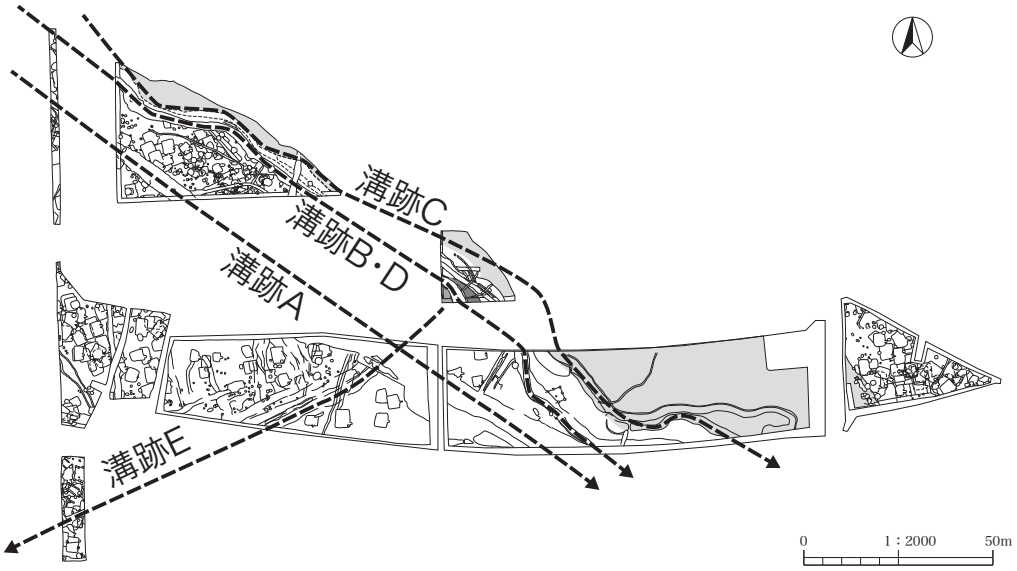
朝倉伊勢西遺跡の調査では、用水路と考えられる溝跡が複数検出されている。これらの時期は近世・近代、古代に大別される。本遺跡では調査年度及び調査区によって各々番号が付けられているため、本節では理解を容易にするために用水路と考えられる溝跡について、同一の遺構を整理し５条の溝跡に分け、溝跡Ａ～Ｅとして仮称する[註2]（第37図）。溝跡Ａ～Ｅの詳細は、下記に記す。

溝跡Ａ：No.2遺跡Ｗ－４号溝跡、No.3遺跡Ａ区Ｗ－１号溝跡が該当する。No.1遺跡では、延長線上に幅10m前後の溝状の攪乱が位置するため検出されていない。溝跡Ａは、北西から南東方向に走行する近世・近代の用水路であり、幅5m程度で複数回掘り直しが行われていたことが土層から確認できる。総検出長は45m程度であり、No.1遺跡で検出された溝状の攪乱を含めると160m程度となる。なお、No.3遺跡Ａ区Ｗ－３・６号溝跡は土層の堆積状況と覆土から、Ａ区Ｗ－１号溝跡と同時期に機能していた可能性が高い。後述するが、溝跡Ａはかつて存在した後閑堀であったと考えられる。

溝跡Ｂ：No.1遺跡２区Ｗ－２号溝跡の覆土上位の掘り直し部分、No.3遺跡Ａ区Ｗ－12号溝跡、No.3遺跡Ｂ区Ｗ－８号溝跡が該当する。また、底面直上にAs-Bの一次堆積が確認できるNo.1遺跡２区Ｗ－１号溝跡、No.3遺跡Ａ区Ｗ－２号溝跡、No.3遺跡Ｂ区Ｗ－１号溝跡は、本来その下位にある溝跡の埋没途中の窪みであったと考えられることから、本節で同一の遺構として扱う。[註3]さらにNo.2遺跡３区北端部に僅かにかかる低地も、No.3遺跡の調査成果から、低地ではなく溝跡Ｂの一部である可能性が高い。溝跡Ｂは、北西から南東に走行する古代の用水路であり、幅２～３ｍ程度、総検出長が直線距離にして190m程度を測る。覆土中位にAs-B一次堆積層があり、下位に10～20cm程度水成堆積の砂質シルト層やシルト層が堆積している。溝跡の時期は、土層の堆積状況からAs-B降下以前であるが、As-B降下段階でもある程度の掘り込みをもっていることや、As-Bより下位の水成堆積層がAs-B降下直前の洪水層である可能性もあることから、[註4]1108年から大幅な時期差はないと推定される。

溝跡Ｃ：No.3遺跡Ａ区Ｗ－13号溝跡、No.3遺跡Ｂ区Ｗ－11号溝跡が該当する。溝跡Ｃは、北西から南東に走行する古代の用水路であり、As-Bの堆積状況から溝跡Ｂより古く、断面観察から後述する溝跡Ｄより新しい。発掘調査では北側の壁面及び底面を確認できていないため、判明している規模は幅3.4m以上、確認面からの深さ1.2ｍ以上、底面標高90.43m以下である。総検出長は77m程度であり、低地と微高地の境界に走行していたと考えられる。図面による記録はないが、Ｂ区では西壁で低地と微高地の境界部において溝跡があったと推定される部分にAs-Bがレンズ状に堆積していることが確認できた（PL.7）。写真から判断できる位置関係から推察するに、Ｂ区部分の溝跡Ｃは幅4m程度であったと推定される。No.1遺跡では検出されていないが、As-Bで埋没している２区Ｗ－３号溝跡の下位に低地の縁辺部に平行して位置する古代の溝跡が存在した可能性がある。

溝跡Ｄ：No.1遺跡Ｗ－２号溝跡、No.3遺跡Ａ区Ｗ－15・16号溝、No.3遺跡Ｂ区Ｗ－9・10号溝が該当する。溝跡Ｄは、北西から南東方向に走行する古代の用水路であり、幅４～5m程度で複数回の掘り直しが行われていたことが土層観察から確認できる。[註5]総検出長は170m程度であり、溝跡Ｂ・Ｃとほぼ並走し、断面観察によって、溝跡Ｂ・Ｃより古いことが判明している。



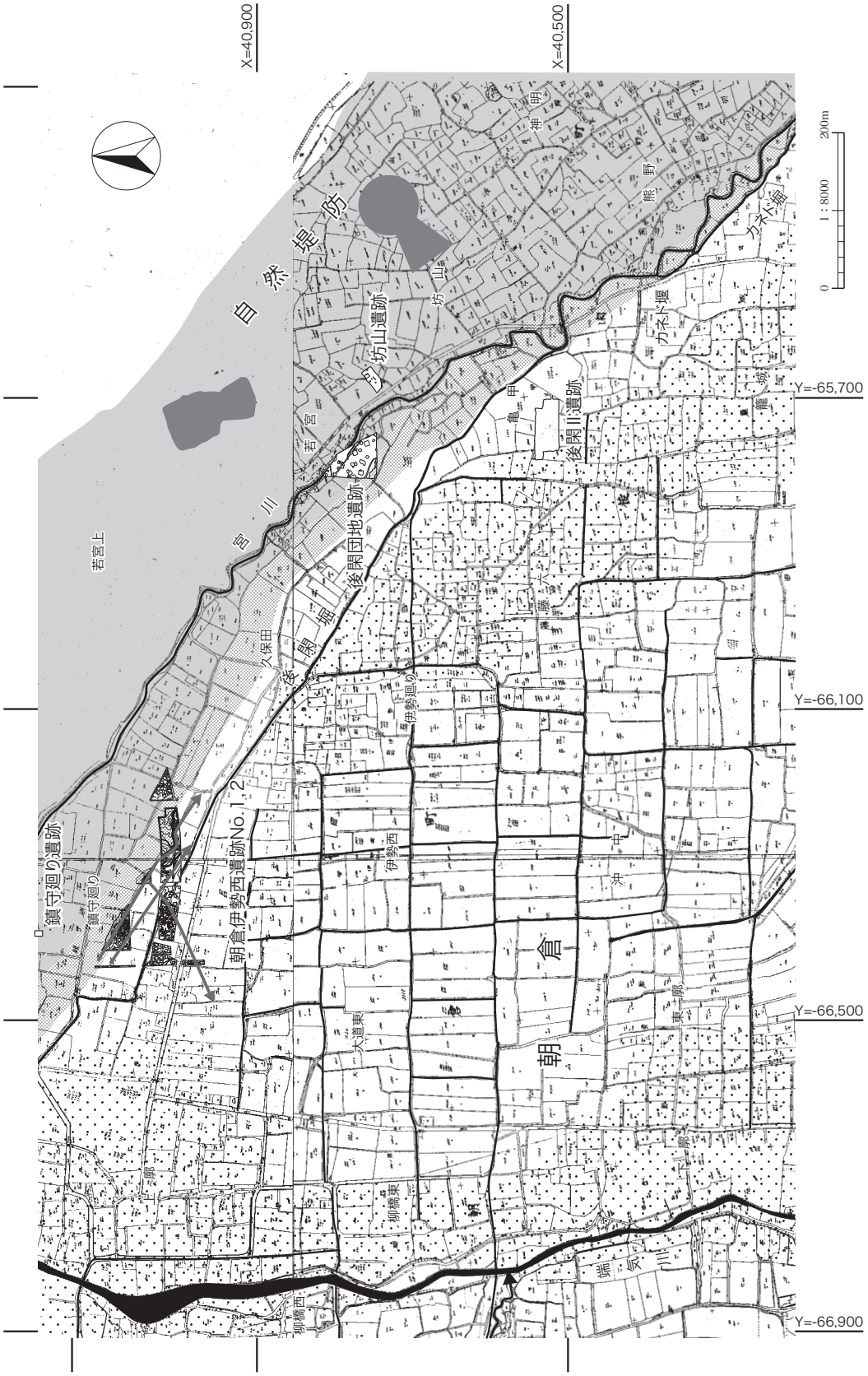
第 37 図　朝倉伊勢西遺跡における古代の用水路

溝跡 E：No.1 遺跡 1 区W－ 11・12 号溝跡のどちらかと No.2 遺跡 1 区W－ 1 号溝跡が該当する。溝跡 A ～ D と異なり、北東から南西方向に走行する古代の用水路であり、走行方向から溝跡 C・D のどちらかから取水していたと考えられる。幅 2 ～ 3 m程度で総検出長が 95m 程度を測り、遺跡南西部において堰が構築されていたことが判明している。[註6] 溝跡 E は 9 世紀第 2 四半期の住居跡の覆土上から掘削され、覆土から虎渓山段階と考えられる灰釉陶器皿が出土している。さらに As-B 降下時には完全に埋没しており、As-B 前後に耕作された畠跡の耕作土に被覆されていることを考えると、溝跡 E の時期は 9 世紀後半から 11 世紀代と考えられる。

朝倉伊勢西遺跡で検出された用水路の時期は、溝跡 A が近世･近代、それ以外は古代である。溝跡 B の時期は、前述したように 1108 年から大幅な時期差はないと考えられる。溝跡 C ～ D は重複関係があり、新しい方から溝跡 B → C → D となる。溝跡 C・D の時期は、トレンチ掘削の際、覆土から 9 ～ 10 世紀代の遺物が出土していることから、9 世紀以降 1108 年以前と考えられる。溝跡 E は重複関係や出土遺物から年代が最も時期がはっきりしており、9 世紀第 2 四半期以降に開削されたと考えられる。位置関係から溝跡 E は溝跡 C・D から取水していたと考えられ、時期的に齟齬がない。

朝倉伊勢西遺跡中央に位置する北西から南東に向かって広がっている低地は、広瀬川の自然堤防と自然堤防に平行する形で細長く延びる微高地との境界に位置する。低地は、これまでの調査成果によると、1108 年段階では河川の氾濫や増水の影響を受けやすい環境にあり、湿地のような状態であったと考えられる（福田・山田 2011）。[註7] 本遺跡では、低地と前述の微高地の縁辺部に 9 世紀後半以降用水路が開削され、複数回の掘り直しを経て、1108 年に近い時期まで機能していたと考えられる。この微高地上では、本遺跡と後閑Ⅱ遺跡において古墳時代後期から奈良・平安時代の集落が調査されており、[註8] 朝倉伊勢西遺跡の集落と用水路は、一時併存していた可能性が考えられる。なお、今回、調査の最終段階で B 区の調査区西壁の延長上に深掘りトレンチを掘削している（PL.7）。すぐに崩落したため図面などの記録はとれていないが、低地の下位には谷地形又は旧河道が存在した可能性がある。[註9]

近世・近代においても、古代と同様、低地との境界、微高地の縁辺部に用水路が流下している。第 38 図は、昭和 40 年に作成された群馬県耕地課作成前橋南部地形図に、本遺跡及び周辺の遺跡の調査区をいれたものである。[註10] この地形図からは、昭和 40 年代の土地改良および区画整理以前の周囲の状況が観察できる。現宮川用水はまだ開削されておらず、現在も道路として痕跡が残る宮川のほか、地割としても残存していない後閑堀が北西か



＊『朝倉・後閑水田遺跡』（藤坂・前田 他 2015）第 25 図を転載、一部改変

第 38 図　朝倉伊勢西遺跡周辺の旧地形図

ら北東に流れていたことがみてとれる。配置から、No.1 遺跡 1・2 区において北西から南東方向に溝状に位置する攪乱は後閑堀であると考えられる。後閑堀は、本遺跡付近で地割に沿って不自然に屈曲しているが、延長線上に溝跡 A が位置することから、後閑堀は本来直線的に走行していた可能性が高い。また、1948 年に撮影された米軍写真や 1975 年に国土地理院が撮影した航空写真から、この後閑堀が本来直線的に走行していたことを示唆するソイル・マークを確認することができる。

昭和 40 年代に造成された現在の宮川用水に、蛇行しながらもほぼ平行する形で古代の用水路および近世・近代の用水路が検出されたことは、土地改良や区画整理によって日々景観が異なっていく現代においても、当時の土地利用が踏襲されていることが感じられる。

末文になりましたが、株式会社エーコープ関東には発掘調査に対して多大なるご理解・ご協力を頂きました。前田和昭氏からは資料提供を受け、本遺跡周辺の用水路や No.1 遺跡の発掘調査についてご教授頂きました。また三浦京子氏からは遺物について、早田勉氏からは地質関係について、それぞれご教示頂きました。記して感謝を申し上げます。

《註》

註 1： 三浦京子氏のご教示による。

註 2： 走行方向や規模、確認面や覆土の堆積状況などから同一遺構と判断するが、調査区が接していないことと、溝跡 C・D に関しては発掘調査が断面調査のみであることなどから、判断が誤認である可能性も含まれる。

註 3： No.1 遺跡 2 区 W － 1 号溝跡は、No.1 遺跡 2 区 W － 2 号溝跡の埋没段階の溝跡の時期差を示していることが報告書でも指摘されている（福田・山田 2011）。本節では No.1 遺跡 2 区 W － 2 号溝跡について、他の調査区で検出された溝跡との底面標高を考慮し、覆土上位にみられる掘り直し部分のみを溝跡 B と判断して扱う。

註 4： 朝倉町付近には、As-B 直下の洪水堆積物がみとめられる場合があることを早田勉氏にご教示頂いた。

註 5： No.3 遺跡の事実記載において、底面標高や位置の違いから別番号を付けているが、本節では理解を容易にするため同一遺構として扱う。

註 6： 溝跡 E に直交する No.2 遺跡 1 区 W － 6 号溝跡は堰として機能していたと考えられ、同事例が前橋市大屋敷遺跡、伊勢崎市（旧境町）矢ノ原遺跡、太田市（旧新田町）北宿・観音前遺跡において調査されている（福田・小林 2012）。

註 7： 朝倉・後閑水田遺跡の報告書では、朝倉伊勢西 No.1・2 遺跡で検出された低地を、当時のこのような環境下で用水路として利用していたと考え「大溝」として呼称している。

註 8： 中近世の朝倉環濠遺構群、後閑環濠集落、山王環濠集落も、配置から同一の微高地上に立地している可能性がある（第 2 図）。

註 9： 現在においても、自然堤防内を流下してきた宮川が、本遺跡から約 500m 南東付近に位置する矢田堰からこの低地内を流路としている（藤坂・前田他 2015）。

註 10： 原図は『朝倉・後閑水田遺跡』第 25 図（藤坂・前田他 2015）である。前田和昭氏に資料提供を受け、一部改変した。

《引用・参考文献》

荒川隆史・加藤 学 他　1999　新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集　上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ
『和泉 A 遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鵤木晋一　1983「後閑遺跡」前橋市教育委員会
梅澤重昭　1987「前橋台地」『日本の古代遺跡 16　群馬東部』株式会社保育社
坂口 一・三浦京子　1986「奈良・平安時代の土器の編年―住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討―」
『群馬県史研究』24　群馬県史編さん委員会
桜岡正信　1990「ロクロ使用酸化焔焼成甕について―群馬県内の実態把握を目的として―」『研究紀要』7
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
桜岡正信　1991「7 世紀以降の土師器坏の画期とその要因について」『群馬考古学手帳』2
桜岡正信　2003「月夜野型羽釜の生産と流通―地域限定流通の背景―」『研究紀要』21（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
桜岡正信　2009「古代東北と上野―捉えにくい地域間交流―」『古代社会と地域間交流』国士舘大学考古学会
高橋正男・前原 豊　1986『鎮守廻り遺跡』前橋市教育委員会
早田 勉 他　1990「第五節 前橋台地と広瀬川低地帯」『群馬県史』通史編 1 原始古代 1 群馬県史編さん委員会
永井智教　2016「古代上野国の条里と水路―前橋・高崎台地の調査事例を中心に―」『地域考古学』1 号　地域考古学研究会
林喜久夫　1983『後閑団地遺跡』前橋市教育委員会
林喜久夫　1984『後閑Ⅱ遺跡』前橋市教育委員会
福田瑞穂　1984『坊山遺跡』前橋市教育委員会
福田貫之・和久拓照　2011『朝倉工業団地遺跡群』前橋市教育委員会
福田貫之・山田誠司　2011『朝倉伊勢西 No.1 遺跡』前橋市教育委員会
福田貫之・小林朋恵　2012『朝倉伊勢西 No.2 遺跡』前橋市教育委員会
藤坂和延・前田和昭・岡野 茂　2015『朝倉・後閑水田遺跡』前橋市教育委員会・技研コンサル株式会社
前原 豊・秋池 武・飯島義雄　2001「利根川からの引水遺構である「女溝」の意義」『群馬文化』266 群馬県地域文化研究協議会
三浦京子　1988「群馬県における平安時代後期の土器様相―灰釉陶器を中心にして―」『群馬の考古学』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
綿貫邦男・神谷佳明・桜岡正信　1992「群馬県における灰釉陶器の様相について（1）―消費地からのアプローチ―」
『研究紀要』9　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

写　真　図　版

朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区 全景 上が北

A 区 H － 1 号住居跡 西から

A 区 H － 4 号住居跡 南西から

A 区 H － 5 号住居跡 南西から

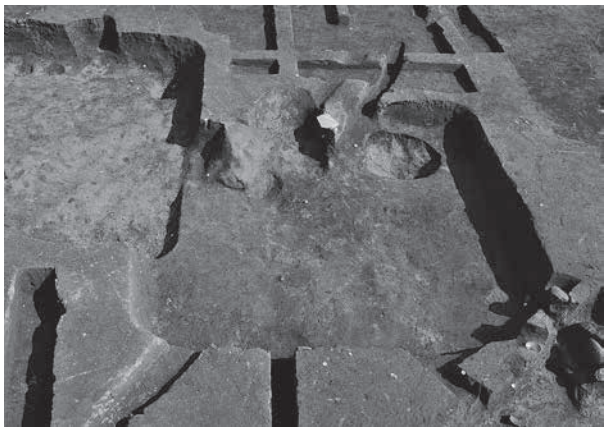
A 区 H － 5 号住居跡遺物出土状況 南西から

A 区 H － 3 号住居跡 西から

A 区 H － 3 号住居跡カマド 西から

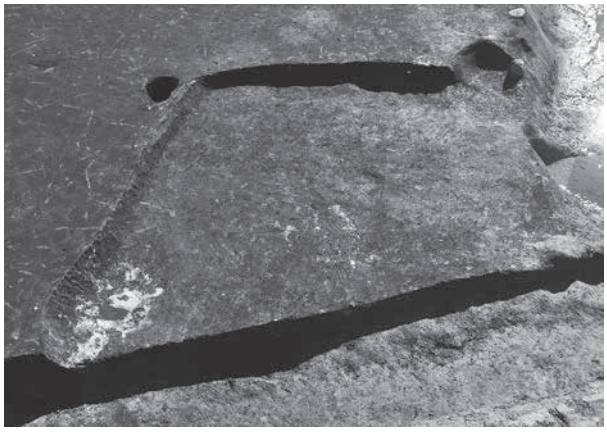
A 区 H － 3 号住居跡遺物出土状況 西から

A 区 H － 3 号住居跡 カマド遺物出土状況 西から



A 区 H － 6 号住居跡 西から

A 区 H － 6 号住居跡遺物出土状況 西から



A 区 H － 7b 号住居跡 西から

A 区 H － 8 号住居跡 西から

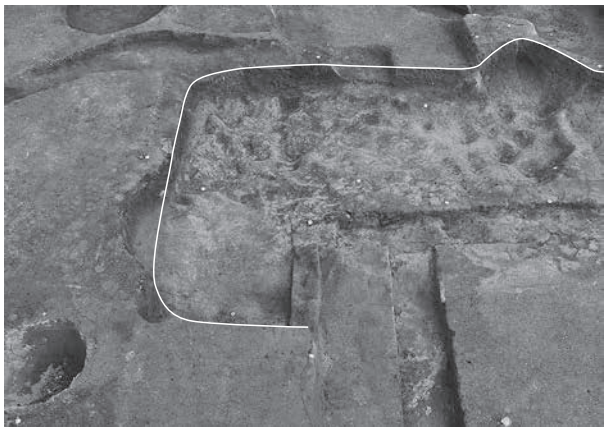
A 区 H － 9 号住居跡 西から

A 区 H － 10 号住居跡 西から

A 区 H － 13 号住居跡 西から

A 区 H － 16 号住居跡 西から

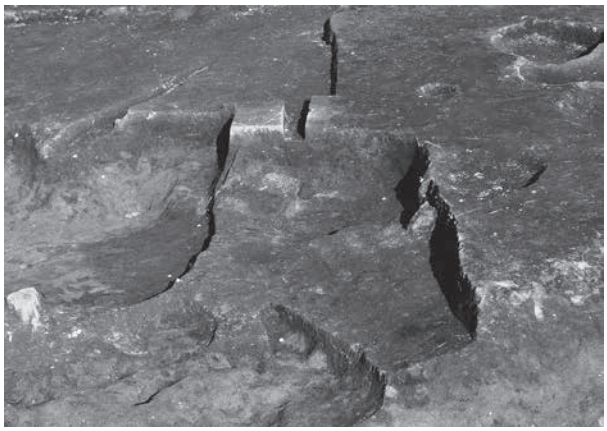
A 区 H － 16 号住居跡カマド遺物出土状況 西から



A 区 H － 17 号住居跡掘り方 西から

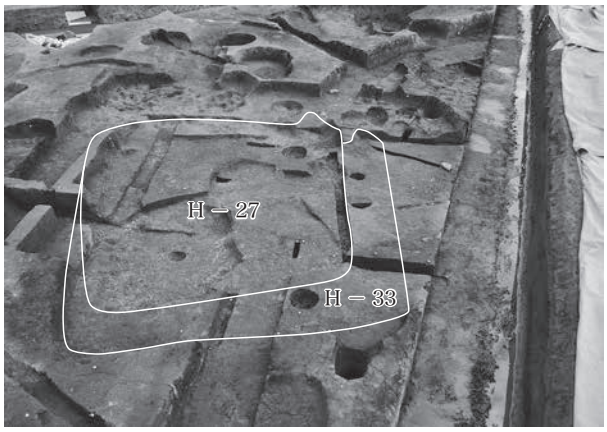
A 区 H － 17 号住居跡カマド 西から

A 区 H － 17 号住居跡カマド遺物出土状況 西から



A 区 H － 25 号住居跡 南西から

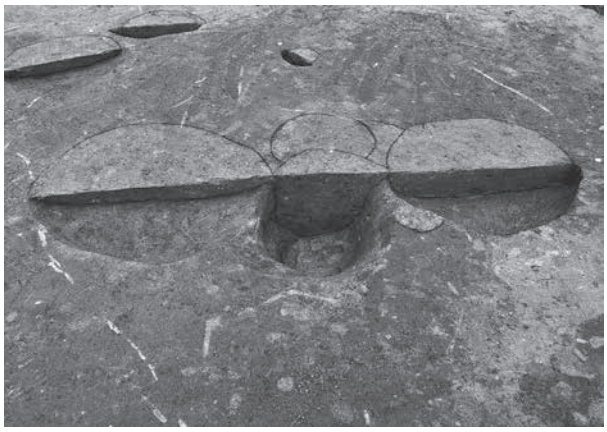
A 区 H － 25 号住居跡遺物出土状況 南西から



A 区 H － 27・33 号住居跡 西から

A 区 H － 31 号住居跡遺物出土状況 南から

A 区 H － 38 号住居跡遺物出土状況 西から



A 区 D － 3・4・5 号土坑断面 南東から

A 区 D － 14 号土坑 南から

A 区 D － 2・76・77 号土坑断面 南から

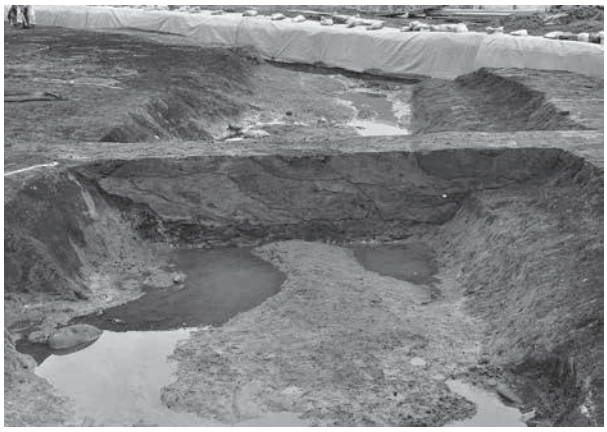
A 区 I － 3 号井戸跡 北から

A 区 I － 3 号井戸跡断割り 北から

A 区 I － 4 号井戸跡 西から

A 区 I － 6 号井戸跡 西から

A 区 W － 1 号溝跡 南東から

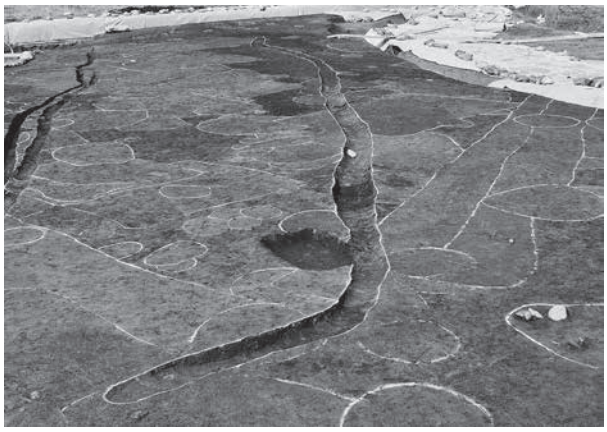


A 区 W － 1 号溝跡断面 北西から

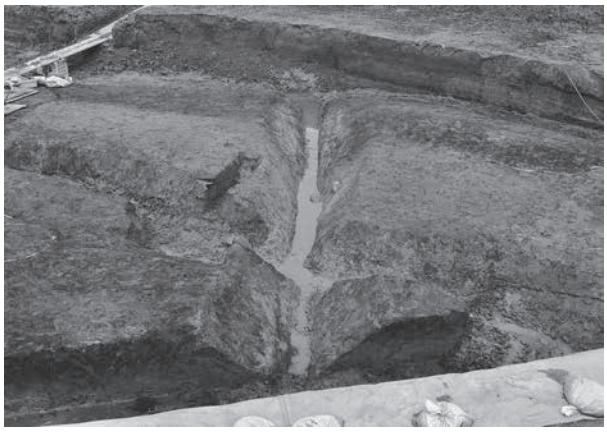
A 区 W － 2・12・15・16 号溝跡断面 北から

A 区 W ー 2 号溝跡断面 南東から

A 区 W － 3 号溝跡 南東から



A 区 W － 4 号溝跡 東から

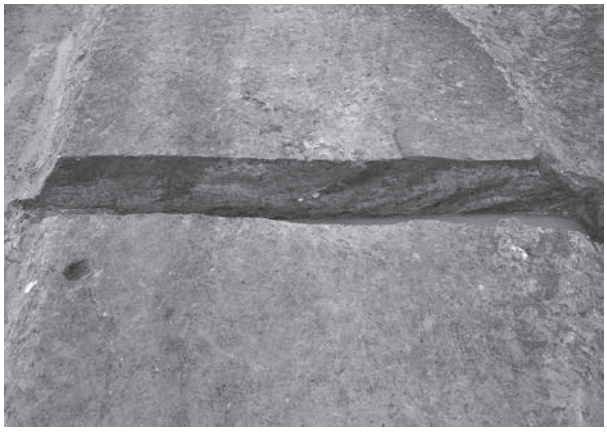


A 区 W － 5 号溝跡 南から

A 区 W － 5 号溝跡断面 北から

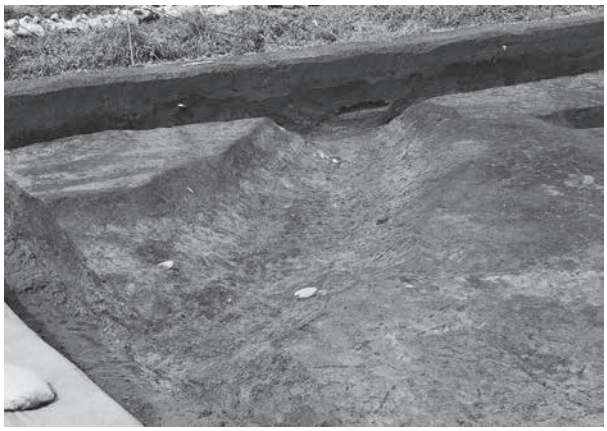
A 区 W － 9・10 号溝跡 北西から

A 区 W － 12・13・15・16 号溝跡断面 N 南東から



A 区 W － 12・13・15・16 号溝跡断面O 東から

朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 全景 上が北

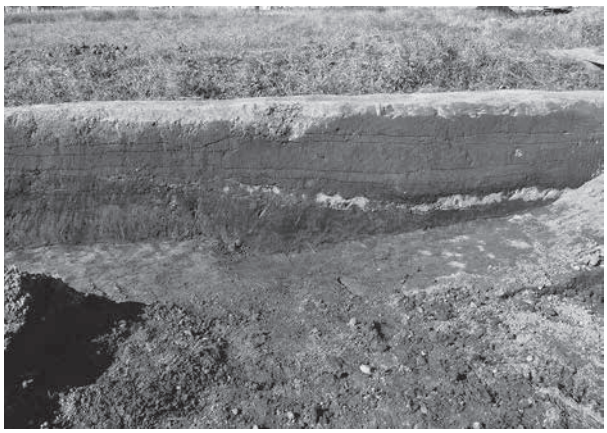


B 区 W － 1 号溝跡 南東から

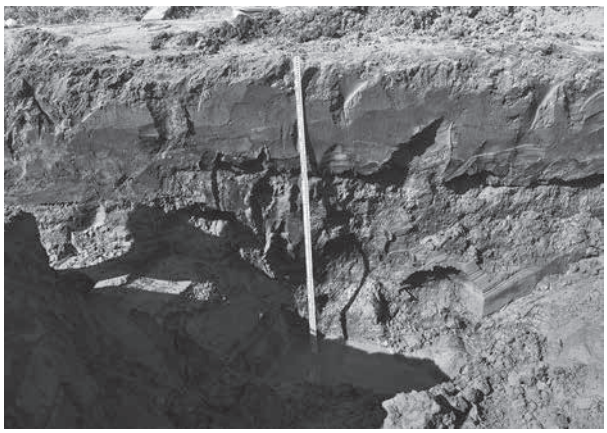
B 区 W － 4・5・6 号溝跡 南東から

B 区 W － 4・5・6 号溝跡断面 東から

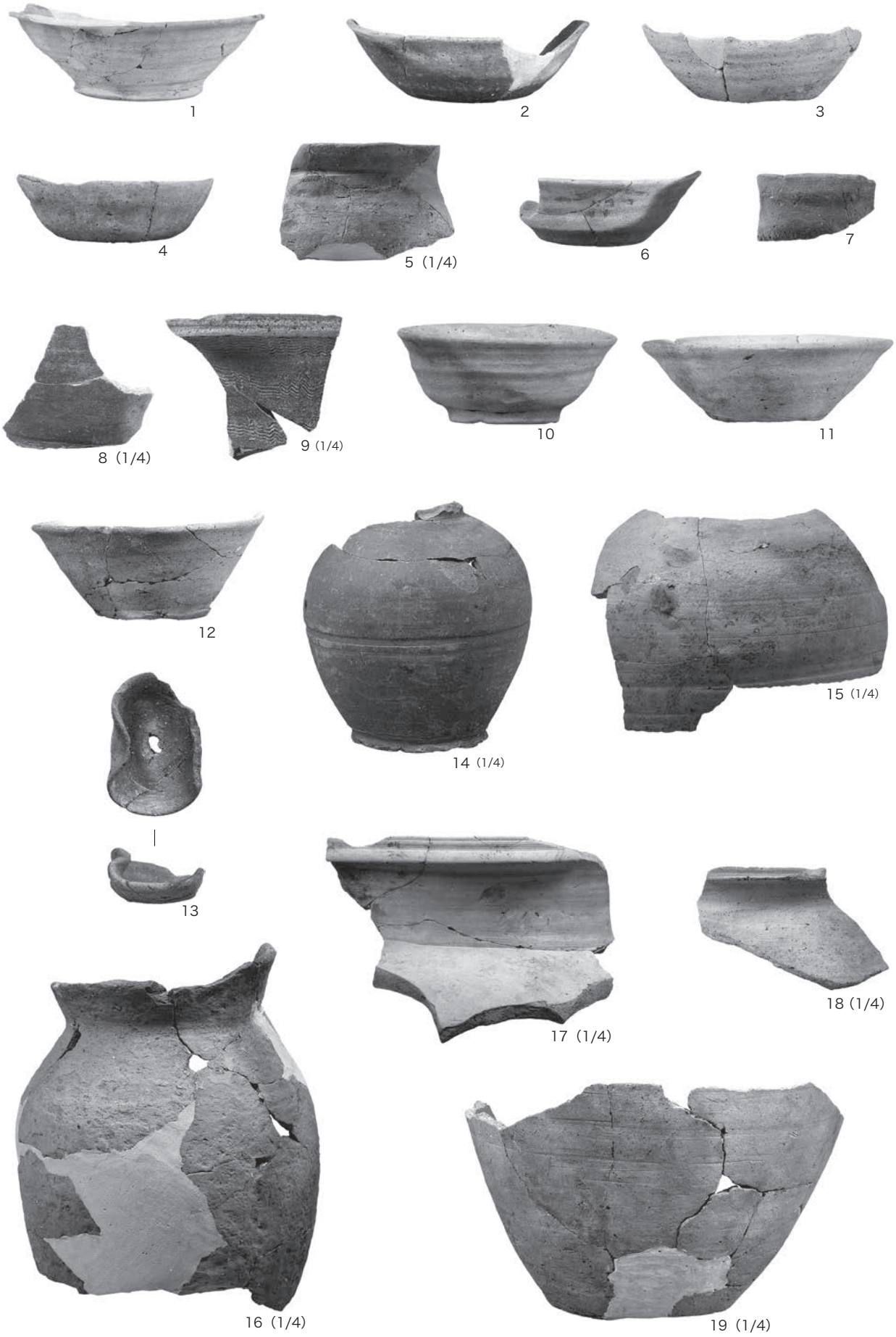
B 区 1 号畠跡完掘 南から



B 区 W － 11 号溝跡断面 東から



B 区 深掘りトレンチ西壁 東から



出土遺物（1）

20（1/4）
21（1/4）
25
26（1/4）
23（1/4）
27
28（1/4）
22（1/4）
24
29
30
31（1/4）
34（1/4）
32（1/4）
35
33（1/4）

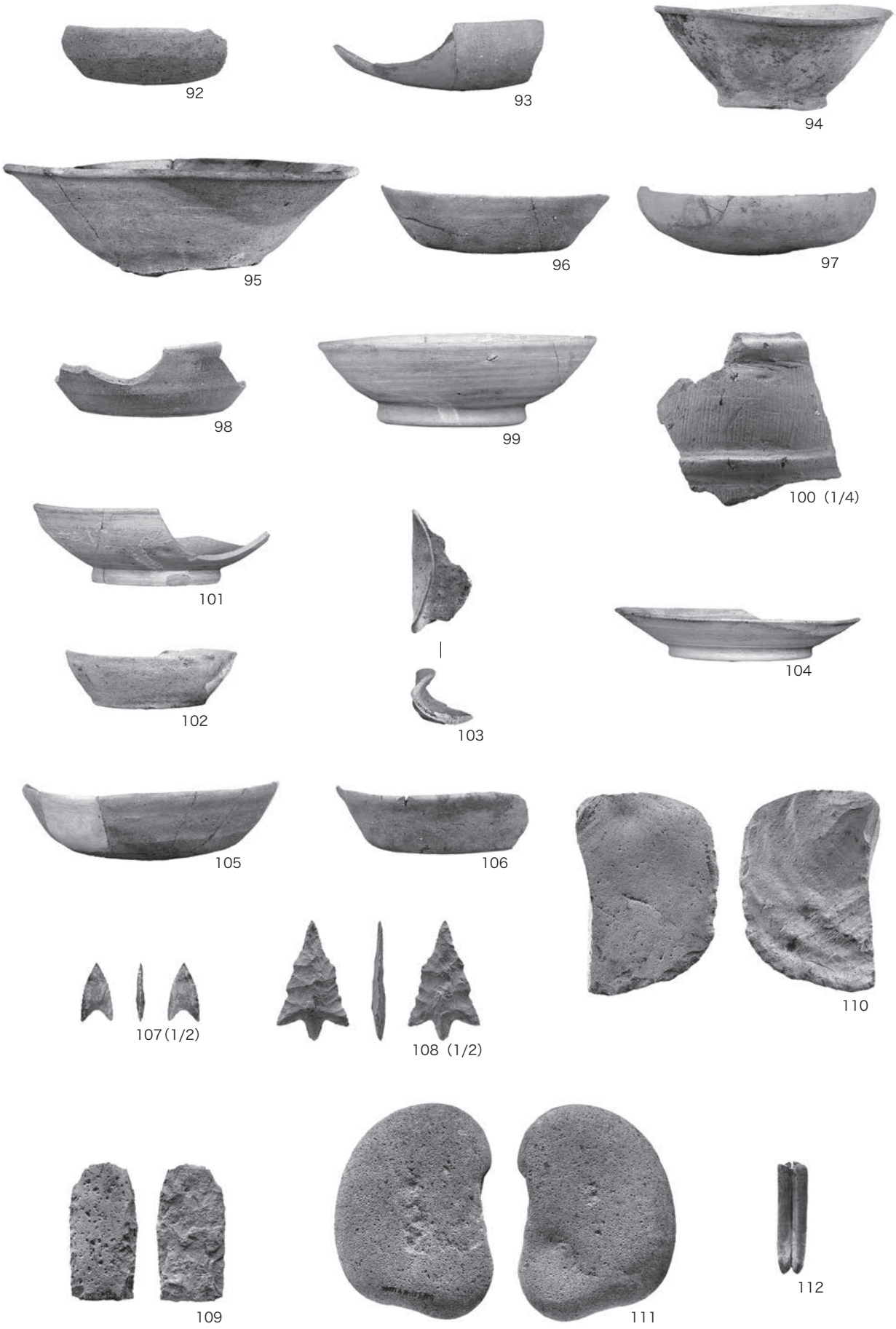
出土遺物（２）

36
37
39（1/4）
38（1/4）
40（1/4）
41
42
43
44
45（1/4）
46
47
48（1/4）
49（1/4）
50（1/4）
51
52
53
54
55
56
58
59（1/4）
57
60（1/4）
61
62
63
67（1/4）
64
65
66（1/4）
68

出土遺物（3）

69
70（1/4）
71
72
74
73（1/4）
75
76
77
78
79
80
81
82（1/4）
83
84
85
86
87
88
89
90
91

出土遺物（4）


92
93
94
95
96
97
98
99
100（1/4）
101
102
103
104
105
106
107(1/2)
108（1/2）
110
109
111
112

出土遺物（5）

報　告　書　抄　録

フリガナ	アサクライセニシナンバー３イセキ
書名	朝倉伊勢西№３遺跡
副書名	店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	小峰 篤　北村和穂　小林朋恵　福嶋正史　渡邉絵里
編集機関	前橋市教育委員会
所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町三丁目 11 番地４　TEL 027－280－6511
発行年月日	2017 年８月 28 日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		日本測地系		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経	北緯	東経			
アサクライセニシ 朝倉伊勢西 ナンバー3イセキ №３遺跡	グンマケンマエバシシアサクラマチ 群馬県前橋市朝倉町 143-1、144-1、 145-1、145-4、 146-1、147-2、 160-1、161-1、162	10201	28 G71	36° 21′ 53″	139° 05′ 48″	36° 22′ 05″	139° 05′ 36″	2016.9.1 ～ 2016.11.8	1,582㎡	店舗建設 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
朝倉伊勢西 №３遺跡	包蔵地 集落 ・ 生産	古代	竪穴住居跡	29 軒	灰釉陶器	奈良・平安時代の集落
			竪穴状遺構	５基	須恵器	古代の用水路
			土坑	103 基	土師器	
			ピット	104 基	羽釜・土釜	
			井戸跡	３基	土製品	
			溝跡	20 条	石製品	
			畠跡	１面	埴輪	
			性格不明遺構	10 基	獣歯	
		近世・近代	溝跡	５条		近世・近代の用水路
要約	今回の調査では、古代の集落と用水路が検出された。検出された竪穴住居跡の時期は８世紀初頭から 10 世紀後半であり、既に No.1・２遺跡で調査されている７世紀末から 11 世紀まで存続した集落の一部であると考えられる。また、低地との境界、微高地の縁辺部には古代及び近世・近代の用水路が検出された。古代の用水路は９世紀後半以降に開削され、複数回の掘り直しを経て、1108 年に近い時期まで機能していたと考えられる。近世・近代の用水路は、かつて存在した後閑堀であると考えられる。					

朝倉伊勢西№３遺跡

店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷　平成 29 年８月 25 日

発行　平成 29 年８月 28 日

発行　前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371－0853　群馬県前橋市総社町三丁目 11 番地４
TEL 027－280－6511

編集　株式会社シン技術コンサル
〒370－1135　群馬県佐波郡玉村町板井 311－1
TEL 0270－65－2777

印刷　細谷印刷有限会社
〒372－0031　群馬県伊勢崎市今泉町２－939－5
TEL 0270－25－0193